intra-mart

The Power for Enterprise Web Solution

intra-mart WebPlatform/
AppFramework

アドミニストレータガイド

Ver 6.1

株式会社 NTTデータ イントラマート

❖ 変更履歴

変更年月日	変更内容
2007/07/31	Ver6.1 初版
2007/08/31	『1.5.1 [ログイングループ]タブ』を修正 『1.7.2 新規ページの作成』を修正 『1.9 ラウンドロビン機能の利用』を修正 『1.8.5 Server Managerのログ』を修正 『1.8.10 Service Platformのログ』を修正 『1.10 HttpSessionのフェールオーバ』を修正 『1.12 定義ファイルの設定方法』を削除 『1.12 設定ファイル、初期化ファイル』を追加 『1.13.1 標準で利用可能なログ』を修正 『1.13.2 ServicePlatformで利用できるログ』を削除 『1.13.2 intra-mart HttpServerのアクセスログ』を追加 『1.13.4 JavaEE開発モデルでのログの利用』を修正 『1.14 データとプログラムのバックアップ』を削除 『2.2.1 [ログイングループ]タブ』を修正 『2.5.10 アクセスセキュリティ新機能』を削除 『2.6.2 新規ページの作成』を修正 『2.7 アプリケーションの登録』を修正 『2.10.1.2 intra-martホーム画面に表示されるポータル』を修正 『3.4.1.2 intra-martホーム画面に表示されるポータル』を修正
2007/09/10	『2.8.4 アプリケーション共通マスタインポート・エクスポート』タイトルを修正
2007/10/19	『2.10.1 ポータルの種類と作成メニュー』内の誤記を修正 『2.13.3 各種設定』を追加 『2.13.3.1 CSV出力実行時のパフォーマンスチューニング』を追加 『3.4.1 ポータルの種類と作成メニュー』内の誤記を修正
2008/01/31	『2.5.3 ユーザの登録（アカウント情報とプロファイル情報）』内の誤記を修正 『2.7.2 アプリケーション登録の操作』内の誤記を修正 『2.8.1.6 組織構成の変更－1：新規に組織構成を作成する』内の誤記を修正 『2.9 アプリケーション共通マスタunitの利用-2』内の誤記を修正 コラム 『Googleガジェットをポータルに表示する』内の誤記を修正 『2.13.1.1 クエリの新規作成』内の誤記を修正 『3.6.1.3 「あかさたな」検索』内の誤記を修正 『3.10.1 イベントナビゲータを実行する』内の誤記を修正 『3.11.2 携帯端末でログインしてモバイルパスワードを変更する』内の誤記を修正 『4.1 メンテナンス画面の文字入力制限』にパスワードフィールドの説明を追加
2008/05/30	『2.13.3.2 Null値の出力』の説明を追加
2008/07/31	『2.5.5 その他のアクセス権限（組織・役職・パブリックグループ）の設定』の説明を修正 『2.6.2 新規ページの作成』の[組織]タブ、[パブリックグループ]タブの説明を修正 『2.13.2.10 権限設定』の組織、パブリックグループの説明を修正
2008/10/31	『2.7.2 アプリケーション登録の操作』内の誤記を修正 『2.10.6 リンク集の作成（リンク集ポートレットの設定）』に制限事項を追加
2009/03/27	『2.13.1.1 クエリの新規作成』内の＜抽出条件を設定する＞型の説明を追加 『2.13.1.3 クエリの編集』に制限事項を追加 『2.13.3.3 CVS出力時のエンコードの設定』の説明を追加 『2.13.3.4 HTML出力時の出力件数の設定』の説明を追加
2009/09/30	『1.8.11.7 Serialization 』の誤植を修正 『2.13.2.9 HTML出力』の注意事項を追加 『2.13.3.1 CSV出力実行時のパフォーマンスチューニング』の設定項目を変更 『2.13.3.5 CSV出力時の出力件数の設定』の説明を追加 『3.8.1.4 HTML出力』の注意事項を追加 ドキュメント内にある「オフィシャルグループ」という用語を「パブリックグループ」に修正しました。
2010/07/30	『2.5.3 ユーザの登録と削除（アカウント情報とプロファイル情報）』にユーザの削除方法を追記。 『2.8.1.6 組織構成の変更－1：新規に組織構成を作成する』 の画像内の説明を修正

『2.8.1.7 組織構成の変更－2：組織構成期間をコピーして作成する』の画像内の説明を修正
『2.8.1.11 部署の削除』の説明を修正
『2.10.3 ポートレットとして登録』の誤植を修正
『2.10.6 リンク集の作成（リンク集ポートレットの設定）』の誤植を修正
『2.12.1 カレンダーデータの追加』の第何週の説明を修正
『2.13.1.10 インポート/エクスポート』のJDBCドライバの説明を修正
『3.4.3 組織内ポータル』の誤植を修正
『3.11.3 かんたんログインの設定をする』の説明を修正
『3.11.4 外出設定をする』の説明を修正
コラム『ログイングループの削除』を追加
『2.5.8 アクセスセキュリティのインポート』 標準ファイルはXML形式であることを追記
『2.5.9 アクセスセキュリティのエクスポート』 標準ファイルはXML形式であることを追記

Contents

第1章　システム管理者編 10

1.1 システム管理者の業務とログイン 11

1.1.1 システム管理者の業務 11

1.1.2 システム管理者のログイン 12

1.1.3 ホーム画面 13

1.1.4 システム管理者のメニュー 13

1.1.5 intra-martからのログアウト 13

1.1.6 2重ログイン防止機能 16

1.1.6.1 2重ログイン防止機能を有効にする 17

1.1.6.2 セッションの無効化の操作 17

1.2 データベース設定（マルチデータベース） 18

1.2.1 データベース設定の操作 18

1.3 システム管理者設定 19

1.4 ライセンス 20

1.5 ログイングループの設定 21

1.5.1 ［ログイングループ］タブ 21

1.5.1.1 メインページパターンの追加 22

1.5.2 ［ログイングループ管理者］タブ 23

1.6 ログイングループライセンス 26

1.7 管理メニュー設定 27

1.7.1 新規フォルダの作成 27

1.7.2 新規ページの作成 28

1.7.3 フォルダやページの更新と削除 29

1.7.4 フォルダやページの表示順の変更 29

1.8 IM-Administrator 31

1.8.1 IM-Administratorの起動と終了 31

1.8.2 メニューの説明 32

1.8.3 Service Platformの起動 32

1.8.4 パスワードの変更 33

1.8.5 Server Managerログ 33

1.8.6 ラウンドロビン 34

1.8.7 Service Platform 35

1.8.8 パフォーマンス表示 35

1.8.9 Httpサーバ 36

1.8.10 Service Platformログ 36

1.8.11 Service Platform画面の設定項目 37

1.8.11.1 共通設定 37

1.8.11.2 JavaVM 38

1.8.11.3 JavaVMのログ 39

1.8.11.4 Application 40

1.8.11.5 Permanent 42

1.8.11.6 Storage 43

1.8.11.7 Serialization 43

1.8.11.8 Schedule 44

1.8.12 パフォーマンス表示 45

1.8.12.1 JavaVM memory 45

1.8.12.2 client request 46

1.8.12.3 network connection 47

1.8.13 コマンドによるサーバの制御 48

1.8.13.1 コマンドの一般書式 48

1.8.13.2 実行例 49

1.9 ラウンドロビン機能の利用 50
1.10 HttpSessionのフェールオーバ 51
1.10.1 メモリ to メモリ方式 51
1.10.2 メモリ to RDB方式 51
1.11 LDAPとの連携 52
1.11.1 LDAP連携の設定 52
1.11.2 LDAP認証機能 53
1.11.2.1 他社認証システムとの連携 53
1.11.2.2 実装例 54
1.12 設定ファイル、初期化ファイル 56
1.12.1 設定ファイル「conf/imart.xml」 56
1.12.1.1 ユーザ定義の設定ファイル「＊.ini」 56
1.12.2 初期化ファイル「pages/src/init.js」 56
1.13 ログ出力機能 57
1.13.1 標準で利用可能なログ 57
1.13.2 intra-mart HttpServerのアクセスログ 57
1.13.3 他社Application Serverを使用している場合のログの利用 57
1.13.4 JavaEE開発モデルでのログの利用 58
1.14 ファイル操作 59
1.14.1 ツリーでディレクトリ選択時 59
1.14.2 ツリーでファイル選択時 59
1.15 データベース操作 60

第2章 ログイングループ管理者編 62

2.1 ログイングループ管理者の業務とログイン 63
2.1.1 ログイングループ管理者の業務 63
2.1.2 ログイングループ管理者でのログイン 63
2.1.3 ホーム画面 65
2.1.4 intra-martからのログアウト 65
2.1.5 2重ログイン防止機能 66
2.1.5.1 セッションの無効化の操作 67
2.2 ログイングループの設定 69
2.2.1 ［ログイングループ］タブ 69
2.2.1.1 メインページパターンの追加 70
2.2.2 ［ログイングループ管理者］タブ 70
2.3 アカウントライセンスの設定 72
2.3.1 特定のアカウントを検索して設定する 72
2.3.2 アカウントをまとめて表示させて設定する 73
2.4 アプリケーションロールの設定 74
2.4.1 特定のアカウントを検索して設定する 74
2.4.2 アカウントをまとめて表示させて設定する 75
2.5 アクセスセキュリティの管理 76
2.5.1 intra-martのアクセスセキュリティの考え方 76
2.5.2 ロールの設定 77
2.5.3 ユーザの登録と削除（アカウント情報とプロファイル情報） 79
2.5.3.1 ユーザの新規登録 79
2.5.3.2 ユーザの削除 89
2.5.4 フォルダ/ページへのアクセス権限の設定 92
2.5.5 その他のアクセス権限（組織・役職・パブリックグループ）の設定 92
2.5.6 ロール別アカウント一覧 93
2.5.7 アクセスコントローラ 95

2.5.7.1 アクセスコントローラを作成する 96
2.5.8 アクセスセキュリティのインポート 99
2.5.9 アクセスセキュリティのエクスポート 100
2.6 メニュー設定 103
2.6.1 新規フォルダの作成 103
2.6.2 新規ページの作成 106
2.6.3 新規ページ（外部URL）の作成 110
2.6.4 フォルダやページの更新と削除 110
2.6.5 フォルダやページの表示順の変更 110
2.6.6 ロール別にメニューを設定する 111
2.7 アプリケーションの登録 113
2.7.1 フォルダとページ 113
2.7.2 アプリケーション登録の操作 114
2.8 アプリケーション共通マスタunit 115
2.8.1 組織の設定［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］ 115
2.8.1.1 組織の期間管理 116
2.8.1.2 「部署の期間」と「組織構成の期間」 116
2.8.1.3 「部署の期間」と「組織構成の期間」の関係 117
2.8.1.4 組織設定画面の構成 118
2.8.1.5 会社の新規登録 120
2.8.1.6 組織構成の変更ー1：新規に組織構成を作成する 124
2.8.1.7 組織構成の変更ー2：組織構成期間をコピーして作成する 129
2.8.1.8 組織構成を削除する 132
2.8.1.9 部署の属性登録 133
2.8.1.10 部署への所属および役職情報の設定 140
2.8.1.11 部署の削除 143
2.8.1.12 会社の削除 143
2.8.1.13 組織設定時のメッセージ一覧 144
2.8.2 役職の設定 145
2.8.3 パブリックグループの設定 148
2.8.4 アプリケーション共通マスタインポート・エクスポート 148
2.9 アプリケーション共通マスタunitの利用-2 151
2.9.1 商品マスタの特徴 151
2.9.1.1 商品の期間化 151
2.9.1.2 商品属性情報とテンプレート 152
2.9.1.3 商品の分類と管理 152
2.9.1.4 取扱情報 153
2.9.2 商品設定 153
2.9.3 商品テンプレート設定 157
2.9.4 商品カテゴリ設定 159
2.9.5 取扱設定 163
2.9.6 商品マスタのインポート 168
2.10 ポータルの設定と操作 169
2.10.1 ポータルの種類と作成メニュー 170
2.10.1.1 ログイン画面に表示されるポータル 170
2.10.1.2 intra-martホーム画面に表示されるポータル 171
2.10.2 ポートレット用ページの作成 172
2.10.3 ポートレットとして登録 172
2.10.4 全ログイングループに公開するグローバルポータル 179
2.10.5 会社・組織で情報を共有するグループポータル 183
2.10.6 リンク集の作成（リンク集ポートレットの設定） 186
2.10.7 メニューリンクの作成 189

2.11 バッチ管理の操作 193
2.11.1 バッチプログラムの作成と登録 193
2.12 カレンダーの設定 196
2.12.1 カレンダーデータの追加 196
2.12.2 カレンダー設定の新規追加 198
2.13 ViewCreator 199
2.13.1 クエリメンテナンス 200
2.13.1.1 クエリの新規作成 201
2.13.1.2 テーブルの操作 210
2.13.1.3 クエリの編集 214
2.13.1.4 クエリのコピー 215
2.13.1.5 クエリの削除 217
2.13.1.6 SQLの表示 218
2.13.1.7 Viewの作成 219
2.13.1.8 プレビュー 222
2.13.1.9 一般ユーザにクエリ/データ参照の作成権限を与える 223
2.13.1.10 インポート/エクスポート 225
2.13.2 データ参照メンテナンス 226
2.13.2.1 データ参照の新規作成 227
2.13.2.2 データ参照の編集 239
2.13.2.3 データ参照の削除 240
2.13.2.4 ポートレットに追加 241
2.13.2.5 ソースの出力 243
2.13.2.6 データ参照表示の種別 244
2.13.2.7 データ参照表示 248
2.13.2.8 CSV出力 251
2.13.2.9 HTML出力 252
2.13.2.10 権限設定 253
2.13.2.11 SQLの表示 258
2.13.2.12 プレビュー 259
2.13.3 各種設定 263
2.13.3.1 CSV出力実行時のパフォーマンスチューニング 263
2.13.3.2 Null値の出力 264
2.13.3.3 CVS出力時のエンコードの設定 264
2.13.3.4 HTML出力時の出力件数の設定 265
2.13.3.5 CSV出力時の出力件数の設定 265
2.14 TableMaintenance 266
2.14.1 テーブルを管理する 267
2.14.1.1 テーブルを追加する 267
2.14.1.2 一般ユーザにテーブルの編集権限を与える 272
2.14.1.3 テーブルの設定を変更する 272
2.14.1.4 テーブルをメンテナンス対象から削除する 274
2.14.2 データを編集する 276
2.14.2.1 テーブルにデータを追加する 276
2.14.2.2 テーブルのデータを編集する 278
2.14.2.3 テーブルのデータを削除する 282
2.15 イベントナビゲータ 284
2.15.1 イベントナビゲータの作成 285
2.15.1.1 イベントフローの新規登録 285
2.15.1.2 イベントナビゲータを編集する 288
2.15.1.3 遷移先が［質問］の場合 292
2.15.1.4 遷移先が［結果］の場合 292

2.15.1.5 回答項目の移動とコピー 295
2.15.2 インポートとエクスポート 296

第3章　一般ユーザ編 298

3.1 intra-martへのログインとログアウト 299
3.1.1 一般ユーザのログイン 299
3.1.2 intra-martからのログアウト 300
3.1.3 パスワードの変更 300
3.1.4 2重ログイン防止機能 302
3.2 intra-martのメニュー構成と基本画面 303
3.2.1 メニューの表示 303
3.2.2 intra-martのホーム画面 304
3.2.3 ロケール設定 305
3.2.4 メインページパターン設定 305
3.2.5 カラーパターン設定 306
3.2.6 メニューフォルダ表示の設定 306
3.3 マイメニューの利用 308
3.3.1 マイメニューの設定 308
3.4 ポータルの利用 311
3.4.1 ポータルの種類と作成メニュー 312
3.4.1.1 ログイン画面に表示されるポータル 312
3.4.1.2 intra-martホーム画面に表示されるポータル 313
3.4.2 ユーザポータルの作成 314
3.4.3 組織内ポータル 318
3.4.4 ポータルの表示順序の変更 321
3.4.5 簡易SSO 322
3.5 プライベートグループの利用 324
3.5.1 プライベートグループの新規登録と編集 324
3.6 検索の操作 328
3.6.1 ユーザの検索 329
3.6.1.1 グループから検索 329
3.6.1.2 キーワード検索 330
3.6.1.3 「あかさたな」検索 331
3.6.2 会社・組織とパブリックグループの検索 332
3.6.2.1 ツリー表示から検索 332
3.6.2.2 キーワード検索 333
3.6.3 プライベートグループの検索 334
3.6.4 ロールの検索 335
3.6.4.1 カテゴリから検索 335
3.6.4.2 キーワード検索 336
3.7 ワークフローの設定と操作 338
3.8 ViewCreator 339
3.8.1 データ参照一覧 340
3.8.1.1 データ参照表示の種別 341
3.8.1.2 データ参照表示 344
3.8.1.3 CSV出力 348
3.8.1.4 HTML出力 349
3.9 TableMaintenance 350
3.9.1 テーブルにデータを追加する 351
3.9.2 テーブルのデータを編集する 353
3.9.3 テーブルのデータを削除する 355

3.10 イベントナビゲータの利用 357
3.10.1 イベントナビゲータを実行する 358
3.10.2 お気に入り一覧 361
3.10.3 履歴一覧 361
3.10.4 履歴表示件数の管理 362
3.11 携帯端末の利用 363
3.11.1 ブラウザでログインしてモバイルパスワードを変更する 363
3.11.2 携帯端末でログインしてモバイルパスワードを変更する 364
3.11.3 「かんたんログイン」の設定をする 365
3.11.3.1 「かんたんログイン」でログインする 368
3.11.3.2 ブラウザ画面で設定を解除する 369
3.11.4 外出設定をする 370

第4章 Appendix 371

4.1 メンテナンス画面の文字入力制限 372
4.1.1 入力文字制限パターンの種類 372
4.1.1.1 ID、コード、パスワード系のフィールド（入力文字制限パターン1） 372
4.1.1.2 パスワードフィールド（入力文字制限パターン2） 372
4.1.1.3 URL、メールアドレスフィールド（入力文字制限パターン3） 373
4.1.1.4 色コード設定フィールド（入力文字制限パターン4） 373
4.1.1.5 値入力フィールド（ソートキー等）（入力文字制限パターン5） 373
4.1.1.6 名称や備考など（入力文字制限パターン6） 373
4.1.1.7 商品コード系のフィールド（入力文字制限パターン7） 373
4.1.1.8 補足事項 374
4.1.2 適用フィールド 375
4.1.2.1 バッチ設定 375
4.1.2.2 カレンダー設定 375
4.1.2.3 分類設定 375
4.1.2.4 ログイングループ設定 375
4.1.2.5 役職設定 375
4.1.2.6 会社設定 375
4.1.2.7 パブリックグループ設定 376
4.1.2.8 ロール設定 376
4.1.2.9 システム管理者設定 376
4.1.2.10 アカウント設定 376
4.1.2.11 管理メニュー設定 376
4.1.2.12 メニュー設定 376
4.1.2.13 商品設定 376
4.1.2.14 商品テンプレート設定 377
4.1.2.15 商品カテゴリ設定 377
4.1.2.16 商品取扱設定 377
4.1.2.17 ViewCreator – データ参照メンテナンス 377

intra-mart WebPlatform/
AppFramework

第1章 システム管理者編

1.1 システム管理者の業務とログイン

intra-mart Ver6.1では、ひとつのintra-martシステムを独立した複数の会社や組織などのグループで共同利用するようなASP型の活用方法（マルチシェア型アプリケーション）を取ることができます。同じハードウェアやアプリケーションを利用していながら、ロール、ユーザ、メニューそしてデータベースなどはグループごとに異なる設定で利用することができるので、各グループが個別のintra-martシステム利用している感覚で使用することができます。
intra-martでは、共同で利用するそれぞれのグループを「ログイングループ」、その管理者を「ログイングループ管理者」と呼んでいます。そして、これら「ログイングループ」や「ログイングループ管理者」を統括管理するのが「システム管理者」です。

<複数のログイングループを統括管理する「システム管理者」>

1.1.1 システム管理者の業務

システム管理者は、intra-martのデータベース設定など共通の設定管理と各ログイングループとその管理者に関する次のような管理を行います。

データベース接続設定	intra-martのデータベースの接続設定を行います。
システム管理者設定	システム管理者自身のログイン名、パスワードなどの設定を行います。
ライセンス管理	購入したライセンスの確認と、各ログイングループに対する初期データおよびサンプルデータのインポートを行います。
ログイングループ管理	ログイングループとその管理者に関する設定などの管理を行います。
管理メニュー設定	ログイングループ管理者の画面に表示するメニューに関する管理を行います。

1.1.2 システム管理者のログイン

システム管理者は、以下の手順に従ってintra-martにログインします。

1 ブラウザを起動し、下記のようにintra-martのURLを入力します。
画面上には、intra-martのログイン画面が表示されます。

```
intra-mart WebPlatform(スタンドアロン)    :http://マシンアドレス:8080/imart/system.admin
intra-mart WebPlatform(分散システム)      :Webサーバコネクタの登録内容に合わせたURL
intra-mart AppFramework                   :Webアプリケーションサーバに対するintra-martの登録内容に合わせたURL
```

- intra-mart WebPlatformをスタンドアロン形態で運用する場合、アクセスするURLのポート番号(Webサーバとしてのポート)は、インストール時に指定することができます。
- URLは、ブラウザのブックマークに登録しておくと便利です。

2 ログイン画面で、ユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン]ボタンをクリックします。

<intra-martのログイン画面>

- インストール直後のシステム管理者のユーザ名とパスワードは次のようになっています。ログイン後に[システム管理者設定]メニューで変更することをお勧めします。
  ユーザ名:system　パスワード:manager

<システム管理者でログインした場合のintra-martの初期画面>

- 標準のシステム管理者のログイン画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/commonフォルダ
- 標準のシステム管理者の初期画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/systemフォルダ
- システム管理者のログイン画面、初期画面の設定は、
  %Server Manager%/conf/access-security.xmlファイルの
  security-config/super-user-security/page-providerタグ内で行います。

1.1.3 ホーム画面

ホーム画面は、intra-martログイン時に表示される初期画面です。メニューを選択して各種画面が表示されている場合には、画面左上の[HOME]ボタンをクリックするとホーム画面が表示されます。

1.1.4 システム管理者のメニュー

ホーム画面の左メニューには、システム管理者が操作できる次のようなメニューが表示されています。

システム環境	intra-martのシステム環境の設定値が表示されています。
システム管理者設定	システム管理者自身のログイン名、パスワードなどの設定を行います。
ライセンス	購入したライセンスの確認と、各ログイングループに対する初期データおよびサンプルデータのインポートを行います。
ログイングループ設定	ログイングループとその管理者に関する設定などの管理を行います。
ログイングループライセンス	ログイングループ毎のライセンス数を設定します。
管理メニュー設定	ログイングループ管理者の画面に表示するメニューに関する管理を行います。
ファイル操作	%StorageServiceRoot%/storage/以下のファイルやディレクトリを操作するためのユーティリティです。
データベース操作	データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。

1.1.5 intra-martからのログアウト

ログイン画面に戻るとログアウトしたことになり、intra-martを終了できます。ログイン画面に戻るには、画面左のメニュー上部に用意されている［LOGOUT］ボタンをクリックします。

- メニューの[LOGOUT]ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合や、他のページに移動してintra-martの画面から離れてしまった場合、intra-martサーバ内ではセッションがタイムアウトするまでログイン状態を継続しているものとみなされます。必ずメニューの[LOGOUT]ボタンをクリックしてください。

Column

パスワードの履歴管理

パスワード機能強化としてパスワードの履歴管理が行えます。おもな機能は次の通りです。

パスワード履歴管理（世代管理）
パスワードの有効期限管理
パスワード入力チェック

パスワードの履歴管理を行うと、初回ログイン時、パスワードの有効期限が切れたときに、自動的にパスワード変更の画面が表示されます。この場合、パスワードを変更することで正常にログインすることができます。また、一般ユーザは、[ユーザ管理]-[属性設定]画面で、パスワードの期限切れ通知を何日前に行うかを設定できます。

●パスワード履歴管理の設定

intra-mart WebPlatformをインストールしたフォルダのconf配下にある次のファイルをを編集することで変更することができます。

password-history.xml

以下はpassword-history.xmlの記述例です。

```
<password-history>
  <group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.security.password.StandardPasswordHistoryAccessor">
      <change-password-first-login>false</change-password-first-login>
      <password-expire-limit>0</password-expire-limit>
                    ・
              デフォルトパラメータ群
                    ・
    </group-default>

   <group   name="default" accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.security.（つづく）

password.StandardPasswordHistoryAccessor">
        <change-password-first-login>true</change-password-first-login>
        <password-expire-limit>0</password-expire-limit>
                    ・
              ログイングループパラメータ群
                    ・
    </group>
</password-history>
```

以下は、用意されているタグ一覧です。

タグ名	属性	説明	デフォルト値
change-password-first-login	（なし）	初回ログイン時のパスワード変更要求の有無を設定します。	false
password-expire-limit	（なし）	パスワードの有効期限（日数）を設定します。0の場合無期限となります。	0
password-history-count	（なし）	何世代前まで世代管理を行うかを設定します。0の場合履歴管理を行いません。	0

deny-client-types	なし	記述クライアントタイプはパスワード変更画面には遷移しなくなります。	mobile
password-expire-page	(なし)	パスワード変更画面URLを設定します。	(欄外注1:参照)
check-password	enable	パスワードチェックの利用有無を判定します。 enable属性: true:利用 false:利用なし	false
check-password-length	enable	パスワードの文字数判定の利用有無とその範囲を設定します。 enable属性: true:利用 false:利用なし min属性:パスワードの最小文字数(半角数字,0以上)を設定します。 max属性:パスワードの最大文字数(半角数字,最大50)を設定します。 51文字以上は入力することができません。	false
	min		0
	max		50
allow-latin-letters	required	使用可能文字の設定(アルファベット)を行います。 required属性:混在判定の利用有無 true:利用 false:利用なし	(欄外注2:参照)
allow-number	required	使用可能文字の設定(数字)を行います。 required属性:混在判定の利用有無 true:利用 false:利用なし	0123456789
allow-extra-char	required	使用可能文字の設定(その他の文字列、記号など)を行います。 required属性:混在判定の利用有無 true:利用 false:利用なし	_-.+$#!/@
deny-old-password	(なし)	パスワード履歴管理で管理されているパスワードは拒否するかどうかを設定します。 true:利用 false:利用なし	false
deny-userid	(なし)	userid と同じパスワードを拒否するかどうかを設定します。 true:利用 false:利用なし	false
password-cryption-class	(なし)	暗号化クラスを設定します。	(欄外注3:参照)
return-initial-page	(なし)	パスワード有効期限切れの場合、パスワード変更後ログイン画面に戻るかそのままログイン処理を継続してログインするか判定します。 true:ログイン画面に戻ります。 false:ログイン処理を継続してログインします。	false

注1:/system/security/user/password_expire.jssp

注2:ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz

注3:jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption.StandardCryption

※パスワード履歴管理の詳細に関しては、別冊「アクセスセキュリティ仕様書」を参照してください。

1.1.6 2重ログイン防止機能

intra-martには、2重ログインを防止する機能（デフォルト：無効）が用意されていて、有効・無効を切り替えることができます。
2重ログイン防止機能が有効になると、2つ目以降のセッションは無効となり、ログインが不可能になります。このため、ログインするには有効なセッションを無効化する必要があります。
2重ログイン防止機能の設定によって、一般ユーザやログイングループ管理者が自分自身で不要なセッションを無効化することができるように設定することもできます。

2重ログインが検出されると、以下のような画面が表示されます。

<自分自身でセッションを無効化することができるように設定した場合の画面>

<2重ログインを通知のみする設定の画面>

2重ログインを通知のみする設定の場合、そのままでは操作を継続することができません。この場合、次のような方法で操作を継続することができます。

- 有効なセッションで操作を継続する
- 有効なセッションをログアウトして、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- 有効なセッションがタイムアウトするのを待ち、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- システム管理者に有効なセッションの無効化を依頼して、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする

1.1.6.1 2重ログイン防止機能を有効にする

2重ログイン防止機能を有効にするには、以下の設定ファイルを編集し、intra-martを再起動します。

```
conf/duplicate-login.xml
```

上記ファイルでは、以下の設定が行えます。

- ログイングループごとに設定が可能
- ログイングループ管理者の 2 重ログイン防止機能の有効/無効の切り替え
- 一般ユーザの 2 重ログイン防止機能の有効/無効の切り替え
- ログイングループ管理者がセッションを無効化できるかどうかの設定
- 一般ユーザがセッションを無効化できるかどうかの設定
- 2 重ログイン検出時の遷移先ページパスの設定

● 設定の詳細は、別冊の「アクセスセキュリティ仕様書」を参照してください。

1.1.6.2 セッションの無効化の操作

システム管理者は、配下のグループ管理者に関して、ログイン状況を把握するとともに、セッションの無効化を図ることができます。操作は、［ログイングループセッション］画面で行います。

<[ログイングループセッション]画面>

1.2 データベース設定(マルチデータベース)

intra-mart WebPlatform/AppFrameworkは、データベースの利用が前提となっているので、インストール時には、必ずデータベースの設定が必要となります。Ver6.1から、ひとつ以上のログイングループを設定しなければなりませんので、ログイングループごとにデータベースの設定が必要となります。

システムデータベース (マルチデータベース)	**複数設定可能です。 すべてのログイングループが利用できるデータベースです。**
ログイングループデータベース	**ログイングループ毎に1つのみ設定します。 ログイングループのデフォルトデータベースとなります。**

1.2.1 データベース設定の操作

設定は、サーバマネージャインストールディレクトリ/conf/da t a-source.xmlにて設定します。
以下に、設定の例を示します。

```
例:data-source.xml
<data-source>
     <system-data-source>
          <connect-id>system1</connect-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/system1</resource-ref-name>
     </system-data-source>
     <system-data-source>
          <connect-id>system2</connect-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle</resource-ref-name>
     </system-data-source>
     ...
     <group-data-source>
          <login-group-id>group1</login-group-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle1</resource-ref-name>
     </group-data-source>
     <group-data-source>
          <login-group-id>group2</login-group-id>
          <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle2</resource-ref-name>
     </group-data-source>
     ....
</data-source>
```

system-data-source	システムデータベースのデータソース設定を行います。
connect-id	接続ID(system-data-sourceでユニークなもの)
group-data-source	ログイングループデータベースのデータソース設定を行います。
login-group-id	ログイングループID

- データベースの設定を変更した場合は、アプリケーションランタイムの再起動が必要です。

1.3 システム管理者設定

システム管理者設定は、自分自身のユーザIDやパスワードの管理、使用言語（ロケール）、その他の登録情報の管理を行う画面です。

<システム管理者設定画面>

ユーザID(必須)	システム管理者のログインIDを入力します。デフォルトでは、「system」となっており、任意に変更することができます。
パスワード	システム管理者がログインする際に使用する、パスワードです。デフォルトでは、「manager」となっており、任意に変更することができます。
パスワード(確認)	[パスワード]で入力した文字列を再度入力します。
ロケール	intra-martは多言語化に対応していますので、ここでシステム管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。
メールアドレス	システム管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、システム管理者へ連絡する際に使用することができます。
電話番号	システム管理者への連絡先としての電話番号です。

1.4 ライセンス

intra-martのライセンスおよびその数量等が表示されます。
その他、この画面からデータベースに対して、管理メニューや初期データ、サンプルデータのインポートを行います。初期データとサンプルデータに関しては、ログイングループごとのデータベースに対してインポートする必要があるので、[インポート]ボタンの前にあるコンボボックスからログイングループ名を選択してから、[インポート]ボタンをクリックします。

この画面に表示されているライセンス数は、システム全体のライセンス数です。複数のログイングループが存在する場合には、システム管理者がそれぞれのログイングループに対して、ライセンス数を分配しなければなりません。ログイングループに対するライセンス数の分配は、「ログイングループライセンス管理」で行います。なお、ログイングループ内で、どのユーザにライセンスを発行するかは、ログイングループ管理者が設定することとなります。

1.5 ログイングループの設定

intra-mart Ver6.1では、複数のログイングループを設定できます。システム管理者は、ひとつ以上のログイングループを設定し、そのログイングループ管理者を登録します。作成したログイングループの管理は、ここで設定したログイングループ管理者に任せることになります。設定は、［ログイングループ設定］で行います。新規にログイングループを作成する場合は、上部の［新規登録］をクリックします。また、ここでログイングループIDとして登録した名前が、URLの一部となります。

```
ログイングループID          :default
ログイングループ管理者      :http://[マシンアドレス]/imart/default.manager
ログイングループ利用一般ユーザ:http://[マシンアドレス]/imart/default.portal
```

1.5.1 ［ログイングループ］タブ

ここでは、作成するログイングループの基礎データの登録を行います。ここでの設定は、ログイングループのデフォルトの設定となりますが、ログイングループ管理者や各ユーザの設定が優先されます。

この画面で、「□拡大」をクリックすると、ログイングループ名、登録アカウントライセンス数、ログイングループライセンス数などの項目領域を拡大して表示することができます。
<ログイングループ設定画面 ― ログイングループタブ>

ログイングループID	ログイングループの名称です。
ログイングループライセンス数	システム全体のライセンス数のうち、このログイングループに割り振るライセンス数を入力します。システム全体のライセンスが無制限（Infinity）である場合のみチェックできます。
ロケール	このログイングループがデフォルトで使用する言語を選択します。

アカウントロック回数	ログイン時に、ログインIDとパスワードが認証されなかった場合、ここで設定した回数を経過すると、「アカウントロック期間」で設定した分数だけログインの操作ができなくなります。回数を「0」とすると、アカウントロックすることなく、ログインを試行することができます。
アカウントロック期間(分)	アカウントロックされた場合、ここで設定した時間(分)ログインすることができなくなります。 「0」を設定すると、ロックを解除しなくなります。 この場合、ロックを解除するには、ログイングループ管理者が「アカウント設定画面」にて、手動で解除する必要があります。
ページカラーパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面の色調を選択します。色調は、あらかじめ、「青」、「緑」、「グレー」、「オレンジ」、「赤」の5つが登録されています。
メインページパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面パターンを設定します。画面パターンは、追加、削除することもできます。ここには、一般ユーザのログイン後に表示されるのページURLをリストします。ユーザは、このリスト内から、好きなログイン後に表示されるページを選択できます。

1.5.1.1 メインページパターンの追加

メインページは、ユーザが追加、削除、そして編集することができます。標準では、V6.0の新デザインと、V5.xの2つのデザインのメインページパターンが用意されています。

<メインページパターンの追加および編集画面>

ページパターンID(必須)	ログイン後に表示されるページのパターンIDを入力します。
ページURL(必須)	ログイン後に表示されるページパターンのURLを入力します。指定するURLがスクリプト開発モデルの場合は、pages/**/srcからの相対パスで、最後に拡張子(.jssp)を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。
ページイメージURL	ログイン後に表示されるページのパターンの概要イメージのURLを入力します。コンテキストパスからの相対パスで指定します。

1.5.2 [ログイングループ管理者]タブ

[ログイングループ管理者] タブでは、システム管理者が作成したログイングループの責任者のユーザIDやパスワードを登録します。ログイングループ管理者は、ここで設定したユーザIDやパスワードでログインした後、すべての項目を変更することができます。

<ログイングループ設定画面 — ログイングループ管理者タブ>

ユーザID(必須)	ログイングループ管理者のログインIDを入力します。
パスワード	ログイングループ管理者がログインする際に使用する、パスワードです。
パスワード(確認)	[パスワード]で入力した文字列を再度入力します。
ロケール	intra-martは多言語化に対応していますので、ここでログイングループ管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。
メールアドレス	ログイングループ管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、システム管理者へ連絡する際に使用することができます。
電話番号	ログイングループ管理者への連絡先としての電話番号です。

Column

ログイングループの削除

ログイングループ設定画面上部の[削除]をクリックすると、選択したログイングループの削除を行うことができます。

ただし、ログイングループに関連する全ての情報を削除しません。削除されずに残る情報は必要に応じて手作業で削除してください。

削除されずに残る情報は以下の通りです。

- データベース
  - 削除される情報
    - アカウント
    - ロール
    - メニュー
    - カレンダー
    - バッチ
  - 削除される情報
    - 上記以外の情報
    - テーブル、データベースそのもの
- Permanent Data Service
  - treasure/box.properties
    - PermanentDataServiceの設定ファイルです。削除済みのログイングループのアカウント情報格納先ファイルの記述が残ります。
    - 設定済みのログイングループ情報を参照できなくなるので、ファイルそのものを削除しないでください。
    - 削除対象は、ログイングループIDを左辺に持つ行です。なお、右辺の値がアカウント情報格納先ファイル名です。
  - treasure/box/im-license/account/[ランダムな文字列].box
    - 削除済みログイングループのアカウント情報格納先ファイルが残ります。
    - 上記box.propertiesのログイングループIDを左辺に持つ行の右辺にあたるファイルが削除対象です。
  - treasure/box/system/[ランダムな文字列].box
    - mainPagePattern の保存先ファイルです。キー情報の記述が残ります。
    - バイナリファイルですので、編集しないでください。
- Storage Service
  - ワークフロー関連
    - bpw/attach/commit/%ログイングループID%
      - ワークフローの添付ファイルの格納先です。
    - bpw/attach/temporary/%ログイングループID%
      - ワークフローの添付ファイルの一時的な格納先です。
    - bpw/code_manager/%ログイングループID%
      - ワークフローの採番用ファイルです。
  - アプリケーション共通マスタ関連
    - intramart/datastore_public/master/%ログイングループID%
      - アプリケーション共通マスタのインポート・エクスポート先です。

- ポータル関連
  - portal/cache/ログイングループID
    - ポータルのキャッシュ保存先です。
  - portal/portals/ログイングループID
    - グループポータルのテンプレート保存先です。
- 商品マスタ関連
  - basemodule/item/ログイングループID
    - カタログ（ファイル）の保存先です。
- v4.1以前のワークフロー関連
  - basemodule/wkf/app/ログイングループID
    - 添付ファイルの格納先です。
  - basemodule/wkf/temporary/ログイングループID
    - 添付ファイルの一時的な格納先です。

注意
ここに挙げたものは、intra-mart WebPlatform/AppFrameworkが管理する情報のみになります。intra-mart アプリケーションシリーズや、intra-mart エクステンションが管理するログイングループ毎に作られる情報については、該当するドキュメントを参照してください。

1.6 ログイングループライセンス

intra-martのライセンス登録は、まずインストール時に行います。システム管理者は、この全体のライセンス数を各ログイングループに割り振る作業を行います。この作業を行う画面が、［ログイングループライセンス］です。同じ操作は、［ログイングループ設定］でログイングループを作成する際にも行えますが、複数のログイングループがある場合には、［ログイングループライセンス］のほうが効率よく設定することができます。

<ログイングループライセンス画面>

ログイングループ最大ライセンス数の合計/最大ユーザライセンス数	購入したシステム全体のライセンス数の表示です。
登録アカウントライセンス数	各ログイングループでログイングループ管理者が実際にユーザに割り振り、使用されているライセンス数の表示です。この数値を参考にしながら、「最大ライセンス数」に適切なライセンス数を割り振ります。
最大ライセンス数	システムライセンス数の範囲内で、各ログイングループにライセンスを振り分けます。入力後は[登録]ボタンをクリックします。

ここで各ログイングループに割り振ったライセンスは、ログイングループ管理者の采配によってユーザに割り振ることになります。この操作は、ログイングループ管理者が［ログイングループ管理］－［アカウント設定］、または［ログイングループ管理］－［アカウントライセンス設定］で行います。

1.7 管理メニュー設定

管理メニュー設定とは、ログイングループ管理者の画面に表示されるメニューを設定する画面です。この画面では、メニューに表示されるフォルダやページの追加、削除、更新などの操作が行えます。なお、一般ユーザの画面に表示されるメニューに関しては、各ログイングループ管理者が設定を行い、システム管理者が設定することはできません。

<管理者用のメニューを設定する画面>

1.7.1 新規フォルダの作成

メニューに新規フォルダを追加するには、上部にある［新規フォルダ］アイコンをクリックします。新規に作成されたフォルダは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したフォルダをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「1.7.4 フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の［新規登録］ボタンをクリックします。

<新規フォルダの作成>

メニューID（必須）	作成するフォルダのIDを入力します。初期値には、自動採番されたコードが設定されます。
表示名（必須・ロケール）	フォルダの作成時には、登録されているロケールすべてについてフォルダ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するフォルダ名のロケールを選択します。
表示名（必須・名称）	選択したロケールに対応したフォルダ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてフォルダ名を入力します。
アイコン画像ファイルパス	作成するフォルダにつけるアイコンのパスを入力します。
備考	フォルダに関する備考を入力します。
ログイングループアクセス権設定（アクセス権を有効にする）	ログイングループ単位に表示権限の設定が行えます。「アクセス権を有効にする」チェックボックスをチェックします。右側には、ログイングループのリストが表示されているので、表示させたいログイングループを選択します。「アクセス権を有効にする」をチェックしない場合は、すべてのグループ管理者のメニューに表示されます。

1.7.2 新規ページの作成

メニューに新規ページを追加するには、上部にある［新規ページ］アイコンをクリックします。新規に作成されたページは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したページをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「1.7.4 フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の［新規登録］ボタンをクリックします。

<新規ページの作成>

メニューID（必須）	作成するページのIDを入力します。初期には、自動採番されたコードが表示されていて、変更することができます。
表示名（必須・ロケール）	ページの作成時には、登録されているロケールすべてについてページ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するページ名のロケールを選択します。

表示名（必須・名称）	選択したロケールに対応したページ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてページ名を入力します。
URL（必須）	実際に表示したいページのURLを記述します。指定するURLがスクリプト開発モデルの場合は、pages/**/srcからの相対パスで、最後に拡張子（ .jssp ）を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。
引数	ページ起動時に必要な引数がある場合には、ここで[追加]ボタンをクリックして登録します。登録した引数は、いつでも更新・削除することができます。
アイコン画像ファイルパス	作成するページにつけるアイコンのパスを入力します。
備考	ページに関する備考を入力します。
ログイングループアクセス権設定（アクセス権を有効にする）	ログイングループ単位に表示権限の設定が行えます。「アクセス権を有効にする」チェックボックスをチェックします。右側には、ログイングループのリストが表示されているので、表示させたいログイングループを選択します。「アクセス権を有効にする」をチェックしない場合は、すべてのグループ管理者のメニューに表示されます。

1.7.3 フォルダやページの更新と削除

既存のフォルダやページを更新や削除するには、まずツリー上で該当するフォルダやページを選択します。右に詳細な情報が表示されるので、変更することができます。変更の反映は、［更新］ボタンで行います。フォルダやメニューを削除するには、選択した状態で、［削除］アイコンをクリックします。

1.7.4 フォルダやページの表示順の変更

既存のフォルダやページの表示順序を変更するには、ツリー表示で該当するフォルダやメニューを任意の位置までドラッグします。マウスがアイコンの上にある場合にドラッグが可能です。
ドラッグした先がページの場合は、そのすぐ次に移動します。
ドラッグした先がフォルダの場合には、そのフォルダの中あるいは配下への移動を選択するメニューが表示されます。

<「Myアプリケーション」フォルダを「ポータル」フォルダにドラッグした場合の例>

1.8 IM-Administrator

監視ツール「IM-Administrator」は、intra-martのService Platformの情報を収集しているServer Manager(監視サーバ) に接続して、各Service Platformの状態の監視、起動、停止等の設定が行えます。

<IM-Administratorの機能と概念>

1.8.1 IM-Administratorの起動と終了

IM-Administratorは、intra-martとは独立したアプリケーションです。Server Managerはintra-martの各種Serviceとは独立したサーバにインストールします。

1 [スタート]メニューからIM-Administratorを起動します。
[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。

<[ログイン]ダイアログボックス>

2 Server Managerのアドレス、ポートそしてパスワードを入力します。
IM-Administratorのメイン画面が表示され、各種設定を行います。

- インストール時のパスワードは「intramart」になっています。ログイン後にパスワードを変更することをお勧めします。パスワードの変更は、「1.8.4 パスワードの変更」を参照してください。
- IM-AdministratorはServerManagerと接続することにより、intra-martシステムを管理しますが、ServerManagerに接続できるIM-Administratorは一つとなります。
- 複数のIM-Administratorを起動し、同じServerManagerに接続しようとすると後から接続しようとしたIM-Administratorは、接続できません(同一マシン内で、複数のIM-Administratorを起動し、同じServerManagerに接続しようとすると先に接続したIM-Administratorの接続も切断されてしまいます)。
- IM-Administrator利用中は、Server ManagerおよびService Platformの負荷が増加します。また、各種情報をIM-Administratorに対して転送するため、ネットワークトラフィックも増加します。

終了は、Windowsの通常のアプリケーションと同様に終了します。

1.8.2 メニューの説明

IM-Administratorのメイン画面では、intra-martのService Platformが一覧表とビジュアルに表示されます。ここでは、一覧表またはビジュアルな構成図から状態の監視や設定を行いたいサーバを選択します。

基本画面(ラウンドロビン)　　基本画面(スタンドアロン)

<IM-Administratorのメイン画面>

画面左側のツリーをクリックすると、画面右側に情報が表示されます。

1.8.3 Service Platformの起動

操作対象のService Platform（画面ではimart1、imart2,、imart3、imart4）をクリックして選択状態にしてから起動/停止/再起動ボタンをクリックします。
ラウンドロビン運用時には「ラウンドロビン」を選択することで、全てのService Platformをまとめて起動/停止/再起動することができます（imart1, imart2, imart3, imart4は例です。このIDはService Platformインストール時にインストーラで設定します）。

- Server Managerを起動・停止制御することはできません。
- intra-mart AppFrameworkでスタンドアロン型の場合は、起動・停止制御することはできません。
  また、intra-mart AppFrameworkで分散構成の場合は、Application Runtimeの動作しているサーバ(ご利用のアプリケーションサーバ)を起動・停止制御することはできません。

1.8.4 パスワードの変更

IM-Administratorのログインパスワードを変更します。初期パスワードは「intramart」になっています。

<[パスワード変更]ダイアログボックス>

1.8.5 Server Managerログ

Server Managerに出力されているログが表示されます。

<Server Managerログの表示>

1.8.6 ラウンドロビン

ラウンドロビンに含まれているService Platformの一覧およびサービスの状態が表示されます。ただし、この画面は、ラウンドロビン運用時のみ表示されます。

Application Runtime	
Running	サービスは実行中です。
Stopped	サービスは停止中です。
その他のサービス	
Active	サービスは実行中です。
Standby	サービスはスタンバイ状態です。
Stopped	サービスは停止中です。

1.8.7 Service Platform

Service Platformのサービスの状態、および設定の変更を行います（画面ではimart1）。画面の各設定項目に関しては、次の「1.8.11 Service Platform画面の設定項目」を参照してください。

< Service Platformの状態表示>

1.8.8 パフォーマンス表示

Service Platformのメモリ状態、ネットワークコネクションなどの状態と履歴が表示されます。ラウンドロビン運用時には各ServicePlatformの状態を一覧表示した画面が表示されます。画面の各項目に関しては、以降の「パフォーマンス表示」を参照してください。

<パフォーマンス表示>

1.8.9 Http**サーバ**

Application RuntimeのWebサーバの設定を行います。この機能は、intra-mart WebPlatformでのみ使用できます。

セッションタイムアウト	セッションを保持する時間です。
最大セッション保持数	セッションを保持する最大数です。この数を超えた場合、既存のセッションがランダムに破棄されます。
セッションをcookieに保存	セッション情報をブラウザのcookieに保存します。
セッションをURLに付加	セッション情報ブラウザのリクエストURLに付加します。
セッションIDの再利用	タイムアウトしたセッションのIDを再利用します。

1.8.10 Service Platform**ログ**

Service Platformに出力されているログが表示されます。

1.8.11 Service Platform画面の設定項目

Service Platform（画面ではimart1）のサービスの状態、および設定の変更を行います。

1.8.11.1 共通設定

Service Platformの基本設定です。

Service Platform ポート	Service Platformが他のService Platformと通信を行うためのポートです。対象のService PlatformにApplication Runtimeが存在する場合は表示されません。
ネットワークコネクション数	Service Platformが他のService Platformと通信を行うためのコネクション数です。
同時実行スレッド数	Service Platformが同時に処理を行うスレッドの数です。
自動再起動	Service Platformなんらかの例外でダウンしてしまった場合、自動的に再起動を行います。
リクエストタイムアウト	Service Platform間のネットワークリクエスト時のタイムアウト時間です。
サーバコネクションの有効時間	Service Platform間通信のサーバ側接続待機時間です。
クライアントコネクションプールの有効時間	Service Platform間通信のクライアント側コネクションプールを保持する時間です。

1.8.11.2 JavaVM

Service PlatformのJava起動設定です。

初期ヒープサイズ	Service Platformの初期ヒープサイズです。
最大ヒープサイズ	Service Platformの最大ヒープサイズです。
JavaVM	Service Platformを起動するJavaVMです。
オプション	Java起動オプションです。

1.8.11.3 JavaVMのログ

各種ログの出力設定です。インストールされているサービスにより出力されるログが異なります。

ログの有効	対象のログ出力を有効にします。
ファイル出力	ログファイルに出力します。
詳細ログ	詳細ログを出力します。errorログのみの設定です。
出力先	ログファイルの出力先を指定します。
フォーマット	ログファイルの出力フォーマットを指定します。
リフレッシュ	ログファイルの初期化の有効と初期化のファイルサイズを指定します。
バックアップする	リフレッシュ時にログのバックアップを保存します。
コンソール出力	ログをService Platformのコンソールに出力します。この設定は開発時向けの設定です。

1.8.11.4 Application

Application Runtimeに関する設定です。

■クライアント

クライント出力の設定です。

ログインセッションの自動維持	セッションタイムアウトを無効にします。
外部サイトポップアップ	intra-martのメニューに登録された外部のサイトをポップアップウィンドウで開きます。
組織ツリー	会社-組織、パブリックグループ、プライベートグループのメンテナンス画面とユーザ検索画面、組織検索画面に表示される組織ツリーをグラフィカル組織ツリーに切り替えます。切り替え後は全ての組織が画面に表示されますので、大量データ時などレスポンスの低下につながる場合は使用しないでください。

■HTTP

HTTPに関する設定です。

受付けるクエリーの最大サイズ	処理行うリクエストデータの最大サイズです。これを超えるサイズのデータは処理されません。
アクセス全体の待ち行列数	アクセス全体の待ち行列の数です。これを超えるリクエストは処理せれません。
並列処理を行うクエリーの最大サイズ	同時に処理されるリクエストデータの最大サイズです。これを超えるサイズのデータは直列に処理されます。
直列処理の待ち行列数	直列処理の待ち行列数です。これを超えるリクエストは処理せれません。

■SMTP

SMTPサーバに関する設定です。

SMTPサーバアドレス	SMTPサーバのアドレスを指定します。
SMTPサーバポート	SMTPサーバのポートを指定します。

1.8.11.5 Permanent

Permanent Data Service に関する設定です。

データルート	Permanent データを保存するルートディレクトリです。自動バックアップを有効Permanent データのバックアップを行います。バックアップされたデータはデータルート以下のhistoryディレクトリに保存されます。

1.8.11.6 Storage

Storage Serviceに関する設定です。

ファイルルート	ファイルを保存するルートディレクトリです。

1.8.11.7 Serialization

Serialization Serviceに関する設定です。

アプリケーションロック時間	スクリプト開発モデル、JavaEE開発モデルのプログラムのアプリケーションロックを継続する最大時間を指定します。「0」を指定した場合、一度設定されたロックフラグは明示的なロック解除がされないかぎり永久に開放されません。

1.8.11.8 Schedule

Schedule Serviceに関する設定です。

バッチロードタイム	Schedule Serviceは毎日指定した時間に一日分のバッチ処理情報を読み込みます。設定情報は24時間表現で設定します。(例:01:00:00)
監視時間	バッチ起動チェック用タイマー設定。この設定を短くすると、Service Platformの負荷が高くなります。逆に、この設定を長くすると、バッチ設定時間と実際にバッチプログラムが実行される時間とのタイムラグが大きくなります。最大監視時間分の実行遅延が発生する可能性があります。

1.8.12 パフォーマンス表示

1.8.12.1 JavaVM memory

Service Platformのメモリ状態を表示します。

<パフォーマンス表示>

maximum heap	最大ヒープサイズ
initial heap	初期ヒープサイズ
total heap	ヒープの総容量
used heap	使用中のヒープサイズ

- Javaのヒープサイズの詳しい説明は、Javaの専門書をご覧ください。

1.8.12.2 client request

クライアントからのリクエスト数を表示します。Application Runtimeの場合はWebブラウザからのリクエスト、その他のService Platformの場合はApplication Runtimeからのリクエストを表示します。

request counter	
max threads	同時に処理が可能なリクエスト数です。Service Platform設定の「同時実行スレッド数」が表示されます。
current requests	現在受け付けているリクエストの数です。
requests queuing	同時処理数を超え、待ち状態になっているリクエストの数です。
response time	
max	レスポンスの最大遅延時間です。
average	レスポンスの平均時間です。
extends information	
used peak	最大同時リクエスト数とその発生時間です。

- この画面には一定の間隔でサーバの状態が表示されます。サーバの状態および計測のタイミングにより、必ずしもサーバの状態を正しく表示できないことがあります。
- ここに表示される情報は、サーバの状態を知るための参考としたり、パフォーマンスチューニング時の目安としてご活用ください。

1.8.12.3 network connection

Application Runtimeとその他のService Platformのコネクション状態を表示します。Service PlatformがApplication Runtimeの場合に表示されます。スタンドアロン環境の場合は表示されません。

pool size	
capacity	ネットワークコネクションの最大値が表示されます。Service Platform設定の「ネットワークコネクション数」が表示されます。この値を超えるコネクションは待ち状態となります。
pool	現在保持しているコネクションプールの数です。
used	現在のコネクション数です。
extends information	
used peak	最大同時コネクション数とその発生時間です。

- この画面には一定の間隔でサーバの状態が表示されます。サーバの状態および計測のタイミングにより、必ずしもサーバの状態を正しく表示できないことがあります。
- ここに表示される情報は、サーバの状態を知るための参考としたり、パフォーマンスチューニング時の目安としてご活用ください。

1.8.13 コマンドによるサーバの制御

IM-Adminstratorの画面からintra-martの各サービスプラットフォームを制御する以外に、コマンドラインからサーバマネージャに接続して制御する機能が用意されています。

1.8.13.1 コマンドの一般書式

```
Windowsの場合
 (インストールディレクトリ)¥bin¥SrvCom.bat [機能コード] -u [addr]:[port]/[password] [オプション]

UNIXの場合
 (インストールディレクトリ)/bin/SrvCom.sh [機能コード] -u [addr]:[port]/[password] [オプション]
```

[機能コード]	用意されている次の機能コードを指定します。 -show　サーバの一覧を表示する -start　[オプション]で指定したサーバを起動する -stop　[オプション]で指定したサーバを停止する -restart　[オプション]で指定したサーバを再起動する
[addr]	サーバマネージャのコンピュータアドレスを指定します。
[prot]	サーバマネージャの待ち受けポートを指定します。
[password]	パスワードを指定します。IM-Administratorにログインするときのパスワード。
[オプション]	制御対象となるサービスプラットフォームのサーバIDを指定します。 特定のサーバの場合　-id (サーバID) 全サーバを対象とする場合　-all サーバの表示の場合(-show) オプション未指定　:全サーバの情報を表示 -id　:指定されたサーバの状態のみを表示 ■-id で指定したサーバが動作している場合 そのサーバの情報を表示。 サーバの動作状況により、各サービスが、「enable」または「disable」のどちらかで表示される。 ■-id で指定したサーバが停止している場合 メッセージ「Service-Platform not found: サーバID」が表示される。 ■-id で指定したIDが存在しない場合 メッセージ「Service-Platform not found: サーバID」が表示される。 ■システム自体に Service-Platform が1つも動作していない場合 メッセージ「This system has no Service-Platform.」が表示される。

1.8.13.2 実行例

実行例として、特定のサーバを停止するコマンドの利用方法を説明します。
ここでは、次のような環境であるとします。

```
Server Managerをインストールしたマシンの IPアドレス      : 192.168.0.1
Server Managerをインストールしたマシンのポート          : 8080
intra-mart Administratorのパスワード                : intramart
コマンド処理の対象となるService Platformのサーバ ID    : 192.168.0.2:ServicePort
intra-mart Administrator をインストールしたパス      : <%im_path%>
```

1 コマンドプロンプトを起動します。<%im_path%>/bin に移動します。次のコマンドを実行します。WindowとUNIXの例を示します。

```
Windowsのとき
  srvcom.bat -stop -u 192.168.0.1:8080/intramart -id 192.168.0.2:ServicePort
UNIXのとき
  srvcom.sh -stop -u 192.168.0.1:8080/intramart -id 192.168.0.2:ServicePort
```

- コマンドでサーバを制御するには、IM-Administrator がインストールされている必要があります。
- intra-mart AppFramework では、Appliction Runtime に対するコマンドによるサーバ制御はできません。
- 分散インストールしている環境において、システム全体を再起動する場合、「-restart」と「-all」オプションを同時に指定して Service Platform を再起動すると各サーバの停止、起動のタイミングによって正常に再起動されない場合があります。システム全体を再起動させるには「-stop -all」オプションを実行し、全ての Service Platform が停止したことを確認後、「-start -all」オプションで起動する方法をおすすめします。

1.9 ラウンドロビン機能の利用

ラウンドロビン機能は、負荷分散ならびに障害対策のためにApplication Runtimeを複数設置して、クライアントからのアクセスを、登録されているApplication Runtimeに負荷分散する機能です。
この機能は、intra-mart WebPlatform(Resin)で利用できる機能で、
intra-mart WebPlatform(JBoss)、および、intra-mart AppFrameworkでは利用できません。

intra-martでは、Webサーバとintra-mart製品をむすぶWeServer Connector（コネクタモジュール）の設定によって、この機能を実現しています。

- アプリケーションサーバに内包されているintra-mart HTTPサーバを利用する際には、市販のクラスタ製品を利用して、負荷分散することになります。
- Application Runtimeを複数立てた場合、HttpSession（ログインセッション）をフェールオーバさせることができます。
- 設定の詳細は、「設定ガイド」の「3.1 Web Server Connector」を参照してください。
- 詳しくは「設定ガイド」の「HttpSessionのフォールトトレランス設定方法」を参照してください。

1.10 HttpSessionのフェールオーバ

Application Runtimeを複数立てた場合、HttpSession （ログインセッション）をフェールオーバさせることができます。この機能は、intra-mart WebPlatform(Resin)で利用できる機能で、intra-mart WebPlatform(JBoss)、および、intra-mart AppFrameworkでは利用できません。intra-mart WebPlatform(Resin)でのセッションフェールオーバは、以下の2方式です。

- 詳しくは「設定ガイド」の「HttpSessionのフォールトトレランス設定方法」を参照してください。

1.10.1 メモリ to メモリ方式

メリット	Application Runtimeの設定だけで構築可能。メモリto RDBと比較して、処理負担がない。
デメリット	バックアップ関係にある2台が両方ともダウンするとセッションが消える。メモリto RDB方式に比べて設定が難。他のApplication Runtimeのメモリを保存するため、Application Runtimeのメモリ消費量が増える。

1.10.2 メモリ to RDB方式

メリット	Application Runtimeが何台ダウンしても、最低1台残ればセッションの継続が可能。メモリtoメモリ方式に比べて設定が容易。
デメリット	DBが必要。

市販のクラスタ製品を利用してラウンドロビン構成で運用する場合には、メモリ to RDBを推奨します。より堅牢なシステム構成にするには、メモリtoRDB方式を推奨します。

1.11 LDAPとの連携

intra-martは、ディレクトリサービスへの標準的なアクセス手段であるプロトコルLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）にも対応しています。intra-martは、認証モジュールによって、intra-mart標準の認証システムをはじめ、ＬＤＡＰサーバなどに接続して認証する形式となっています。この認証モジュールを変更することによって、各社の認証システムにも対応することができます。

<認証モジュールでLDAPと連携>

1.11.1 LDAP連携の設定

LDAP連携の設定は、以下の設定ファイルで行います。画面からは行えません。

```
%Server Manager%/conf/access-security.xml
```

security-config/user-security/auto-certificationおよびcertificationタグ内で設定します。

```
<certification-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.LDAPUserCertif
ication</certification-class>
<init-param>
    <param-name>ログイングループID.provider-url</param-name>
    <param-value>プロバイダURL</param-value>
</init-param>
<init-param>
    <param-name>ログイングループID.dn</param-name>
    <param-value>識別情報</param-value>
</init-param>
<init-param>
    <param-name>ログイングループID.context-factory</param-name>
    <param-value>コンテキストファクトリ</param-value>
</init-param>
```

ログイングループ単位に３つのパラメータを指定します。

ログイングループID.provider-url	プロバイダURLを設定します。 （例：ldap://localhost:389/）
ログイングループID.dn	識別情報を設定します。認証時には '?' にユーザIDが入ります。 （例：uid=?,ou=People, o=ldaps.intra-mart.jp）
ログイングループ ID.context-factory	コンテキストファクトリを設定します。 （例：com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory）

- 設定後、サーバを再起動することで、パラメータに設定したLDAPサーバに認証を行うようになります。

1.11.2 LDAP認証機能

1.11.2.1 他社認証システムとの連携

他社認証システムとの連携を行うには、認証モジュールインタフェースを実装した認証モジュールを作成し、設定ファイルに定義することで、認証処理の連携が可能となります。

認証モジュールインタフェース定義
`jp.co.intra_mart.foundadion.security.certification.UserCertification`

初期化メソッド	public void init(Map params) ;
ユーザログイン認証モジュールの初期化を行います。 クラスが生成された時に1度だけ呼び出されます。 パラメータ 　params 設定ファイルに定義されているパラメータののマップ	

認証メソッド	public int certification(LoginInfo loginInfo, Account user, HttpServletRequest request, HttpServletResponse response);
ユーザの認証を行います。 ユーザ認証時に呼び出されます。 パラメータ 　loginInfo　ログイン時の認証用の情報（ユーザ、パスワード、ログイングループなど） 　user　　ログイン対象ユーザのアカウント情報 　request　HTTPサーブレットリクエスト 　response HTTPサーブレットレスポンス 戻り値　認証結果を返却します。 　以下のいずれかの定数を返却します。 　認証成功　　SecurityConstraint.CR_OK 　認証失敗　　SecurityConstraint.CR_NG 　認証処理エラー SecurityConstraint.CR_ERROR	

1.11.2.2 実装例

1 認証モジュールを実装します。

```
package test;
.....
class TestCertification implements UserCertification {
     public void init(Map params){
          // 初期化処理を記述します。
          // このメソッドはこのクラスが生成されるとき、一度だけ呼び出されます。
          // 引数の初期化パラメータなどを処理します。
     }

     public int certification(LoginInfo loginInfo,
          Account user,
          HttpServletRequest request,
          HttpServletResponse response){
          // 引数に渡された情報を元に他社システムに接続して認証処理を行います。
          // 認証結果を返却します。
          return SecurityConstraint.CR_OK;
     }
};
```

2 実装認証モジュールを配置します。

実装した認証モジュールをコンパイルし、以下の場所に配置します。

```
ApplicationRuntimeのdoc/imart/WEB-INF/classes
```

3 設定ファイルを記述します。

認証モジュールを以下の設定ファイルに定義します。

```
ServerManagerのconf/access-security.xmlの以下のタグ内に記述します。
<access-security>/<security-config>/<user-security>
```

```
<auto-certification>
     <certification-class>test.TestCertification</certification-class>
          <init-param>
               <param-name>初期化パラメータ名</param-name>
                    <param-value>初期化パラメータ値</param-value>
          </init-param>
     </auto-certification>
<certification>
     <certification-class>test.TestCertification</certification-class>
          <init-param>
               <param-name>初期化パラメータ名</param-name>
               <param-value>初期化パラメータ値</param-value>
          </init-param>
</certification>
```

- <auto-certification>タグには、ログイン画面表示前のリクエストから認証処理を行ユーザログイン認証インタフェース実装クラスを設定します。
- また、このタグは省略可能です。省略した場合は、自動ログインができなくなります(ログイン画面を出さずにログイン)。
- <certification>タグには、ログイン画面からのリクエストから認証処理を行うユーザログイン認証インタフェース実装クラスを設定します。
- <init-param>タグは複数設定可能です。また、このタグは省略可能です。
- このタグに設定された値は、クラス初期化時に、init関数の引数として渡されます。

4 システムを再起動します。

1.12 設定ファイル、初期化ファイル

intra-mart WebPlatform/AppFrameworkには、設定ファイル「conf/imart.xml」と、起動時に一度だけ実行される初期化ファイル「pages/src/init.js」があります。設定ファイルには、intra-martが動作する上で必要となる各種情報が記述されており、ユーザが変更できる項目が含まれています。

- 設定ファイルや初期化ファイルを変更したときは、関連するサーバを再起動する必要があります。
- 設定ファイルの変更は、IM-Administratorから行うこともできます。(「1.8 IM-Administrator」参照)

1.12.1 設定ファイル「conf/imart.xml」

設定ファイル「conf/imart.xml」は、ServerManager、および、各ServicePlatformに１つずつ存在し、システム全体に関する設定が記述されています。設定を変更するには、書式に合わせて直接ファイルを書き換えるか、IM-Administratorを利用します。設定を変更した場合は、設定を変更したServerManagerやServicePlatformの再起動が必要となります。

- 各設定項目の詳細に関しては、「設定ガイド(サービス編)」を参照してください。

1.12.1.1 ユーザ定義の設定ファイル「＊.ini」

スクリプト開発モデルでは、ユーザ定義の設定ファイルを利用することが可能です。
ユーザ定義の設定ファイルは、以下のように作成してください。

- 拡張子は「.ini」です
- Resource Service の pages/src 配下に格納します
- 書式は「項目名＝値」です
  - １行１項目の形式です
  - 「#」以降は行末までコメントとなります
  - 項目名は、大文字・小文字も厳密に判定されます
  - 値はダブルクォード、シングルクォートで囲みません
  - 設定ファイルの文字コードは、intra-martインストール時に指定したサーバモジュールの文字コードと同一にするか、Javaの国際化ツール「native2ascii」で変換を行ってください

ユーザ定義の設定ファイルの読み込みは、ファンクションコンテナAPI「System.read()」を利用します。設定情報を取得するには、ファンクションコンテナAPI「System.getValue()」を利用します。詳しくは、APIリストを参照してください。

1.12.2 初期化ファイル「pages/src/init.js」

Resource Serviceにインストールされる 初期化ファイル「pages/src/init.js」は、intra-martが起動する時に一度だけ実行されます。このinit.jsファイルには、アプリケーションの初期化に必要な各種設定や、共通関数の読み込みおよび定義などを記述します。

- 初期化ファイルは、ServerManagerの「conf/sytem-install.xml」のsystem-install/initializer/application/script-nameタグで定義されています。

1.13 ログ出力機能

intra-martには、様々なログ出力機能が用意されています。ログ機能により出力された情報は、intra-martアプリケーションを運用中に障害が発生した場合の原因究明に利用できます。各サーバのログ出力設定は、intra-martをインストールしたディレクトリの conf/imart.xmlファイルで行います。
（IM-Administratorを利用して設定することもできます）
豊富なログ機能を利用するための設定項目が多数存在しますので、各設定を利用してログ機能を活用してください。詳細は「設定ガイド」をご覧ください。

1.13.1 標準で利用可能なログ

intra-martのログの種類は、次のようになります。

システムログ
エラーログ
ネットワークログ
メモリログ
データベースログ
リクエストログ
セキュリティログ
画面遷移ログ
SAP 連携ログ
バッチログ

1.13.2 intra-mart HttpServerのアクセスログ

intra-martの標準のログ以外に、intra-mart WebPlatform(Resin)のApplication Runtime に内包されているintra-mart HttpServerを利用している場合には、次のログも利用できます。

HTTPアクセスログ

1.13.3 他社Application Serverを使用している場合のログの利用

intra-mart AppFrameworkのApplicationRuntimeが動作している環境、つまりWebSphereやWebLogic Serverなどの他社製Application Serverを利用している場合には、次のログも利用できます。これら他社製ソフトウェアのログは、標準のintra-martサーバのログと合わせて分析することにより、サーバの利用状態やエラー発生時の原因の究明のためのな有効なツールとなります。

標準出力ログ
標準エラー出力ログ

1.13.4 JavaEE開発モデルでのログの利用

以下のAPIを利用することにより、ApplicationRuntimeで動作するアプリケーションから、intra-martのシステムログおよびエラーログに対してメッセージを書き込むことができます。

```
jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.Platform.out
jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.Platform.err
```

また、以下のパッケージを利用すると独自のログを実装することもできます。

```
jp.co.intra_mart.common.aid.jdk.util.report
```

- 設定方法や詳細な機能説明は、「設定ガイド(サービス編)」を参照してください。
- 独自に開発したアプリケーションでログを出力させたい場合は、Fileオブジェクト(スクリプト開発モデル)などを利用してください。(詳細はAPIリストを参照してください)
- JavaEE開発モデルでは、java.ioやjava.util.loggingパッケージなどを利用してください。

1.14 ファイル操作

このアプリケーションは、%StorageServiceRoot%/storage/以下のファイルやディレクトリを操作するためのユーティリティです。ディレクトリやファイルの新規作成、ファイルの削除やアップロード、名称の変更、テキスト編集などが行えます。アップロードされたファイルはStorage Serviceに保存されます。

<ファイル操作画面>

1.14.1 ツリーでディレクトリ選択時

ディレクトリを選択した状態では、次のような操作が行えます。

新規作成[ディレクトリ]	選択しているディレクトリ配下に、新規ディレクトリを作成します。
新規作成[ファイル]	選択しているディレクトリ配下に、新規ファイルを作成します。
名称変更	選択しているディレクトリの名称を変更できます。
削除	選択しているディレクトリを削除します。
[アップロード]ボタン	選択しているディレクトリ配下に、任意のファイルをアップロードできます。

1.14.2 ツリーでファイル選択時

ファイルを選択した状態では、次のような操作が行えます。

名称変更	選択しているファイルの名称を変更できます。
削除	選択しているファイルを削除します。
ダウンロード	選択しているファイルをダウンロードします。

1.15 データベース操作

データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。接続先として、システムデータベースまたはログイングループ用のデータベースを選択した上で、テキストエリアにSQL文を記入し、[実行]ボタンをクリックします。

<データベース操作画面>

intra-mart WebPlatform/
AppFramework

第2章 ログイングループ管理者編

2.1 ログイングループ管理者の業務とログイン

ログイングループ管理者は、システム管理者から任されたログイングループに対して、さまざまな権限を有します。

2.1.1 ログイングループ管理者の業務

システム管理者は、intra-martのデータベース設定など共通の設定管理と各ログイングループとその管理者に関する次のような管理を行います。

ログイングループ管理	ログイングループごとのロール、アカウント、アカウントライセンス、メニュー、カレンダー、バッチなどの管理を行います。
アプリケーション共通マスタ管理	ログイングループ上で動作するintra-martアプリケーションで共通に利用されるリソースの管理を行います。リソースには、組織、役職、パブリックグループ分類設定などがあります。
ポータル	ポートレットの登録やログイングループ共通のポータル画面の作成など、ポータルに関わる設定を行います。
ワークフロー	承認ルートの作成など、ワークフローに関わる設定を行います。

2.1.2 ログイングループ管理者でのログイン

ログイングループ管理者は、以下の手順に従ってintra-martにログインします。

1 ブラウザを起動し、下記のようにintra-martのURLを入力します。
画面上には、intra-martのログイン画面が表示されます。

```
intra-mart WebPlatform(スタンドアロン):http://マシンアドレス:8080/imart/(ログイングループID).manage
r
intra-mart WebPlatform(分散システム):Webサーバコネクタの登録内容に合わせたURL
intra-mart AppFramework:Webアプリケーションサーバに対するintra-martの登録内容に合わせたURL
```

- intra-mart WebPlatformをスタンドアロン形態で運用する場合、アクセスするURLのポート番号(Webサーバとしてのポート)は、インストール時に指定することができます。
- URLは、ブラウザのブックマークに登録しておくと便利です。
- この他に、「ログイン画面なしで自動認証する方法」(→P.65 Column参照)が用意されています。

2 ログイン画面で、ユーザコードと、パスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

<intra-martのログイン画面>

- 標準のログイングループ管理者のログイン画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/commonフォルダ
- 標準のログイングループ管理者の初期画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/groupフォルダ
- ログイングループ管理者のログイン画面、初期画面の設定は、
  %Server Manager%/conf/access-security.xmlファイルの
  security-config/group-super-user-security/page-providerタグ内で行います。
- 標準の一般ユーザのログイン画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/commonフォルダ
- 標準の一般ユーザの初期画面のソース
  %Resource Service%/pages/platform/src/system/security/userフォルダ
- 一般ユーザのログイン画面、初期画面の設定は、
  %Server Manager%/conf/access-security.xmlファイルの
  security-config/user-security/page-providerタグ内で行います。

<intra-martの初期画面>

2.1.3 ホーム画面

ホーム画面は、intra-martログイン時に表示される初期画面です。メニューを選択して各種画面が表示されている場合には、画面左上の[HOME]ボタンをクリックするとホーム画面が表示されます。

2.1.4 intra-martからのログアウト

ログイン画面に戻るとログアウトしたことになり、intra-martを終了できます。ログイン画面に戻るには、画面左のメニュー上部に用意されている［LOGOUT］ボタンをクリックします。

- メニューの[LOGOUT]ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合や、他のページに移動してintra-martの画面から離れてしまった場合、intra-martサーバ内ではセッションがタイムアウトするまでログイン状態を継続しているものとみなされます。必ずメニューの[LOGOUT]ボタンをクリックしてください。

Column

ログイン画面なしで自動認証する方法

intra-martにログインする際のURLに、次のようにユーザコードとパスワードを含めることができます。

http://intramart/imart/(ログイングループID).manager?im_user=xxxx&im_password=yyyy

xxxx：ユーザコード　　yyyy：パスワード

上記のURLのように入力してログインすると、ログイン画面なしで自動認証されます。

2.1.5 2重ログイン防止機能

intra-martには、2重ログインを防止する機能（デフォルト：無効）が用意されていて、有効・無効を切り替えることができます。
2重ログイン防止機能が有効になると、2つ目以降のセッションは無効となり、ログインが不可能になります。このため、ログインするには有効なセッションを無効化する必要があります。
2重ログイン防止機能の設定によって、一般ユーザやログイングループ管理者が自分自身で不要なセッションを無効化することができるように設定することもできます。

2重ログインが検出されると、以下のような画面が表示されます。

<自分自身でセッションを無効化することができるように設定した場合の画面>

<2重ログインを通知のみする設定の画面>

2重ログインを通知のみする設定の場合、そのままでは操作を継続することができません。この場合、次のような方法で操作を継続することができます。

- 有効なセッションで操作を継続する
- 有効なセッションをログアウトして、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- 有効なセッションがタイムアウトするのを待ち、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- システム管理者に有効なセッションの無効化を依頼して、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする

2.1.5.1 セッションの無効化の操作

ログイングループ管理者は、配下の一般ユーザに関して、ログイン状況を把握するとともに、セッションの無効化を図ることができます。操作は、［ログイングループ管理］－［アカウント管理］－［ログインセッション］画面で行います。

1 ［ログイングループ管理］-［アカウント管理］-［ログインセッション］をマウスでクリックします。
［ログインセッションユーザ検索］画面が表示されます。

<［ログイングループセッション］画面>

2 ユーザID欄に表示したいユーザIDを入力して、［検索］アイコンをクリックします。あるいは、ユーザID欄は空欄にして、［検索］アイコンをクリックします。
ログインしているユーザのセッション一覧が表示されます。

<［ログイングループセッション］画面>

3 無効にするセッションをチェックして、［無効化］アイコンをクリックします。
選択したセッションが無効になります。

Column

メニューを利用しない画面遷移

この章では、intra-martの標準のアクセスセキュリティ機能やメニュー画面を使用していますが、im-JavaEE Frameworkを利用すると、メニューに登録しなくても以下のＵＲＬでアクセスすることができます（下記は標準インストールした場合の例です）。
http://< ホスト名>[:< ポート番号>]/imart/< アプリケーションID>-<サービスID>.service
ただし、ＵＲＬ指定による直接表示を行う場合は、すべてのApplication Runtimeのdoc/imart/WEB-INF/web.xmlにて、以下のフィルターマッピングの設定(<filter-mapping>)をすべて削除してください。
(intra-mart AppFrameworkの場合、この設定ファイル編集後に再デプロイを行ってください)

・RequestCharacterEncodingFilter
・ResponseCharacterEncodingSettingFilter
・ResponseCharacterEncodingManagementFilter
・URLAccessFilter
・SessionFilter

Column

ページカラーパターンの変更方法

intra-martは、ページカラーを変更することができます。標準で用意されているカラーは、次の5色で、次の場所に設定ファイルが用意されています。カラーページは、CSSによって簡単に変更することができます。画面作成に関しては、以下のドキュメントが用意されています。

・画面デザインガイドライン
・スタイルシート仕様書
・アクセスセキュリティ仕様書

画面デザインガイドラインに準じたＡＰＩも用意されています。ＡＰＩ仕様は、画面デザインガイドラインのドキュメントに掲載されています。

カラーパターンコード	表示名	CSS パス	イメージパス
blue	青系	/skin/blue/blue.css /skin/blue/color.css /skin/blue/skin.css	/skin/blue
gray	グレー系	/skin/gray/gray.css /skin/gray/color.css /skin/gray/skin.css	/skin/gray
green	緑系	/skin/green/green.css /skin/green/color.css /skin/green/skin.css	/skin/green
orange	オレンジ系	/skin/orange/orange.css /skin/orange/color.css /skin/orange/skin.css	/skin/orange
red	赤系	/skin/red/red.css /skin/red/color.css /skin/red/skin.css	/skin/red

2.2 ログイングループの設定

システム管理者によって作成された段階で、ログイングループのデフォルトのロケールやエンコーディングなどの設定が行われています。しかし、ログイングループ管理者は、［ログイングループ管理］－［ログイングループ設定］画面で、ログイングループごとに設定を変更することができます。また、この画面では、ログイングループ管理者のユーザIDやパスワードの設定も行えます。

2.2.1 ［ログイングループ］タブ

ここでは、作成するログイングループの基礎データの登録を行います。ここでの設定は、ログイングループのデフォルトの設定となりますが、各ユーザの設定が優先されます。

<ログイングループ設定画面 ― ログイングループタブ>

ログイングループID	ログイングループの名称です。
ロケール	このログイングループがデフォルトで使用する言語を選択します。
アカウントロック回数	ログイン時に、ログインIDとパスワードが認証されなかった場合、ここで設定した回数を経過すると、「アカウントロック期間」で設定した分数だけログインの操作ができなくなります。回数を「0」とすると、アカウントロックすることなく、ログインを試行することができます。
アカウントロック期間（分）	アカウントロックされた場合、ここで設定した時間（分）ログインすることができなくなります。 「0」を設定すると、ロックを解除しなくなります。 この場合、ロックを解除するには、ログイングループ管理者が「アカウント設定画面」にて、手動で解除する必要があります。
ページカラーパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面の色調を選択します。色調は、あらかじめ、「青」、「緑」、「グレー」、「オレンジ」、「赤」の5つが登録されています。

メインページパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面パターンを設定します。画面パターンは、追加、削除することもできます。ここには、一般ユーザのログイン後に表示されるのページURLをリストします。ユーザは、このリスト内から、好きなログイン後に表示されるページを選択できます。

2.2.1.1 メインページパターンの追加

メインページは、ユーザが追加、削除、そして編集することができます。標準では、V6.0の新デザインと、V5.xの２つのデザインのメインページパターンが用意されています。

<メインページパターンの追加および編集画面>

ページパターンID（必須）	ログイン後に表示されるページのパターンID
ページURL（必須）	ログイン後に表示されるページパターンのURL 指定するURLがスクリプト開発モデルの場合は、pages/**/srcからの相対パスで、最後に拡張子(.jssp)を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。
ページイメージURL	ログイン後に表示されるページのパターンの概要イメージ。コンテキストパスからの相対パスで指定する。

2.2.2 ［ログイングループ管理者］タブ

［ログイングループ管理者］タブでは、システム管理者が登録したログイングループの管理者のユーザIDやパスワードなどが表示されています。ログイングループ管理者は、ここで設定されているユーザIDやパスワードを変更することができます。

<ログイングループ設定画面 ― ログイングループ管理者タブ>

ユーザID（必須）	ログイングループ管理者のログインIDを入力します。
パスワード	ログイングループ管理者がログインする際に使用する、パスワードです。
パスワード（確認）	［パスワード］で入力した文字列を再入力します。
ユーザロケール	intra-martは多言語化に対応していますので、ここでログイングループ管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。
メールアドレス	ログイングループ管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、ログイングループ管理者へ連絡する際に使用することができます。
電話番号	ログイングループ管理者への連絡先としての電話番号です。

2.3 アカウントライセンスの設定

ログイングループに割り振られたアカウントライセンスは、ログイングループ管理者によってユーザに割り振らなければなりません。アカウントライセンスの設定は、アカウント設定画面でユーザを登録する際にも行えますが、ここで説明する[ログイングループ管理]-[アカウント管理]-[アカウントライセンス設定]画面を利用すると、効率よく登録されている全ユーザに対して割り振ることができます。
この画面では、特定のアカウントを検索して設定する方法と、「全て表示」、「ライセンス有」、「ライセンス無」などの条件で、該当するアカウントをまとめて表示させて設定する方法が用意されています。
また、これらを組み合わせることで、さまざまな方法でアカウントを絞り込むことができます。

2.3.1 特定のアカウントを検索して設定する

1 ユーザID欄にアカウントを入力し、表示方法を選択して、[検索]をクリックします。
ユーザIDは、部分一致で検索されます。

● 「全て表示」、「ライセンス有」、「ライセンス無」などの条件も組み合わせて検索が行えます。

2 表示されたユーザに対して、ライセンスを割り振る場合は、「ライセンス」をチェックし、[登録]ボタンをクリックします。

2.3.2 アカウントをまとめて表示させて設定する

アカウントをまとめて表示させる際に、「全アカウント」、「ライセンス有り」、「ライセンスなし」などの条件を設定することができます。

1 「全て表示」、「ライセンス有」、「ライセンス無」を選択して、[検索]アイコンをクリックします。
ユーザID欄は、空白にします。

2 表示されたユーザに対して、ライセンスを割り振る場合はチェックし、[登録]ボタンをクリックします。
複数ページある場合は、≪、<、>、≫などのアイコンをクリックすると、それぞれ最前ページ、前ページ、次ページ、最終ページに移動できます。

2.4 アプリケーションロールの設定

アカウントライセンスと同様に、intra-martアプリケーションに対しても、利用を開始する際に購入したアプリケーションのアプリケーションロールを、アカウント（ユーザ）に割り振らなければなりません。
アプリケーションロールは、[アカウント設定]メニューで、アカウントごとに設定することもできますが、[ログイングループ管理]-[アカウント管理]-[アプリケーションロール設定]画面では、まとめて効率よく設定を行うことができます。
この画面では、特定のアカウントを検索して設定する方法と、「全て表示」、「ロール有」、「ロール無」などの条件で、該当するアカウントをまとめて表示させて設定する方法が用意されています。また、これらを組み合わせることで、さまざまな方法でアカウントを絞り込むことができます。

- アプリケーションロールを設定すべきアプリケーションがインストールされていない場合は、「アプリケーションロールが存在しません」とメッセージが表示されます。

2.4.1 特定のアカウントを検索して設定する

1 設定するアプリケーションを選択後、ユーザID欄にアカウントを入力し、表示方法を選択して、[検索]をクリックします。
ユーザIDは、部分一致で検索されます。

- 「全アカウント」、「ロール有」、「ロール無」などの条件も組み合わせて検索が行えます。

2 表示されたユーザに対して、アプリケーションロールを割り振る場合は、チェックして[登録]ボタンをクリックします。

2.4.2 アカウントをまとめて表示させて設定する

アカウントをまとめて表示させる際に、「全アカウント」、「ロール有」、「ロール無」などの条件を設定することができます。

1 設定するアプリケーションを選択後、「全アカウント」、「ロール有」、「ロール無」を選択して、[検索]アイコンをクリックします。
ユーザID欄は、空白にします。

2 表示されたアカウントに対して、アプリケーションロールを割り振る場合はチェックし、[登録]ボタンをクリックします。
複数ページある場合は、≪、<、>、≫などのアイコンをクリックすると、それぞれ最前ページ、前ページ、次ページ、最終ページに移動できます。

- アプリケーションロール数の欄には、全アプリケーションロール数と割り振られているアプリケーションロールの数が表示されています。

2.5 アクセスセキュリティの管理

ここでは、intra-martのアクセスセキュリティについて、その考え方ならびに設定の方法を説明します。intra-martでは、フォルダ/ページへのアクセスをシステム設定の各画面からコントロールします。つまり、作成したプログラムを変更することなく、あらゆるアクセス権を自由にコントロールすることができるようになっています。

2.5.1 intra-martのアクセスセキュリティの考え方

intra-martのアクセスセキュリティは、ユーザに対してアクセス権限を設定します。また、フォルダ/ページに対してもアクセス権限を設定します。ユーザがログインすると、自分が持っているアクセス権限とフォルダ/ページなどが持っているアクセス権限を突き合わせて、アクセス権レベルに応じたフォルダ/ページだけが表示され、アクセスできるようになります。
intra-martで使用できるアクセス権限には、次のようなものがあります。

「ロール」
「組織」
「役職」
「パブリックグループ」

例えば、あるページは、特定の部署（組織）に所属する部長（役職）や特定のロールを持っている人だけがアクセスできるように設定することができます。

<intra-martのアクセスセキュリティ>

- ユーザに対するアクセス権限は、ロールに関してはユーザを登録する[アカウント設定]で設定しますが、その他のアクセス権限（組織、役職、パブリックグループ）に関しては、ユーザに対して設定するのではなく、例えば組織に対してユーザを登録します。
- アクセス権限の設定方法のうち「ロール」は本節で解説していますが、「組織」、「役職」、「パブリックグループ」に関しては、「2.8 アプリケーション共通マスタunit」を参照してください。
- アクセスセキュリティの詳細に関しては、別冊の「アクセスセキュリティ仕様書」も参照してください。

2.5.2 ロールの設定

intra-martのアクセス権限のひとつに、「ロール」があります。あらかじめ［ロール設定］で作成したロールをユーザとフォルダ/ページの双方に設定しておくことで、アクセスセキュリティが機能します。
ロールは、［ログイングループ管理］の［ロール設定］で行います。ロール自身には、アクセス権限の上位または下位はなく、ユーザが自由に作成することができます。ただし、ネスト構造を設定すると、ロール自身に上位または下位の権限が生じます。

<ロール設定画面>

カテゴリ（左欄）	登録されているカテゴリが選択できます。選択すると、そのカテゴリに属するロールだけを絞り込んで表示させることができます。カテゴリの登録は、各ロールの設定画面で行います。
ロール名（左欄）	ここに入力した文字列を含む（部分一致）ロールだけを絞り込んで表示させることができます。
（ロール一覧）	現在登録されているロールの一覧が表示されています。カテゴリやロール名で絞り込んで表示させることができます。表示されたロール名をクリックすると、右欄に詳細が表示され、ロールの設定内容を更新できます。
ロールID	システム内部で使用されるロールの識別子です。通常、変更する必要はありません。
ロール名（必須）（右欄）	ロール名を入力します。
カテゴリ（右欄）	ロールを分類するためのカテゴリ名の入力です。ここでカテゴリ名を登録しておくと、ロールを選択する際に、カテゴリ名で絞り込み表示させることができます。
表示名（必須）	アプリケーションなどのロール表示に用いられるロールの名称です。多言語を使用している場合には、コンボボックスで言語を切り替えて、すべての言語について入力する必要があります。
サブロール	現在表示または登録しようとしているロールに包含させたいロールを選択入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。

サブロールの詳細については、次のコラム「ロールとサブロール」を参照してください。

備考

ロールに対する備考を入力します。

- ［データインポート］および［データエクスポート］の操作については「2.5.8 アクセスセキュリティのインポート及び、2.5.9 アクセスセキュリティのエクスポート」を参照してください。

Column

ロールとサブロール

ロールは、ネスト構造を持たせることができるようになっています。
たとえば、図のように「管理者」というロールに、「ゲスト」と「ユーザ」というロールを包含するように設定すると、「管理者」というロールを持ったユーザは、「ゲスト」というロールを持ったページも、「ユーザ」というロールを持ったページも閲覧することができるようになります。

2.5.3 ユーザの登録と削除（アカウント情報とプロファイル情報）

［ログイングループ管理］－［アカウント管理］の［アカウント設定］では、「アカウント」情報とユーザの「プロファイル」情報の登録を行います。「アカウント」情報とは、intra-martへのログインやアクセスセキュリティに関わる情報です。また、ユーザの「プロファイル」情報とは、ユーザ個人の住所や電話番号、メールアドレスなどの情報で、intra-martアプリケーションなどで利用します。通常のユーザは、この2つの情報を同時に持っていますが、「ｇｕｅｓｔ」というようなユーザは、ログインするためのアカウント情報は持っていますが、特定の個人ではないためプロファイル情報は持っていません。
なお、登録したユーザのアカウント情報とプロファイル情報は、すべてデータベースに保存されます。

<アカウント設定画面>

2.5.3.1 ユーザの新規登録

次の手順ユーザを登録します。

1 ［ユーザ］で表示されるメニューから［追加］を選択します。

2 [メイン]タブで「ユーザコード」を入力します。

3 [アカウント]タブをクリックし、[ログイン設定]タブの情報を入力します。

パスワード/確認パスワード	ログイン時に使用するパスワードの入力です。
モバイルパスワード/確認モバイルパスワード	モバイルでログイン時に使用するパスワードの入力です。
ライセンス	ログイングループに割り振られているライセンスをユーザに割り振る際にチェックします。ライセンスが割り振られていないと、ログインすることはできません。また、ライセンスの設定は、[ログイングループ管理]の[アカウントライセンス設定]で行うと、すべてのアカウントに対して設定できます。
有効期間	アカウントが有効な期間を表しています。ユーザがこのアカウントでログインするためには、有効期間内でかつライセンスにチェックされていることが必要です。有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.81)」を参照してください。
説明	このアカウントの説明を入力します。

4 ［環境設定］タブをクリックして情報を入力します。

ロケール	このアカウントがデフォルトで使用する言語を選択します。ここでの設定よりも、ユーザが［ユーザ設定］の［ロケール設定］で設定したものの方が優先されます。
外出フラグ	外出中を示すフラグで、チェックするとデフォルトで外出中となります。ただし、ここでの設定より、ユーザが［ユーザ設定］の［外出設定］で設定したものの方が優先されます。
ログイン失敗回数	この段階でこのアカウントでのログインに失敗している回数を表示しています。ユーザがこのアカウントでログインに成功していない状態です。ユーザがこのアカウントでログインに成功すると、0にリセットされます。
アカウントロック	チェックするとアカウントロックされ、ログインできなくなります。

Column

有効期間の終了日の取扱い

intra-martでは、さまざまな情報設定項目に有効期間が用意されています。有効期間は、「開始日」と「終了日」を設定しますが、この時システム上では「ユーザが設定した終了日＋１」としてデータベースに格納されています。

開始日（1/1） <＝ ユーザが設定した有効期間 <＝ 終了日（3/31）
開始日（1/1） <＝ システム上の有効期間 ＜ 終了日（4/1）

各メンテナンス画面に有効期間を表示する際には、「システム上の終了日－１」として表示しています。

5 ［権限設定］タブをクリックして情報を入力します。

ロール

このアカウントに設定するロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。このウインドウ上では、各ロールのコードを表示することもできます。

アプリケーションロール

このアカウントのユーザにインストールされているアプリケーション（イントラネットスタートパックなど）の利用を認める場合に、アプリケーションを選択入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてアプリケーションが選択できます。

6 [ページ設定]タブをクリックして情報を入力します。

ページカラーパターン	このアカウントがデフォルトで使用する画面の色調を選択します。色調は、あらかじめ、「青」、「緑」、「グレー」、「オレンジ」、「赤」の5つが登録されています。ここでの設定よりも、ユーザが[ユーザ設定]の[カラーパターン設定]で設定したものの方が優先されます。
メインページパターン	このアカウントがデフォルトで使用する画面パターンを選択します。画面パターンは、[ログイングループ管理]の[ログイングループ設定]で登録されたものが表示されます。ここでの設定よりも、ユーザが[ユーザ設定]の[メインページパターン設定]で設定したものの方が優先されます。ここには、一般ユーザのログイン後に表示されるのページURLをリストします。ユーザは、このリスト内から、好きなログイン後に表示されるページを選択できます。

7 [プロファイル]タブをクリックして、プロファイル情報の有効期間を入力します。

[追加]ボタン	初期には、本日からシステムの最大有効日付に設定されていますので、終了日を変更してから、次の期間を入力します。
[変更]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を変更することができます。
[削除]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を削除することができます。
拡大	期間のリストの表示が拡大されます。
(期間リスト)	期間が複数登録されている場合は、選択した期間のプロファイルが下記に表示されます。

Column

期間の設定について

期間を設定する際には、次のような点に気をつけて登録する必要があります。
複数の期間を登録する場合は、互いに重なる期間を登録することはでできません。
たとえば、以下のような期間を登録することはできません。
(例1)
期間(1)：2000/01/01 ～ 2004/12/31
期間(2)：2002/01/01 ～ 2008/12/31

(例2)
期間(1)：2000/01/01 ～ 2004/12/31
期間(2)：2004/12/31 ～ 2008/12/31

次の期間の登録は正常に行われます。
期間(1)：2000/01/01 ～ 2004/12/31
期間(2)：2005/01/01 ～ 2006/12/31

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.81)」も参照してください。

8 [ユーザ]タブの情報を入力します。ここの情報は、期間および言語ごとに入力します。

ユーザ名(必須)	ユーザ名を入力します。[メイン]タブで入力したユーザコードが初期表示されます。
ユーザ名カナ	ユーザ名カナを入力します。
ユーザ名漢字	ユーザ名漢字を入力します。

9 [電話・FAX番号]タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

電話番号	電話番号の入力です。
FAX番号	FAX番号の入力です。
内線番号	内線番号の入力です。
内線FAX番号	内線FAX番号の入力です。
携帯電話番号	携帯電話番号の入力です。

10 ［住所］タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

国コード	国コードの入力です。
郵便番号	郵便番号の入力です。
住所	住所の入力です。多言語化に対応しているので、登録してある言語を切り替えて入力します。

11 ［インターネット］タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

メールアドレス1、2	メールアドレスを入力します。2つまで入力できます。
携帯メールアドレス	携帯メールアドレスを入力します。
URL	ホームページのURLを入力します。

12 ［非期間化］タブをクリックして情報を入力します。

ソートキー	この項目はソートを行うための番号を入力する項目です。半角数字で5桁まで入力できます。
備考	備考を入力します。

13 ［所属］タブをクリックして情報を入力します。

[カレンダー]ボタン

所属した日を選択します。

[所属追加]ボタン

所属している組織を選択します。このウインドウ上では、会社や組織のコードを表示することもできます。

[一覧]・・・システム日付が期間に含まれる会社や組織が表示されます。

[ツリー]・・・期間に関わらず登録されている全ての会社や組織が表示されます。

[所属削除]ボタン

選択した所属を削除します。

[所属期間]ボタン

組織に所属している期間を選択します。また、期間と同時に主所属、ならびに役職を設定することができます。所属期間は、所属情報が登録された後でないと設定することができません。

2.5.3.2 ユーザの削除

次の手順では、ユーザを削除します。

1 [ユーザ一覧]より削除するユーザを選択します。

2 [プロファイル]から[削除]を選択します。

3 [アカウント]から[削除]を選択します。

4 [アカウント]タブと、[プロファイル]タブが消えた事を確認し、[更新]ボタンをクリックします。

5 更新の確認ダイアログが表示されます、削除する場合は[OK]をクリックします。

6 ユーザの削除が行われると、完了ダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。

2.5.4 フォルダ/ページへのアクセス権限の設定

フォルダやページへのロール（アクセス権限）の設定は、［ログイングループ管理］の［メニュー設定］で行います。詳細については、「2.6 メニュー設定」を参照してください。

2.5.5 その他のアクセス権限（組織・役職・パブリックグループ）の設定

組織・パブリックグループといったアクセス権限の設定は、［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］と［パブリックグループ設定］で、それぞれの登録画面で所属するユーザを設定します。役職については、［組織設定］で所属するユーザを設定するときに、役職を選択することになります。詳細については、「2.8 アプリケーション共通マスタunit」を参照してください。

2.5.6 ロール別アカウント一覧

[ロール別アカウント一覧]は、そのロールを所持しているアカウント一覧を表示する機能です。
また、一覧表示されたアカウントから、アカウントの編集画面に遷移することもできます。
操作は、[ログイングループ管理]-[アカウント管理]-[ロール別アカウント一覧]メニューで行います。

1 [ログイングループ管理]-[アカウント管理]-[ロール別アカウント一覧]を選択します。
登録されているロールが一覧表示されます。

2 ロール名をクリックします。
選択したロールを持つアカウントが表示されます。

3 表示されたアカウント名をクリックします。

アカウント編集画面が表示され、アカウント情報やプロファイル情報の編集が行えます。

● ここでの操作に関しては、「2.5.3 ユーザの登録と削除(アカウント情報とプロファイル情報)」を参照してください。

2.5.7 アクセスコントローラ

アクセスコントローラは、ログインしているユーザのアクセス権に応じて、プログラム中のブロック単位で制御する仕組みです。あらかじめ、ログイングループ管理者権限で、「アクセスコントローラ」を作成し、アクセス権を与えておきます。プログラム中で、下記のように作成した「アクセスコントロール」を使用することによって、プログラムを制御することができます。

<アクセスコントローラの概念図>

- 作成されていないアクセスコントローラのタグを使用した場合は、デフォルトではすべてのユーザに表示されません。
- defaultShow属性を追加して、trueに設定すると、すべてのユーザに対して表示できます。あとから、対象のアクセスコントローラを作成し、権限を付与すれば通常のように制御することができるようになります。
- アクセスコントローラの詳細に関しては、「プログラミングガイド」を参照してください。

2.5.7.1 アクセスコントローラを作成する

アクセスコントローラを使用してプログラムの一部にアクセス権を設定するには、IDを作成します。

1 [ログイングループ管理]の[アクセスコンローラ設定]をクリックします。
[アクセスコンローラマスタメンテナンス] 画面が表示されます。

<[アクセスコンローラマスタメンテナンス]画面>

2 新たにアクセスコントロールを作成するには、[新規登録]をクリックし、アクセスコントローラIDとアクセスコントロール名を入力します。

<新規登録を選択し、アクセスコントロールを作成する>

アクセスコントローラID(必須)	プログラム中で指定するアクセスコントローラIDを入力します。初期には、自動採番されたコードが表示されていて、変更することができます。
アクセスコントローラ名(必須)	設定画面のアクセスコントローラ一覧のリストに表示される表示名です。
説明	このアクセスコンローラに関する説明を入力します。

3 ［ロール］、［組織］、［役職］、［パブリックグループ］などのタブを選択して、アクセス権を設定します。
作成しているアクセスコントロールIDを持つプログラムが実行されるアクセス権を設定します。

〈アクセス権を登録する〉

［ロール］タブ

このアクセスコントローラに設定するアクセス権限としてのロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。［追加］ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。このウインドウ上では、各ロールのコードを表示することもできます。

[組織]タブ

このアクセスコントローラに設定するアクセス権限としての組織を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、会社や組織のコードを表示することもできます。

[役職]タブ

このアクセスコントローラに設定するアクセス権限としての役職を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。このウインドウ上では、会社や役職のコードを表示することもできます。

[パブリックグループ]タブ

このアクセスコントローラに設定するアクセス権限としてのパブリックグループを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、パブリックグループのコードを表示することもできます。

[追加]

選択しているタブに関するアクセス権を追加することができます。

[選択項目を削除]

現在選択しているアクセス権を削除することができます。

[コードを表示]

表示されているアクセス権一覧にコードの列を表示させます。

4 アクセス権を登録したら、[登録]ボタンをクリックします。

アクセスコントローラが登録され、プログラム中で使用できるようになります。

<アクセスコントローラを登録する>

[登録]ボタン	入力したアクセスコントローラを登録します。

2.5.8 アクセスセキュリティのインポート

この画面では、アクセスセキュリティのエクスポートで書き出しておいた設定情報をインポートすることができます。インポートしたいファイルのパスを記述して、［インポート］ボタンをクリックします。

標準(standard)ではXML形式でのインポートとなります。

なお、アカウントに関しては、csv形式のファイルのインポートが可能です。インポートファイルは、ストレージサービスのstorageからの相対パスで指定します。

<アクセスセキュリティのインポート画面>

2.5.9 アクセスセキュリティのエクスポート

この画面では、アクセスセキュリティ関連の設定情報をエクスポートすることができます。書き出しておいた設定情報は、［アクセスセキュリティインポート］で戻すことができます。エクスポートしたいファイルのパスを記述して、［エクスポート］ボタンをクリックします。
標準(standard)ではXML形式でのエクスポートとなります。
なお、アカウントに関しては、csv形式のファイルのエクスポートが可能です。エクスポートファイルは、ストレージサービスのstorageからの相対パスで指定します。

<アクセスセキュリティのエクスポート画面>

Column

ログイン画面なしでintra-martを起動する方法

①ログイン画面およびメニュー画面を利用しない方法（アクセスセキュリティモジュールを使用しない）
詳細については、APIリストのオリジナルアプリケーションの作成方法を参照してください。

②ログイン画面のみを利用しない方法（アクセスセキュリティモジュールを使用しない）
intra-martにログインする際のURLに、次のようにユーザコードとパスワードを含めると、ログイン画面なしで自動認証されます。
http://サーバアドレス/ imart/(ログイングループID).portal?im_user=xxxx&im_password =yyyy
xxxx：ユーザコード　yyyy：パスワード

Column

アクセスセキュリティの標準実装

● 標準実装における情報の保管場所

アクセスセキュリティ情報のintra-mart WebPlatform標準実装における保管場所は、以下のようになっています。

アクセスセキュリティ情報	保管場所	特記事項
対応ロール	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/locale_*.properties
対応クライアント	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/client_*.properties
対応カラーパターン	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/color_*.properties
システムデータベース	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/data-source.xml
メッセージ	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/message/*.properties
システムメニュー	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system-menu.xml
システム管理者	Permanent Data Server	
ログイングループ	Permanent Data Server	
グループデータベース	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/data-source.xml
グループ管理者	Permanent Data Server	
アカウント	ログイングループのデータベース	アカウントのパスワードを暗号化
ロール	ログイングループのデータベース	
メニュー	ログイングループのデータベース	
カレンダー	ログイングループのデータベース	
バッチ	ログイングループのデータベース	

●標準実装における注意点

アクセスセキュリティ情報の中で、ログイングループに属するアカウント、ロール、メニュー、カレンダー、バッチは、データベースに保管されます。これらの情報について更新APIを用いて更新する場合、トランザクション内で更新処理を行ってください。

2.6 メニュー設定

メニュー設定とは、ユーザの画面に表示されるメニューを設定する画面です。この画面では、メニューに表示されるフォルダやページの追加、削除、更新などの操作が行えます。また、フォルダや各ページには、アクセス権限を設定することで表示させるユーザを制御することができます。アクセスセキュリティの詳細は、「2.5 アクセスセキュリティの管理」を参照してください。

- メニューの設定には、この節の前半で解説しているメニュー設定から行う方法と、ロールごとに設定されているメニューを表示する[ロール別メニュー一覧]が用意されています。

<一般ユーザ用のメニューを設定する画面>

2.6.1 新規フォルダの作成

メニューに新規フォルダを追加するには、上部にある［新規フォルダ］アイコンをクリックします。新規に作成されたフォルダは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したフォルダをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「2.6.5 フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の［新規登録］ボタンをクリックします。

<新規フォルダの作成>

メニューID(必須)	作成するフォルダのIDを入力します。初期値には、自動採番されたコードが設定されます。
表示名(必須・ロケール)	フォルダの作成時には、登録されているロケールすべてについてフォルダ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するフォルダ名のロケールを選択します。
表示名(必須・名称)	選択したロケールに対応したフォルダ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてフォルダ名を入力します。
クライアントタイプ	PCかモバイル用かを選択します。ここで登録するフォルダをパソコンからのアクセスで表示するか、携帯端末などモバイルからのアクセスで表示するかを制御します。
備考	フォルダに関する備考を入力します。
アイコン画像ファイルパス	メニューの先頭に表示するアイコンのパスを記入します。
[ロール]タブ	このフォルダに設定するアクセス権限としてのロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。このウインドウ上では、各ロールのコードを表示することもできます。

[組織]タブ

このフォルダに設定するアクセス権限としての組織を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、会社や組織のコードを表示することもできます。

[一覧]・・・システム日付が期間に含まれる会社や組織が表示されます。

[ツリー]・・・期間に関わらず登録されている全ての会社や組織が表示されます。

[役職]タブ

このフォルダに設定するアクセス権限としての役職を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。このウインドウ上では、会社や役職のコードを表示することもできます。

[パブリックグループ]タブ

このフォルダに設定するアクセス権限としてのパブリックグループを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、パブリックグループのコードを表示することもできます。

[一覧]・・・システム日付が期間に含まれるパブリックグループが表示されます。

[ツリー]・・・期間に関わらず登録されている全てのパブリックグループが表示されます。

2.6.2 新規ページの作成

メニューに新規ページを追加するには、上部にある［新規ページ］アイコンをクリックします。新規に作成されたページは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したページをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「2.6.5 フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の［新規登録］ボタンをクリックします。

<新規ページの作成>

メニューID（必須）

作成するページのIDを入力します。初期には、自動採番されたコードが表示されていて、変更することができます。

表示名（必須・ロケール）

ページの作成時には、登録されているロケールすべてについてページ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するページ名のロケールを選択します。

表示名（必須・名称）

選択したロケールに対応したページ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてページ名を入力します。

クライアントタイプ

PCかモバイル用かを選択します。ここで登録するページをパソコンからのアクセスで表示するか、携帯端末などモバイルからのアクセスで表示するかを制御します。

URL（必須）

実際に表示したいページのURLを記述します。
指定するURLがスクリプト開発モデルの場合は、pagesからの相対パスで、最後に拡張子(.jssp)を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。

引数

ページ起動時に必要な引数がある場合には、ここで[追加]ボタンをクリックして登録します。登録した引数は、いつでも更新・削除することができます。

アイコン画像ファイルパス

メニューの先頭に表示するアイコンのパスを記入します。

備考

このページに関する備考を入力します。

[ロール]タブ

このページに設定するアクセス権限としてのロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。このウインドウ上では、各ロールのコードを表示することもできます。

[組織]タブ

このページに設定するアクセス権限としての組織を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、会社や組織のコードを表示することもできます。

[一覧]・・・システム日付が期間に含まれる会社や組織が表示されます。

[ツリー]・・・期間に関わらず登録されている全ての会社や組織が表示されます。

[役職]タブ

このページに設定するアクセス権限としての役職を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。このウインドウ上では、会社や役職のコードを表示することもできます。

[パブリックグループ]タブ

このページに設定するアクセス権限としてのパブリックグループを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、パブリックグループのコードを表示することもできます。

[一覧]・・・システム日付が期間に含まれるパブリックグループが表示されます。

[ツリー]・・・期間に関わらず登録されている全てのパブリックグループが表示されます。

2.6.3 新規ページ(外部URL)の作成

メニューに新規ページとして外部URLを追加するには、上部にある［新規ページ（外部URL）］アイコンをクリックします。操作は、「2.6.2 新規ページの作成」を参照してください。

2.6.4 フォルダやページの更新と削除

既存のフォルダやページを更新や削除するには、まずツリー上で該当するフォルダやページを選択します。右に詳細な情報が表示されるので、変更することができます。変更の反映は、［更新］ボタンで行います。フォルダやメニューを削除するには、選択した状態で、［削除］アイコンをクリックします。

2.6.5 フォルダやページの表示順の変更

既存のフォルダやページの表示順序を変更するには、ツリー表示で該当するフォルダやメニューを任意の位置までドラッグします。ドラッグした先がページの場合は、そのすぐ次に移動します。
ドラッグした先がフォルダの場合には、そのフォルダの中あるいは配下への移動かを選択するメニューが表示されます。

<フォルダを別のフォルダにドラッグした場合の例>

2.6.6 ロール別にメニューを設定する

[ログイングループ管理]-[メニュー管理]-[ロール別メニュー一覧]は、登録してあるロールごとに所持しているメニュー一覧を表示する機能です。また、一覧表示されたメニューから、メニューの編集画面に遷移することもできます。

- この画面は該当ロールを所持しているメニューを一覧表示する機能であって、該当ロールを所持しているユーザの画面に表示されるメニューの一覧ではありません。

1 [ログイングループ管理]-[メニュー管理]-[ロール別メニュー一覧]を選択します。
登録されているロールが一覧表示されます。

2 ロール名をクリックします。
選択したロールを持つメニューが表示されます。

3 表示されたメニュー名をクリックします。

メニュー編集画面が表示され、メニューに対する権限などの編集が行えます。

- ここでの操作に関しては、「2.6 メニュー設定」を参照してください。

2.7 アプリケーションの登録

開発者が作成したアプリケーション（スクリプト開発モデルでは、プレゼンテーションページとファンクションコンテナのセット、JavaEE開発モデルではJSP、Servlet）をintra-martのメニュー画面から実行できるようにするには、次のような登録手順が必要になります。
アプリケーションの登録の全体の流れは以下のようになります。

1 アプリケーションの保存

2 「フォルダ」の登録

3 「ページ」の登録

4 アクセスセキュリティ（ロール）の設定

5 再ログイン

<アプリケーションの登録手順>

- アプリケーションを登録するには、事前にユーザの登録、ロール（アクセス権）の設定などが行われている必要があります。
- ページのアクセスセキュリティの設定に関する操作は、「2.5 アクセスセキュリティの管理」を参照してください。

2.7.1 フォルダとページ

intra-martでは、作成したアプリケーション全体を「フォルダ」に登録します。通常のアプリケーションでは、ひとつの「フォルダ」とその中に含まれる複数の「ページ」から構成されることになります。それぞれの「ページ」は、スクリプト開発モデルではプレゼンテーション・ページ（HTMLファイル）とファンクション・コンテナ（JavaScriptファイル）のセット、JavaEE開発モデルではJSP（JSPファイル）または、Serv l et（JAVAのクラスファイル）になります。ただし、intra-martではメニューツリーのどの階層にでもフォルダやページを置くことができます。

<フォルダとページ概念>

- intra-mart WebPlatformやintra-mart AppFrameworkを利用して構築するアプリケーションは、このフォルダ/ページのフレームを利用したメニュー構成が基本となります。このメニュー構成を利用することで、アクセスセキュリティの機能を使用することが可能になります。

2.7.2 アプリケーション登録の操作

1 アプリケーションの保存

作成したアプリケーションに関連するすべてのファイルを所定の場所に保存します。

```
スクリプト開発モデルのファイルの保存先　%Resource service%/pages/ディレクトリに保存
JavaEE開発モデルのファイルの保存先%Application Runtime%/doc/ディレクトリに保存
```

2 「フォルダ」の登録

［ログイングループ管理］－［メニュー管理］の［メニュー設定］で、フォルダを新規登録します。フォルダの登録の操作に関しては、「2.6 メニュー設定」を参照してください。

3 「ページ」の登録

フォルダと同様にページを登録します。ページの登録の操作に関しては、「2.6 メニュー設定」を参照してください。

＜パスの指定方法＞

- スクリプト開発モデルの場合
  パスは、intra-martをインストールしたフォルダ/pagesからの相対パス（拡張子はjssp）です。
- JavaEEフレームワーク（im-Framework）を利用せず、自作のServletやJSPをページに登録する場合
  intra-martのURLがhttp://hostname:port/imart/intramartだとすると
  ①「/」で始まる場合
  「/hello」と指定するとhttp://hostname:port/helloとして呼び出される。
  ②パスの終端に拡張子が付いている場合
  「hello.jsp」と指定するとhttp://hostname:port/imart/hello.jspとして呼び出される。
  ③「://」が含まれる場合
  「http://abc/hello.jsp」と指定すると http://abc/hello.jsp として呼び出される。
- JavaEEフレームワーク（im-Framework）で作成したアプリケーションをページに登録する場合
  URLにXXXX-YYYY.service
  アプリケーションID　：XXXX
  サービスID　：YYYY
  （XXXX,YYYY部分は「プログラミングガイド JavaEE開発モデル編」を参照してください。

4 再ログイン

「フォルダ」や「ページ」関連マスタメンテナンスの操作を行った場合には、再ログインする必要があります。登録したフォルダ/ページへのアクセス権が正しく設定されたユーザでログインすると、登録したアプリケーションが実行できるようになります。

- ページのアクセスセキュリティの設定に関する操作は、「2.5 アクセスセキュリティの管理」を参照してください。

2.8 アプリケーション共通マスタunit

組織/グループとユーザ情報の管理

会社データ、組織データ、グループデータなどシステム開発でよく利用するマスタが標準で用意されています。これらのマスタは、各intra-martアプリケーションシリーズで共通に利用されています。また、これらのマスタのテーブル構造にアクセスするためのAPIなども公開されており、システム開発時に自由に利用できます。詳細内容については、別冊「アプリケーション共通マスタ説明資料」を参照してください。

2.8.1 組織の設定［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］

intra-martは、さまざまな場面で組織を利用して動作しています。例えば、アクセス権限などにおいては、アクセス権の設定対象としてここで設定した組織を利用しています。また、intra-mart上で動作するアプリケーションを作成する際にも、この組織を利用することができます。

組織の設定は、まず会社を登録し、その会社に属する事業部や部・課・係などの部署を登録します。部署は階層構造を形成することができます。

設定した部署に対しては、どの階層に対してでも社員（ユーザ）を登録することができますし、複数の部署に所属させる（兼務）こともできます。あらかじめ［ログイングループ管理］の［アカウント設定］で「プロファイル」が登録されてるユーザを紐づけることで社員の登録となります。

会社の登録に関して

- 組織の設定では、複数の企業を登録することができるようになっています。そして、それぞれの会社に対して事業部や部・課などの部署や社員を登録できます。
  複数の企業として、子会社や協力会社、取引先、顧客企業などを登録することによって、イントラネットシステムから本格的なBtoBシステムへと発展させることができるようになっています。

2.8.1.1 組織の期間管理

現実の会社の組織は、時間の経過と共に変化します。それに伴い、intra-martに登録してある組織も現実に合わせて変更しなければなりませんが、アプリケーションによっては困った現象が起ります。
例えばワークフローを伴うアプリケーションで、何らかの事情によって過去日で処理を行う場合です。intra-martの組織を現在の組織に変更してしまっているため、過去日で申請を行って上司の承認を得ようにも組織が異なるため申請が行えません。また、未来日に関しても同様ですし、組織変更の期日をまたがるような申請を行った場合、申請後に部署が存在しないという矛盾が生じる場合があります。intra-martでは、上記のようなアプリケーションの要求に応えるため、組織の履歴をすべて残しておくことができるようになっています。**この組織の履歴を管理する機能が「期間管理」です。**

<組織の期間管理>

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.81)」も参照してください。

2.8.1.2「部署の期間」と「組織構成の期間」

会社・部・課などの名称等は、時間の経過と共に変化します。期間管理は、これらの情報に対して、変更があるたびに「この期間はこの情報」、「次の期間はこの情報」と、更新のたびに履歴を残して行きます。
過去（あるいは未来）日で情報を確認したり処理を行う場合には、この蓄積されているその時点での情報をもとに処理が行われるようなアプリケーションを作成することができるようになります。
「部署」は、それぞれの情報が個別に変更履歴を持っています。これらの個別の変更履歴を総称して、**「部署の期間」**と呼んでいます。実は、それ以外に**「組織構成の期間」**という概念が存在しています。これは、部署などの階層化情報の期間管理です。

<期間管理される2つの要素:「組織」と「組織構成」の違い>

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.81)」も参照してください。

2.8.1.3「部署の期間」と「組織構成の期間」の関係

「部署の期間」と「組織構成の期間」には密接な関係があります。これは、「部署」が持っている期間と、その「部署」を階層化した「組織構成」が持つ期間に矛盾が生じてはならないということです。
例えば、下図のように組織構成2を作成した場合、その組織構成に加えるためには、各部署（組織A～C）は、組織構成と同じ「期間」を持っている必要があります。下図のように、組織Bの期間が不足していると、組織構成2に加えることができなくなります。

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い（p.81）」も参照してください。

Column

期間管理を使用せずに組織を登録するには

特に期間管理を行う必要がない場合には、すべての期間を同じに設定（値は何でも構わない）します。すべての部署と組織構成を同じ期間に設定すれば、上記のように期間の矛盾が生じて登録ができないといったことは起りません（なお、終了日はブランクのままにしておいて構いません）。
期間管理は、その必要があるアプリケーションを作成した場合（あるいは利用する場合）にだけ、厳密に管理する必要が生じます。

2.8.1.4 組織設定画面の構成

それでは、実際に期間管理を利用して、組織構成の登録方法について説明します。［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］には、大きく2つの画面が用意されていて、用途によって使い分けることができます。

■会社一覧

［アプリケーション共通マスタ管理］の［組織設定］を選択したときの初期画面です。この画面では、会社の登録、削除および会社が保有する「組織構成の期間」の登録、更新、削除を行うことができます。登録初期には、現在日～終了日（空欄）として登録します。その後、組織構成に変更があったら、最初の組織構成の終了日を入力し、その翌日からスタートする新しい組織構成を追加します。
この画面から会社を登録することができますが、あくまで組織構成の期間を登録するための会社登録となります。会社も組織のひとつであるため、あらためて「組織一覧」画面で会社名などの属性情報を登録する必要があります。

［アプリケーション共通マスタ設定］の［組織設定］の初期画面
会社と組織構成の期間の新規登録と更新・削除が行えます。

新規とコピー・削除ボタン
会社の登録と削除、組織構成の期間の追加・削除、そしてコピーが行えます。

組織構成の期間一覧
会社名と組織構成の期間が一覧表示されます。
会社名はシステム日付時点のものが表示されます。

会社と組織構成期間詳細
新規会社の登録と組織構成の期間の追加・更新などの詳細を設定します。

■組織一覧

この画面では、会社一覧で選択された会社の組織構成、およびそれに属する部署の登録、更新、削除を行うことができます。

「会社一覧」画面で会社の組織構成の期間を選択後、「組織一覧へ」をクリックします。

選択した会社の組織構成画面

部署の追加や削除など組織構成を編集することができます。

新規/削除

部署の新規登録、削除が行えます。

組織構成ツリー

組織構成を階層表示します。部署名は組織構成の期間の開始日時点のものが表示されます。

組織詳細

部署がもつ属性情報を期間、言語毎に設定します。

2.8.1.5 会社の新規登録

ここでは、新規に組織設定を行う場合の一般的な操作の手順を説明します。

<組織設定のフロー>

■会社の登録

[アプリケーション共通マスタ管理] - [組織設定] の会社一覧画面で登録します。ここでは、設立日を2007年1月15日とする会社を登録する例を示します。会社登録時に、一つ目の「組織構成の期間」が登録されます。

- 会社を新規登録した時に設定した組織構成の期間の開始日は、変更することができません。上の例では、設立日である2007年1月15日を変更することはできません。
- 会社を新規登録した時に設定した組織構成の期間よりも古い期間を、追加作成することはできません。上の例では、設立日2007年1月15日より前の期間を作成することはできません。

5 会社を登録するには、[アプリケーション共通マスタ管理]の[組織設定]をクリックします。

[会社・組織] 画面が表示されます。

<会社の登録画面>

6 [会社・組織]画面で、[新規]ボタンをクリックして、表示されるメニューから[会社]を選択します。

左のツリーで登録されている会社や期間が選択されている場合には、［会社］と［期間］というメニューが表示されます。

<会社組織画面>

7 会社に対する、設立の日付（この例では2007年1月15日）をカレンダのアイコンをクリックして入力します。期間の終了日は空欄のままにして、[登録]ボタンをクリックします。

会社を登録すると設立日（2007/1/15）から終了日は空欄（9999/12/31）とする構成期間が作成されます。

<会社の期間を登録する>

- 会社の組織構成の期間は、会社の終了日が決まってる場合を除いて、最も新しい期間の終了日を9999年12月31日に設定してください。そうすると、組織構成の変更時に、組織構成と部署の期間の整合性違反が発生しなくなり、運用しやすくなります。
  具体的な設定例は、「2.8.1.6 組織構成の変更－1：新規に組織構成を作成する」または「2.8.1.7 組織構成の変更－2：組織構成期間をコピーして作成する」を参照してください。

8 ツリーに会社と最初の期間化情報が表示されます。

ここでは会社名は入力されておらず、「名称未設定」となります。会社の名称入力は、組織一覧画面で、会社の属性設定で行います。

<会社が登録される>

■会社の属性登録

会社を登録しても、会社の属性情報の登録が行われていないと、会社名欄には「名称未設定」と表示されています。会社も組織構成要素のひとつですから、組織一覧画面に遷移して、会社に関するさまざまな属性情報を登録します。詳細な操作は、「2.8.1.9 部署の属性登録」（p.133）を参照してください。

■部署の登録

会社と会社の属性の登録が終了したら、組織を追加して組織構成の階層を作成します。部署の登録は、［組織一覧］画面で行います。

1 登録した会社の期間化情報を選択して、[組織一覧へ]をクリックします。

選択している会社の［組織一覧］画面が表示されます。

<会社の期間化情報を選択して[組織一覧]画面に遷移する>

2 ［組織一覧］画面の組織構成のツリーから、これから登録する部署の上位の部署を選択し、［新規］ボタンをクリックします。

新規部署の属性設定画面が表示されます。

<部署を登録して組織構成を作成する>

3 部署名など属性を設定して、［登録］ボタンをクリックします。

ここで作成した部署の期間は、会社一覧で選択した組織構成の期間と同じになります。

<部署名など属性を設定する>

［登録］ボタンをクリックすると、左のツリーに作成した部署が表示されます。

■部署の属性登録

部署の登録時には、同時に部署の属性情報の登録が行えます。操作の詳細は、「2.8.1.9 部署の属性登録」（p.133）を参照してください。

2.8.1.6 組織構成の変更－1：新規に組織構成を作成する

現実の会社の組織構成が変更になったら、組織構成期間を追加します。ここでは、新規に組織構成を作成する場合の説明をします。部分的な組織構成の変更は、次で説明する「2.8.1.7 組織構成の変更－2：組織構成期間をコピーして作成する」を参照してください。

■現・組織構成期間の変更

通常は、現在の組織構成期間の終了日は空欄（9999年12月31日）になっています。このままでは、新しい組織構成期間を登録することができないので、現在の組織構成期間の終了日を組織改定日の前日に変更します。

```
構成期間の変更 ： 組織改訂日が「2007年8月1日」の場合
        変更前 ： 2007年1月15日－空欄(9999年12月31日)
        変更後 ： 2007年1月15日－2007年7月31日
```

1 組織改定日（2007年8月1日）に合わせて、組織構成期間の終了日（2007年7月31日）を設定します。
終了日は、組織改定日の前日に変更します。

<現在の組織構成の期間を更新する>

2 [更新]ボタンをクリックします。

会社一覧の期間化情報が更新されます。

<会社一覧の期間化情報が変更された>

■新・組織構成期間の登録

次に、新しい組織構成期間（2007年8月1日～）を作成します。

1 組織構成期間を追加登録する会社が選択されていることを確認して、[新規]ボタンの[期間]をクリックします。

<新しい組織構成期間を追加する>

2 新規の組織構成期間の「期間」が表示されています。開始日は、現在の組織構成期間の翌日(2007年8月1日)に、終了日は空欄になっています。期間を確認して、[登録]ボタンをクリックします。

<新しい構成期間が表示される>

3 左側の会社一覧に、新しく作成された組織構成期間(2007/8/1～9999/12/31)が表示されます。

<会社一覧の欄に新しい構成期間が表示される>

■部署の登録または移動

新しい組織構成期間には、部署などが何も登録されていないので、新しい組織構成を登録します。
または、以前の組織構成の部署が「構成に属さない組織」に表示されますので、部署を移動して組織構成を作成します。
部署を移動する方法には、2通りあります。組織一覧のツリー表示上で「ドラッグアンドドロップで部署を移動する」方法と、もうひとつは、移動させたい部署の属性情報で「親組織を指定して部署を移動する」方法です。新規に部署を登録する方法に関しては、「2.8.1.5 会社の新規登録」の「部署の登録」（p.122）を参照してください。

≪ドラッグアンドドロップで部署を移動する≫

1 ［組織一覧］画面のツリー表示上で、移動させたい組織の先頭のアイコンをドラッグします。
組織のアイコン以外の部分では、ドラッグできません。

<組織をドラッグして移動する>

2 移動したい組織をドラッグして、親組織に重ねます。
重ねた組織の子組織となるように移動が行われます。

<組織が移動する>

≪親組織を指定して部署を移動する≫

1 移動させたい組織の属性情報の[メイン]タブで、「親組織」欄のアイコンをクリックします。
親組織を選択するダイアログボックスが表示されます。

<親組織を選択して移動する>

2 表示されたダイアログボックスで、親組織を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、選択した組織の子組織となるように移動が行われます。

<親組織を選択する>

■部署の属性登録

部署の属性情報は、部署登録時に同時に登録することができます。これらの操作の詳細は、「2.8.1.9 部署の属性登録」（p.133）を参照してください。

2.8.1.7 組織構成の変更－2：組織構成期間をコピーして作成する

新しく改定する組織構成が現在の組織構成に近い場合には、現在の組織構成期間をコピーして作成する方法が用意されています。

■現・組織構成期間の変更

通常は、現在の組織構成期間の終了日は空欄（9999年12月31日）になっています。このままでは、新しい組織構成期間を登録することができないので、現在の組織構成期間の終了日を組織改定日の前日に変更します。

構成期間の変更 ： 組織改訂日が「2007年8月1日」の場合
　　変更前 ： 2007年1月15日－空欄（9999年12月31日）
　　変更後 ： 2007年1月15日－2007年7月31日

1 組織改定日（2007年8月1日）に合わせて、組織構成期間の終了日（2007年7月31日）を設定します。
終了日は、組織改定日の前日に変更します。

<現在の組織構成の期間を更新する>

2 [更新]ボタンをクリックします。

会社一覧の期間化情報が更新されます。

<会社一覧の期間化情報が変更された>

■組織構成期間のコピー

次に、現在の組織構成期間をコピーして、新しい組織構成期間を作成します。

1 組織構成期間を追加登録する会社の組織構成期間が選択されていることを確認して、[コピー]ボタンをクリックします。

画面には、新規の組織構成期間の「期間」の設定ウインドウが表示されます。

<現在の組織構成の期間をコピーして新しい構成期間を作成する>

2 新しい組織構成期間の設定ダイアログボックスが表示されます。開始日は、前構成期間の翌日（2007年8月1日）になっているのを確認して、[OK]ボタンをクリックします。
終了日欄は空欄のままにします。

<新しい組織構成の期間を設定する>

3 左側の会社一覧に、新しい組織構成期間が表示されます。
コピーされた構成期間には、組織も同様にコピーされています。

<会社一覧に新しい構成期間が表示される>

■部署の登録または移動

新しい組織構成期間がコピーにより作成されました。部署などは、すべて以前のものがコピーされているので、最新のものに変更します。

部署の登録や移動の操作に関しては、「2.8.1.6 組織構成の変更－1：新規に組織構成を作成する」の「部署の登録または移動」（p.127）を参照してください。

■部署の属性登録

部署の属性情報は、部署登録時に同時に更新することができます。これらの操作の詳細は、以降の「2.8.1.9 部署属性の設定」（p.133）を参照してください。

2.8.1.8 組織構成を削除する

すでに登録されている組織構成期間を削除すると、その期間に登録されている組織構成が削除されます。ただし、組織構成に属していた部署そのものは削除されません。

1 削除する組織構成期間を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

<削除する組織構成の期間を選択して[削除]ボタンをクリックする>

2 選択されている組織構成期間が削除されます。

この組織構成期間にだけ登録されている部署があった場合には、その部署は削除されてしまうのではなく、「構成に属さない組織」というフォルダに移動しています。

<部署は削除されずに「構成に属さない組織」フォルダに残る>

- 構成に属していない部署は、組織構成へ移動すると、構成に参加するために必要な期間が自動で補完されて、他の組織構成の期間で利用することができるようになります。

2.8.1.9 部署の属性登録

ここでは、部署（会社も含む）の名称や住所などの属性情報の設定について説明します。会社も組織構成の要素のひとつですから、ここで操作手順で属性情報の設定を行います。

1 ［組織一覧］画面のツリーから属性を更新したい部署を選択し、右側で詳細を入力します。最初は、［メイン］タブです。登録後は、次のタブに移動します。

<メインタブの入力>

組織コード（必須）	作成したときの会社コードが表示されています。
親組織	会社入力では選択できません。組織の場合は、どの組織に所属するかを設定します。
ソートキー	会社一覧に表示される順番を番号で指定します。
備考	会社に対する備考を入力します。
更新ボタン	各タブでの入力が終了してから、更新をクリックします。

2 属性タブをクリックして、公開ゾーン、検索属性、販売チャネルなどの情報を登録します。登録後は、次のタブに移動します。

<属性タブの入力>

公開ゾーン	**公開ゾーンを設定します。設定は、各項目の［期間］ボタンをクリックして、表示されるウインドウで期間を設定します。**
検索属性	**公開ゾーン同様に検索属性を設定します。**
販売チャネル	**販売チャネルを入力します。**
更新ボタン	**各タブでの入力が終了してから、更新をクリックします。**

- 公開ゾーンと検索属性については、後述のコラム「アプリケーション共通マスタの高度な利用」を参照してください。

3 メンバータブでは、会社に属するメンバーの登録、そのメンバーへの役職の設定、主所属の設定などが行えます。

操作の詳細は、「2.8.1.10 部署への所属および役職情報の設定」（p.140）を参照してください。

<メンバータブの入力>

4 選択している部署に関する住所、電話などの属性情報の登録が行えます。これらの情報は、すべて履歴化されているので、期間の情報と共に登録します。

ここで設定できる期間は、選択している構成期間（この例では、2007年8月1日～）の範囲となります。期間に対して行うことができるのは、構成期間の範囲内で期間化情報を複数に分割したり、逆に複数に分割された期間化情報を統合したりすることです。

<期間化情報タブの入力>

5 期間化情報の各タブの情報を入力していきます。この画面では、選択している組織構成の期間内で、期間化情報の分割・統合を行うことができます。

<期間化情報の更新>

[分割]ボタン	選択されている期間を2つに分割します。
[削除]ボタン	選択されている期間を削除します。削除された期間は、前後の期間化情報によって埋められます。
拡大	期間のリストの表示が拡大されます。
(期間リスト)	期間が複数登録されている場合は、選択した期間のプロファイルが下記に表示されます。

Column

期間の設定について

期間を設定する際には、次のような点に気をつけて登録する必要があります。複数の期間を登録する場合は、互いに重なる期間を登録することはでできません。たとえば、以下のような期間を登録することはできません。

(例1) 期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31 期間(2):2002/01/01 ～ 2008/12/31

(例2) 期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31 期間(2):2004/12/31 ～ 2008/12/31

次の期間の登録は正常に行われます。
期間(1):2000/01/01 ～ 2004/12/31 期間(2):2005/01/01 ～ 2006/12/31。

● 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.81)」も参照してください。

Column

部署の一部の情報だけを更新する

会社の構成期間を追加することによって組織構成の履歴を登録する方法を説明していますが、部署の名称など、一部の情報だけが変更になった場合に、新しい組織構成期間を追加しなくても変更情報の履歴を残す方法が用意されています。
会社の組織構成期間はそのまま継続させて、部署の属性情報が持つ期間化情報を追加して、履歴を残します。部署属性の［期間化情報］タブで、新しい期間化情報を登録して、部署名や電話番号などの一部の情報だけを変更します。

1 ［分割］ボタンで、部署の期間化情報を2つに分割します。

2 最初の期間の終了日を、改定する日付の前日に変更します。新しい期間の開始日も、自動的に改定する日付に変更されます。

3 新しい期間を選択して、名称などの属性を変更します。

6 [組織名]タブの情報を入力します。ここの情報は、期間および言語ごとに入力します。

<[期間化情報]の[組織名]タブ>

組織名(必須)	組織名を入力します。[メイン]タブで入力したユーザコードが初期表示されます。ここで入力した組織名がツリーにも表示されます。
組織名カナ	組織名カナを入力します。
組織名漢字	組織名漢字を入力します。

7 [電話・FAX番号]タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

<[期間化情報]の[電話・FAX番号]タブ>

電話番号	電話番号の入力です。
FAX番号	FAX番号の入力です。
内線番号	内線番号の入力です。
内線FAX番号	内線FAX番号の入力です。

8 [住所]タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

<[期間化情報]の[住所]タブ>

国コード	国コードの入力です。
郵便番号	郵便番号の入力です。
住所	住所の入力です。多言語化に対応しているので、登録してある言語を切り替えて入力します。

9 [インターネット]タブをクリックして情報を入力します。ここの情報は、期間ごとに入力します。

<[期間化情報]の[インターネット]タブ>

メールアドレス1、2	メールアドレスを入力します。2つまで入力できます。
URL	ホームページのURLを入力します。

● プラグインタブは将来の拡張のためのものです。現在は使用できません。

2.8.1.10 部署への所属および役職情報の設定

部署に対しては、属性情報のひとつとして、メンバーの登録があります。これは、その部署に社員を所属させる機能です。また、所属させた社員に対しては、役職の設定と主所属の設定が行えます。

■部署への社員の設定

部署に社員をメンバーとして登録するには、部署の属性情報への登録という操作になります。ここでは、社員を登録するとともに、その社員の役職と主所属の設定が行えます。

1 組織設定画面で、会社の組織構成期間を選択してから、[組織一覧へ]をクリックします。

社員をメンバーとして設定するために、組織一覧画面を表示します。

2 部署の属性情報の[メンバー]タブで、[追加]ボタンをクリックします。

[メンバーの追加] ダイアログボックスが表示されます。

<メンバーの追加>

3 [メンバー一覧]ダイアログボックスで社員を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

[Shift] あるいは [Ctrl] キーで、複数の社員をまとめて選択することができます。選択が終了したら、[閉じる] ボタンをクリックします。

メンバーの追加画面で設定できる期間は、選択している組織構成の期間に限定されます。

<メンバーの選択>

4 属性情報画面に戻ったら、[更新]ボタンをクリックします。

登録した社員への役職の設定や主所属の設定は、一度更新しないと行えません。なお、登録した社員は、[削除] キーで削除することができます。

- ユーザを組織に新規追加すると、選択している組織構成とユーザの一致する期間が所属期間として設定されます。また、所属期間の中でユーザが主所属をもたない期間があれば、その期間を主所属期間として設定します。

■役職の設定

メンバーとして登録した社員には、役職を設定することができます。役職は、あらかじめ［アプリケーション共通マスタ管理］の［役職設定］で登録しておく必要があります。

1 上記社員の登録の後、役職を設定したい社員を選択して、[期間]ボタンをクリックします。

［期間一覧］のダイアログボックスが表示されます。

<[期間]ボタンをクリックする>

2 [期間一覧]のダイアログボックスで、登録されている役職を選択し、[登録]ボタンをクリックします。

役職は、あらかじめ「役職設定」で登録しておきます。期間に関しては、登録先の部署がもつ期間の範囲で設定することができます。［追加］ボタンをクリックすることで、期間を設定して別の役職を設定することもできます。

<役職の設定>

2.8.1.11 部署の削除

組織一覧では、組織の削除を行うことができます。組織の削除では、組織構成期間の内包情報が削除されるのではなく、その組織のすべてが削除されてしまい、再利用することはできません。ただし、配下に子組織を持つ組織を削除した場合には、該当する組織は削除されますが、子組織は、「構成に属さない組織」というフォルダに移動しており、再利用することができます。

<部署の削除>

2.8.1.12 会社の削除

会社一覧では、会社自体の削除を行うことができます。会社に属する部署、組織構成などすべての情報が削除されます。

<会社の削除>

2.8.1.13 組織設定時のメッセージ一覧

組織設定時に、期間の設定に矛盾が生じているとメッセージが表示され、登録や更新が行えない場合があります。以下は、表示されるメッセージと、原因ならびに対処法を表にしたものです。

画面	イベント	期間のエラー条件	メッセージ	対処法
会社一覧－会社新規作成	登録ボタン押下時	期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
会社一覧－新規－期間	登録ボタン押下時	期間が重複している	設定された期間(yyyy/mm/dd － yyyy/mm/dd)と(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)が重なっています。重ならないように設定し直してください。	他の期間と日付が重ならないように修正する。
		期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
		追加した期間が、組織構成の期間の範囲外	組織の期間が正しくありません。構成に参加する組織の期間は、組織構成の期間(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)に合わせて下さい。	組織で設定している期間内で設定する。
会社一覧－更新	更新ボタン押下時	期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
		会社の期間が、組織構成の期間の範囲外	組織の期間が正しくありません。構成に参加する組織の期間は、組織構成の期間(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)に合わせて下さい。	組織で設定している期間内で設定する。
会社一覧－会社コピー－新しい期間を入力POPUP	OKボタン押下時	期間の前後が逆	組織構成期間の有効開始日(yyyy/mm/dd)と有効終了日(yyyy/mm/dd)の時系列が正しくありません。	期間の前後を修正する。
		コピーして新しく設定した期間が、組織構成の期間の範囲外	組織の期間が正しくありません。構成に参加する組織の期間は、組織構成の期間(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)に合わせて下さい。	組織で設定している期間内で設定する。
組織一覧－メンバータブ－期間一覧POPUP画面（ユーザの所属期間設定）	登録ボタン押下時	ユーザの所属期間が、プロファイルの期間の範囲外	設定された所属の期間(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)が正しくありません。ユーザに対して設定された期間内(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)で設定して下さい。	ユーザの所属期間をプロファイルで設定してある期間内で設定する。
		期間の前後が逆	期間(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)が不正です。終了日は開始日より後の日付を指定してください	期間の前後を修正する。
		期間が重複している	期間(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)と 期間(yyyy/mm/dd－yyyy/mm/dd)に期間の重なりがあります。	他の期間と日付が重ならないように修正する。

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い（p.81）」も参照してください。

2.8.2 役職の設定

［アプリケーション共通マスタ管理］の［役職設定］では、会社ごとに役職を登録することができます。役職に関しても履歴化が図られているので、期間情報を登録した上で入力します。
ここでは、役職を登録するだけで、ユーザとの紐付けは、［組織設定］で組織に所属するメンバーを登録する際に、この［役職設定］で登録した役職名を選択することができます。

<役職の登録画面>

3 役職を登録するには、[アプリケーション共通マスタ管理]の[役職設定]をクリックします。
［役職］画面が表示されます。

4 [会社コード]にコードを入力して[検索]ボタンをクリックします。[会社コード]欄に何も入力せずに検索すると、すべての会社が表示されます。
左のツリーに登録されている会社とそれぞれに登録されている役職が表示されます。

<登録されている会社と役職が表示される>

5 ツリーの会社を選択して、[新規]ボタンをクリックします。

役職の新規登録画面が表示されます。

<新規に役職を登録する>

6 期間の欄の、[追加]ボタンをクリックして、役職の期間を登録します。

<期間を追加する>

[追加]ボタン	新規に期間を追加することができます。
[修正]ボタン	選択した期間情報を変更することができます。
[削除]ボタン	選択した期間情報を削除します。

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.81)」も参照してください。

7 役職名などを登録し、[登録]ボタンをクリックします。
役職が登録されます。

<役職の情報を登録する>

役職コード(必須)	役職コードを入力します。
役職名(必須)	役職名を入力します。この項目は、国際化に対応しているので、言語ごとに入力します。
ソートキー	役職一覧などに表示される順番を数値で指定します。
備考	備考を入力します。
[登録]ボタン	入力した役職を登録します。

2.8.3 パブリックグループの設定

パブリックグループは、企業内の部門など組織にとらわれないユーザグループを作成したい場合に利用します。プロジェクトなど企業内で認められたグループに利用します。パブリックグループの登録は、［アプリケーション共通マスタ管理］の［パブリックグループ設定］で行います。パブリックグループも組織と同様に履歴化や階層化に対応しています。パブリックグループの設定の操作は、組織の設定に準じています。

<パブリックグループ登録画面>

● 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い（p.81）」も参照してください。

2.8.4 アプリケーション共通マスタインポート・エクスポート

アプリケーション共通マスタで登録する、会社・組織、役職、ブリックグループ、ユーザプロファイルなどの情報は、［ログイングループ管理］の［バッチ設定］でインポートすることができます。

<アプリケーション共通マスタ インポート画面>

Column

アプリケーション共通マスタの高度な利用(公開ゾーンと検索属性)

intra-martでは、ユーザを会社・組織、パブリックグループ、プライベートグループなどにグルーピングして管理しています。この他に「公開ゾーン」と「検索属性」という2つのキーで高度なグルーピングを行うことができます。

●公開ゾーン

公開ゾーンは、作成するアプリケーションの性格によって会社・組織などの公開範囲を変更したい場合に使用します。例えば、社内スケジュール管理では全組織・社員を表示しますが、取引先も含めたコミュニティ・アプリケーションでは、自社の一部の組織のみ公開したいといった用途に公開ゾーンを利用します。

公開ゾーンは、［アプリケーション共通マスタ管理］の［分類設定］で登録することができます。

<［分類設定］画面>

●検索属性

検索属性は組織にのみ付くキーで、組織の役割を定義します。例えば、「ある会社・組織は顧客検索に表示したい（下図の「カスタマ」に相当します）」、「ある組織は協力会社一覧に表示したい（下図の「パートナ」に相当します）」という要件を実現するために使用します。

検索属性は、［アプリケーション共通マスタ管理］の［分類設定］で登録することができます。

<［検索属性設定］画面>

公開ゾーンと検索属性を利用したアプリケーションの構築方法については、別冊の「アプリケーション共通マスタ説明資料」を参照してください。

2.9 アプリケーション共通マスタunitの利用-2（商品マスタ）

intra-martには、作成するアプリケーションから共通で利用できる商品マスタが用意されています。商品マスタ関連のメニューは、［商品マスタ設定］フォルダに用意されています。

2.9.1 商品マスタの特徴

商品マスタ設定には、次のような機能が用意されています。

2.9.1.1 商品の期間化

商品は、期間化に対応しており、商品名、商品名通称、販売単価、仕入単価の情報を履歴として持つことができます。このため、処理日付時点の情報で処理を行うことが可能となっています。また、商品および商品マスタ関連の上は、国際化にも対応しています。

2.9.1.2 商品属性情報とテンプレート

商品の商品名、商品名通称、販売単価、仕入単価などの基本情報とは別に、自由に属性情報を付加することができます。属性情報を追加するには、あらかじめ商品テンプレートに属性情報を登録しておき、商品マスタに対して、どのテンプレートを適用するかを設定します。

2.9.1.3 商品の分類と管理

商品マスタに登録した商品は、必要に応じて分類して管理することができます。商品を分類するためには、ツリー状に商品カテゴリを登録し、末端のカテゴリに商品を登録します（ここで、最上位の商品カテゴリを「商品カテゴリ種別」と呼びます）。

2.9.1.4 取扱情報

登録した商品は、単品または任意に組み合わせて「取扱」情報として登録します。商品マスタが基本的なマスタ情報であるのに対して、取扱情報は実際の取引に利用される情報です。このため、取引先ごとに異なる単価を設定したり、期間化したりすることができます。取引先として、ロール、会社・組織、パブリックグループなどで権限を設定することができます。

2.9.2 商品設定

ここでは、商品マスタに商品情報の登録を行います。商品設定は、期間化に対応しているので、「期間化情報」タブで必要に応じて情報を追加することができます。また、この画面では、属性情報としてあらかじめ作成しておいたテンプレートを利用することができます。

1 [商品マスタ設定]の[商品設定]を選択します。新規に商品を登録するには、[新規]ボタンをクリックします。

画面に左には、すでに登録されている商品情報を検索して表示させることができます。商品は、商品コードから、あるいは分類しているカテゴリから検索して表示することができます。

2 表示された[メイン]タブで商品の基本情報を入力します。

商品コード(必須)	商品コードが自動採番で表示され、必要に応じて変更することができます。
商品型番	商品の型番を入力します。
備考	商品に関する備考を入力します。
カタログ	登録する商品のカタログ情報を入力することができますが、この入力は、いったん商品を登録後に編集画面で行えます。

3 続けて、[期間化情報]タブをクリックして、商品の詳細情報を入力します。

[追加]ボタン	初期には、本日からシステムの最大有効日付に設定されています。期間を追加する場合に、このボタンをクリックします。期間を追加すると、以前の期間化情報の終了日が自動で設定され、その翌日からの新しい期間を設定することができます。
[修正]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間の開始日を変更することができます。
[削除]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を削除することができます。
(期間リスト)	期間が複数登録されている場合は、期間の開始日だけが表示されています。選択した期間のプロファイルが下記に表示されます。
拡大	期間のリストの表示が拡大されます。
失効日	通常、期間は登録した日を開始日として、終了日は最大有効日付に設定されています。次に期間を設定すると、その開始日の前日が終了日となり、常に連続した期間が設定されます。この終了日を強制的に設定する場合に、このボタンを利用します。設定した失効日を消す場合には、[クリア]ボタンをクリックします。
商品名(必須)	初期には、商品コードが表示されていますので、商品名を上書きします。この情報は国際化に対応しているため、必要に応じて、コンボボックスで言語を選択して、それぞれの商品名を入力します。
商品名(通称)	この商品に関する通称の名称を入力します。この情報も国際化に対応していますので、必要に応じて、コンボボックスで言語を選択して、それぞれの名称を入力します。
販売単価	基本情報としての販売単価を入力します。このほかに、「取扱設定」画面では、対象企業を設定した上での販売価格を登録することができます。
仕入単価	基本情報としての仕入単価を入力します。このほかに、「取扱設定」画面では、対象企業を設定した上での仕入価格を登録することができます。

- 有効期間に関しては、コラム「有効期間の終了日の取扱い(p.81)」も参照してください。

4 [属性情報]タブをクリックして、商品の属性情報を入力します。

商品の属性情報を登録するためには、あらかじめ商品テンプレートを作成しておき、この画面で適用するテンプレートを設定しなければなりません。また、属性値は、国際化に対応しているため、コンボボックスで言語を選択し、すべてに対して入力しなければなりません。

[テンプレート選択]ボタン	属性を登録するために、属性項目を設定したテンプレートを適用しなければなりません。クリックすると、[テンプレート選択]ダイアログが表示されます。また、設定したテンプレートは、[テンプレート削除]ボタンで適用を取り消すことができます。
属性名	適用したテンプレート上に設定されている属性名が表示されます。
属性値	この商品の属性値を入力します。入力は、設定されているデータ型に準じます。
データ型	適用したテンプレート上に設定されているデータ型が表示されます。
説明	適用したテンプレート上に設定されている説明が表示されます。
[登録]ボタン	入力が終了し、このボタンをクリックすると商品情報が登録されます。

5 [登録]ボタンをクリックして、商品情報を登録します。

2.9.3 商品テンプレート設定

商品情報の属性情報を登録するためには、あらかじめこの商品テンプレートを作成しておかなければなりません。

1 [商品マスタ設定]の[商品テンプレート設定]を選択します。新規に商品テンプレートを登録するには、[新規]ボタンをクリックします。

画面に左には、すでに登録されている商品テンプレートを検索して表示させることができます。商品テンプレートは、テンプレート名をキーワード（部分一致）として検索して表示することができます。

2 表示された[メイン]タブで商品テンプレートの基本情報を入力します。

テンプレートコード（必須）	商品テンプレートのコードが自動採番で表示され、必要に応じて変更することができます。
テンプレート名（必須）	商品テンプレートの名称を入力します。
備考	商品テンプレートに関する備考を入力します。

3 続けて、[属性一覧]タブをクリックして、商品テンプレートの属性情報を入力します。

[追加]ボタン	属性の行を増やすときに、このボタンをクリックします。
[削除]ボタン	選択されている属性行を削除することができます。属性行の選択は、先頭の数値をクリックします。
[最上位]ボタン	選択されている属性行を属性一覧の最上位に移動します。属性行の選択は、先頭の数値をクリックします。
[上へ]ボタン	選択されている属性行をひとつ上に移動します。属性行の選択は、先頭の数値をクリックします。
[下へ]ボタン	選択されている属性行をひとつ下に移動します。属性行の選択は、先頭の数値をクリックします。
[最下位]ボタン	選択されている属性行を属性一覧の最下位に移動します。属性行の選択は、先頭の数値をクリックします。
属性名	属性名を入力します。
データ型	属性のデータ型を「文字列型」と「データ型」から選択します。
備考	属性に対する備考を入力します。
[登録]ボタン	このボタンをクリックすると、商品テンプレートが登録されます。

4 [登録]ボタンをクリックして、商品テンプレートを登録します。

2.9.4 商品カテゴリ設定

商品情報を分類するために、「商品カテゴリ」が用意されています。ここでは、商品カテゴリの作成と商品の登録について説明します。なお、商品カテゴリは、「商品カテゴリ種別」で束ねられているため、まず最初は、「商品カテゴリ種別」の登録から行います。

1 [商品マスタ設定]の[商品カテゴリ設定]を選択します。新規に商品カテゴリを登録するには、商品カテゴリ種別を作成しなければなりません。[新規]ボタンをクリックして、「商品カテゴリ種別」を選択します。
画面に左上部にはすでに登録されている商品カテゴリ種別が、その下には登録されている商品カテゴリが表示されます。

2 表示された[メイン]タブで商品カテゴリ種別の情報を入力します。
商品カテゴリ種別の登録時には、［商品一覧］タブは入力できません。

商品カテゴリコード(必須)	商品カテゴリ種別のコードが自動採番で表示され、必要に応じて変更することができます。

商品カテゴリ名（必須）	商品カテゴリ種別の名称を入力します。
ソートキー	商品カテゴリ種別欄に表示する順番を半角数値で入力します。
備考	商品カテゴリ種別に関する備考を入力します。

3 商品カテゴリ種別の入力が終了したら、[登録]ボタンをクリックします。
登録した商品カテゴリ種別が、左上の一覧に表示されます。

4 商品カテゴリ種別一覧から商品カテゴリ種別を選択してから[新規]ボタンをクリックして、「商品カテゴリ」を選択します。

5 表示された[メイン]タブで商品カテゴリ種別の情報を入力します。

商品カテゴリ名	これから登録する商品カテゴリの親に当たるカテゴリが表示されています。2つ以上商品カテゴリがある場合、[親カテゴリ選択]ボタンをクリックして、どの商品カテゴリ配下に作成するかを選択できます。
商品カテゴリコード(必須)	商品カテゴリのコードが自動採番で表示され、必要に応じて変更することができます。
商品カテゴリ名(必須)	商品カテゴリの名称を入力します。
ソートキー	商品カテゴリ欄に表示する順番を半角数値で入力します。
備考	商品カテゴリに関する備考を入力します。

6 続けて、[商品一覧]タブをクリックして、作成した商品カテゴリに登録する商品を選択します。

[追加]ボタン	商品を選択する際に、このボタンをクリックします。 この画面では、登録されている商品を商品コードから、あるいはカテゴリから検索することができます。商品が表示されたら、チェックボックスで選択して、[追加]ボタンをクリックします。

[削除]ボタン	商品一覧から選択した商品を削除することができます。
商品コード	商品マスタに登録されている商品コードが表示されます。
商品名	商品マスタに登録されている商品名が表示されます。
説明	商品マスタに登録されている商品の説明が表示されます。
[登録]ボタン	このボタンをクリックすると、商品カテゴリが登録されます。

7 [登録]ボタンをクリックして、商品カテゴリを登録します。

2.9.5 取扱設定

登録した商品は、単品または任意に組み合わせて「取扱」情報として登録します。商品マスタが基本的なマスタ情報であるのに対して、取扱情報は実際の取引に利用される情報です。このため、取引先ごとに異なる単価を設定したり、期間化したりすることができます。取引先として、ロール、会社・組織、パブリックグループなどで権限を設定することができます。

1 [商品マスタ設定]の[取扱設定]を選択します。新規に取扱を登録するには、[新規]ボタンをクリックします。画面に左にはすでに登録されている取扱設定が表示されます。

2 表示された[メイン]タブで取扱の基本情報を入力します。

[追加]ボタン	初期には、本日からシステムの最大有効日付に設定されています。期間を追加する場合に、このボタンをクリックします。期間を追加すると、以前の期間化情報の終了日が自動で設定され、その翌日からの新しい期間を設定することができます。

[修正]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間の開始日を変更することができます。
[削除]ボタン	期間のリスト上で選択されている期間を削除することができます。
拡大表示	期間のリストの表示が拡大されます。
(期間リスト)	期間が複数登録されている場合は、期間の開始日だけが表示されています。選択した期間のプロファイルが下記に表示されます。
取扱コード(必須)	取扱コードが自動採番されて表示されます。必要に応じて、修正入力します。
取扱名(必須)	この取扱につける名称を入力します。
取引先(必須)	この取扱の対象企業を選択入力します。組織検索画面では、リスト検索またはツリーから検索することができます。
取扱種別	取扱の種別を「販売」、「仕入」から選択します。
単価(必須)	この取扱の単価を入力します。「商品取扱」タブで登録した複数商品の合計を計算入力する場合は、[自動計算]ボタンをクリックします。
通貨	通貨をコンボボックスから選択入力します。
備考	取り扱に関する備考を入力します。

3 続けて、[商品取扱]タブをクリックし、商品を選択入力します。

詳細表示

選択した商品の詳細情報が表示されます。

[追加]ボタン

商品を追加登録するときにクリックします。

この画面で商品を検索し、[追加]ボタンをクリックすると商品を選択できます。

[削除]ボタン	商品一覧から選択した商品を削除するときにクリックします。
商品コード	商品の商品コードが表示されます。
商品名	商品の商品名が表示されます。
販売単価	この取扱での単価を入力します。
数量	この取扱での数量を入力します。
単位	この取扱での単位を入力あるいは選択します。

4 次に、[権限設定]タブをクリックして、この取扱の権限を設定します。
権限は、ロール、組織、パブリックグループに対して、それぞれの［追加］ボタンで設定します。

ロール	ここで設定するロールを持つユーザだけがこの取扱の権限を持ちます。

組織	ここで設定する組織だけがこの取扱の権限を持ちます。
パブリックグループ	ここで設定するパブリックグループだけがこの取扱の権限を持ちます。
[登録]ボタン	このボタンをクリックして、取扱を登録します。

5 [登録]ボタンをクリックして、取扱を登録します。

2.9.6 商品マスタのインポート

この画面では、商品マスタの情報（商品テンプレート、商品、商品カテゴリ、商品分類）をインポートすることができます。インポートしたいファイルのパスを記述して、［インポート］ボタンをクリックします。

<商品共通マスタ インポート画面>

2.10 ポータルの設定と操作

intra-martには、ログイン初期画面（intra-martホーム画面）にあらかじめ用意したページ（ポータルアプリケーションでは、ポートレットと呼びます）を表示し、ユーザに情報を見るように喚起させることができる機能が標準で用意されています。このポータル機能は、intra-martのポータルモジュールで実現されています。

組織部署単位にポータルサイトを設定したり、個人単位の設定をすることで、組織内での情報伝達のスピードアップが図れる

会社（顧客、取引先）単位にポータルサイトを設定することにより、
ECサイトやマーケットプレイスにおいて、サービスレベルを大きく向上させることができる

〈会社・組織、ユーザごとのポータル〉

intra-mart上のアプリケーションごとに表示させたい情報のページを作成し、ポートレットとして登録することで利用できるポートレットとなります。このようにして作成したポートレットは、自由にレイアウトしてポータル画面を作成することができます。また、ワークフローモジュールやＷｅｂＭａｉｌなどのintra-martアプリケーションの一部には、ポートレット画面があらかじめ用意されているものもあります。

ログイン
intra-martにログインすると、初期画面にポータル画面が表示される

ポートレット配置
登録したポートレットをポータル画面に配置する

ポートレット登録
各アプリケーションで作成したページを「ポートレット設定」画面でポートレットとして登録する

2.10.1 ポータルの種類と作成メニュー

intra-martに用意されているポータル画面には、次の表のような４種類が用意されています。これらのポータルの主な違いは、表示させるユーザの範囲の違いで、ログイングループ全員に見せるものから、自分だけのポータルまで用意されています。さらに、アクセス権限を設定することで、特定のユーザの画面にだけ表示させることも可能です。さらに、グローバルポータル以外のポータルは、複数作成することができます。

ポータルの種類	表示される場所	作成者	基本表示範囲	アクセス権の設定
グローバルポータル	ログイン前の画面	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	なし
グループポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	会社・組織 パブリックグループ ロール
組織内ポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	一般ユーザ 組織のポータル管理者	作成者が主所属の組織（配下の組織は含まず）	配下の組織
ユーザポータル	intra-martHOME画面（タブとして）	一般ユーザ	作成者自身	なし

2.10.1.1 ログイン画面に表示されるポータル

グローバルポータルは、アクセス権限の設定もなく、ログイングループ全員に表示されるポータルです。このポータルはログイン画面に表示されるため、ログインするためのポートレットが用意されています。

<グローバルポータル>

2.10.1.2 intra-mart**ホーム画面に表示されるポータル**

グループポータル、組織内ポータル、そしてユーザポータルは、intra-martホーム画面に表示されます。各ポータルは、タブとして表示され、簡単に切り替えることができます。また、intra-martのどの画面にも、常に[HOME]ボタンが表示されていて、クリックするだけでホーム画面が表示されます。

<intra-martのHOME画面　タブによってポータルが切り替えられる>

■標準で提供されるポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
リンク集		3列以下	
ログインポートレット		3列以下	グローバルポータルでのみ設定可
朝日新聞RSS		3列以下	さまざまなRSSを取り込み可
新着タスク	ワークフロー	3列以下	
重要なお知らせ		3列以下	パスワード管理の情報を表示

■intra-martアプリケーションに付属のポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
今週の予定	スタートパック	2列以下	
今日の予定	スタートパック	3列以下	
新着ToDo一覧	スタートパック	3列以下	
新着お気に入り情報	スタートパック	2列以下	
新着配信情報	スタートパック	3列以下	
新着コミュニティ情報	スタートパック	3列以下	
最新見積一覧	営業支援	3列以下	
最新受注一覧	営業支援	3列以下	
新着営業日報一覧	営業支援／スタートパック	3列以下	
新着上司コメント	営業支援／スタートパック	3列以下	
新着メール	WebMail	3列以下	

2.10.2 ポートレット用ページの作成

スクリプト開発モデルおよびJavaEE開発モデル、フレームワーク開発モデル、外部URLでポータル画面に表示させたいページをポートレット用に作成します。なお、intra-martには、あらかじめサンプルのポートレット用のページが用意されています。

- ポータルとして表示させたい画面は、通常の画面ではなく、ポータルモジュールの規約にともない変更する必要があります。ポータル用のページ作成方法については、APIリストの[JavaEE開発モデル]-[業務基盤ツール]-[ポータルモジュール]-[im-ポータル]-[開発ガイド] および [スクリプト開発モデル]-[業務基盤ツール]-[ポータルモジュール]-[im-ポータル]-[開発ガイド]を参照してください。

2.10.3 ポートレットとして登録

ポートレット用に作成したページをポートレットとして登録します。設定は、［ポータル］-［ポートレット］で行います。

1 ポートレット設定画面を表示します。

登録されているポートレットの一覧が表示されます。新規に登録するには、［新規登録］をクリックします。登録されているポートレットを編集するには、ポートレット名の前のアイコンをクリックします。

<登録されているポートレットの一覧>

Column

ポートレットのキャッシュ機能

キャッシュ機能を利用すると、サーバ内に作成されたキャッシュ情報が読み込まれるため、ポートレットの表示が高速になります。
ポータルに表示する各ポートレットごとにキャッシュの設定を行うことができます。

2 ポートレットを追加します。

表示された画面で、ポートレットの情報を登録して、［登録］ボタンをクリックします。

<ポートレットとしてページを登録する>

アプリケーション	ポートレットのもとになるアプリケーション名を入力します。
名称(必須)	ポートレットの名称を入力します。この名称がポータルの設定画面に表示されます。
ページ種別(必須)	ポートレットの種類を次の中から選択します。 Presentation Page:スクリプト開発モデルで作成した場合に選択します。 Servlet/JSP:JavaEEでページを作成しているが、im-JavaEE Frameworkを利用していない場合に選択します。 im-JavaEE Service Framework:im-JavaEE Frameworkを利用して作成した場合に選択します。 Internet:Webサイトの場合に選択します。 メニューリンク:intra-martのメニューを表示するポートレットの場合に選択します。 RSS:RSSポートレットの場合に選択します。
画面パスあるいはURL種類	ポートレットが存在するパスまたはURLを入力します。 この項目は、「ページ種別」で次の項目が選択されている場合に表示されます。 Presentation Page、Servlet/JSP、Internet
ページ引数	登録するページに引数がある場合に指定します。 この項目は、「ページ種別」で次の項目が選択されている場合に表示されます。 Presentation Page、Servlet/JSP、Internet、im-JavaEE Service Framework
アプリケーションID	アプリケーションIDを入力します。

	この項目は、「ページ種別」で「im-JavaEE Service Framework」が選択されている場合に表示されます。
サービスID	アプリケーションIDを入力します。 この項目は、「ページ種別」で「im-JavaEE Service Framework」が選択されている場合に表示されます。
メニューリンクセット	メニューリンクセットを選択します。 この項目は、「ページ種別」で「メニューリンク」が選択されている場合に表示されます。
RSSのURL	RSSのURLを入力します。 この項目は、「ページ種別」で「RSS」が選択されている場合に表示されます。
Proxyホスト名	プロキシサーバを経由してインターネットに接続する環境の場合、プロキシホスト名を入力します。 この項目は、「ページ種別」で「RSS」が選択されている場合に表示されます。
Proxyポート番号	プロキシサーバを経由してインターネットに接続する環境の場合、プロキシポート番号を入力します。 この項目は、「ページ種別」で「RSS」が選択されている場合に表示されます。
パーサー	リンク先のRSSがRSS1.0かRSS2.0か選択します。 この項目は、「ページ種別」で「RSS」が選択されている場合に表示されます。
タイトルの表示	ポートレットのタイトルバーを「表示する」、「表示しない」を選択します。
キャッシュの設定	ポートレットの表示内容をサーバ内にキャッシュする場合のキャッシュ時間を選択します。
ポートレットの説明	ポートレットの説明を入力します。
表示領域(高さ:幅)	ポートレットの表示される大きさを設定します。設定は、比率(%)またはピクセル単位で、高さと幅を指定します。

- Strutsで作成したページをポートレットに登録するには(JavaEE開発モデル)

JSPで作成したページと同様に登録します。下記の例を参考にしてください。

例) ページの種類 [Servlet or JSP]
パスあるいはURL /struts_test/menu_to_seller_list.do(先頭に/をつけます)

3 ポートレット設定画面に戻ります。次に、[アクセス権設定]アイコンをクリックします。

ポートレットを登録した段階では、ログイングループ全員が利用できます。特定のユーザや組織での利用の場合は、アクセス権設定のアイコンをクリックして、権限を設定します。

<登録されているポートレットの一覧>

4 アクセス権設定画面で、[検索]アイコンをクリックします。

<ポートレットのアクセス権の設定>

5 会社・組織、パブリックグループ、ロールのいずれかを設定してこのポートレットに対するアクセス権限を設定します。

設定すると、アクセス権設定画面に戻ります。

<アクセス権限設定画面>

6 アクセス権設定画面に、設定したアクセス権が表示されます。

詳細アイコンをクリックすると、さらに詳細な条件を設定できます。

<アクセス権限設定画面>

- 組織内ポータルとユーザポータルのポートレット配置画面に、「選択可能なポートレット」というリストが表示されます。ポートレットにアクセス権を設定しておくと、設定したアクセス権を持つユーザの画面にだけ表示されるようになります。ポートレットのアクセス権を設定しないと全ユーザに表示されます。

Column

Googleガジェットをポータルに表示する

Googleが提供するガジェットをintra-martのポータル画面に表示させることができます。

1 「ウェブページ用Googleガジェット」画面で、ポータルに追加したいガジェットを選択し、［自分のウェブページに追加］ボタンをクリックします。

http://www.google.com/ig/directory?synd=open

2 選択したガジェットの詳細設定画面で、カスタマイズ等を行い、［コードを取得］ボタンをクリックします。

3 画面下部に、HTMLコードが生成されますので、コードをコピーして、拡張子htmlの任意のファイルを作成します。

生成されたHTMLコードの例
<script
src="http://gmodules.com/ig/ifr?url=http://www.google.com/ig/modules/datetime.xml&up_color=blue&synd=open&w=320&h=136&title=__MSG_title__&border=%23ffffff%7C3px%2C1px+solid+%23999999&output=js"></script>

＜注意＞ InternetExplarorを利用している場合には、文字化けとなる可能性があります。必要に応じて、下記のように文字コードを設定します。
<script CHARSET="UTF-8" src="http://gmodules.com/ig ...></script>

4 「2.10.3 ポートレットとして登録」の手順に従って、作成したページをページ種別が『Presentation Page』のポートレットとして登録します。
ガジェットがポータル画面に表示できるようになります。

2.10.4 全ログイングループに公開するグローバルポータル

グローバルポータルは、ログイン画面を利用して、情報を表示させることができるポータルです。ログイン画面が表示されることがなくなるため、用意されているログイン用のポートレットを必ず配置してください。このポータルに限り、1つしか作成することができません。このポータルの配信を中止するには、編集画面で［削除］ボタンをクリックします。

<グローバルポータル>

1 ［グローバルポータル］をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。すでにポータルを設定してある場合は、現在のポータルのレイアウト画面が表示されます。

2 ポータルのデザインを選択して、［次へ］をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、次のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

<グローバルポータルが設定されていない場合には、ポータルのレイアウト選択画面が表示される>

<すでにグローバルポータルが設定されている場合の初期画面>

3 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[完了]をクリックします。

上部の［選択可能なポートレット］からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。このとき、必ず［ログインポートレット］を配置してください。配置しないと、ログインすることができなくなります。レイアウト枠では、や アイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

<ポートレットとしてページを登録する>

4 グローバルポータルが完成です。全ログイングループのユーザがログインする際に表示されます。

Column

ポータルのカスタムレイアウト

ポータルのレイアウト選択画面には、定型的なレイアウトパターンが用意されていますが、この画面で「カスタム」を選択すると、自由にレイアウトを決めることができます。

① 「カスタム」を選択して、［次へ］アイコンをクリックします。

② マウスでドラッグして、最大5×５までの基本レイアウトを決めます。

③ セルをドラッグして、結合、行や列の追加・削除を用いて、カスタムレイアウトパターンを作ります。

④ ［次へ］アイコンをクリックすると、ポートレット配置画面に遷移します。

2.10.5 会社・組織で情報を共有するグループポータル

グループポータルの基本は、全ログイングループのユーザに表示されます。作成後、組織・役職、パブリックグループ、ロールなどのアクセス権限を設定することで、表示範囲を任意に制限することができます。なお、グループポータルは、intra-martのホーム画面上に表示されます。

1 [グループポータル]をクリックします。

登録されているポータルの一覧が表示されます。

<グループポータル一覧>

2 [新規登録]をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。

3 ポータルのデザインを選択して、[次へ]をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、前頁のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

<ポータルのレイアウト選択画面>

4 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[次へ]をクリックします。

上部の［選択可能なポートレット］からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。レイアウト枠では、やアイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

<ポートレットを配置する>

5 基本設定画面で、ポータルに名称と説明を入力して、[完了]ボタンをクリックします。

画面は、ポータル一覧に戻ります。

6 アクセス権のアイコンをクリックします。

<ポータル一覧>

7 アクセス権設定画面が表示され、[検索]ボタンをクリックします。

アクセス権設定画面が表示されます。

<アクセス権設定画面>

8 アクセス権を選択します。

<アクセス権設を選択する>

9 アクセス権設定画面に戻ります。

設定した情報が表示されています。これで、グループポータルは完成です。

<アクセス権設定画面>

- グループポータルに設定したアクセス権を持つユーザのホーム画面のタブに、ここで設定したポータルが表示されます。

2.10.6 リンク集の作成(リンク集ポートレットの設定)

ここで設定したリンク集は、intra-martに用意されている「リンク集ポートレット」に表示されます。「リンク集ポートレット」を利用する前には、この設定をしておかなければなりません。

1 [リンク集]をクリックします。
画面に、すでに登録されているカテゴリが表示されています。

2 下部のリンク集のカテゴリとソート番号を入力し、[登録]ボタンをクリックします。

<リンク集のカテゴリの登録>

3 左のツリーから、リンク集を登録したいカテゴリをクリックし、右画面から[新規登録]クリックします。

<カテゴリの編集アイコンをクリックする>

4 リンク集の情報を登録して[登録]ボタンをクリックします。

<リンク集の登録>

カテゴリ(必須)	登録するカテゴリを選択します。
リンク名(必須)	この名称がリンク集に表示されます。
URL(必須)	リンクするサイトのURLを入力します。
ソート番号	表示順をきめるソート番号を入力します。
表示設定	リンク先を開く際に同一ウィンドウで表示するか、別ウィンドウで表示するか選択します。
[簡易SSO設定]ボタン	[簡易SSOパラメータ設定]画面が表示されます。[簡易SSOパラメータ設定]画面では、サイトに自動ログインするパラメータを設定します。パラメータを設定しない場合は、自動ログインは行われません。
説明	リンクの説明を入力します。

- リンク集をグローバルポータルに配置した場合は、表示設定で「メインページ」を選択した場合でも、新規ウィンドウで表示されます。

■簡易SSOパラメータ設定

リンク先のサイトに自動ログインするためのパラメータを設定します。アカウントおよびパスワードは必ず設定します。

<簡易SSOパラメータ設定>

属性追加	属性を追加します。
属性削除	チェックボックスにチェックされている属性を削除します。
チェックボックス	削除する属性のチェックボックスにチェックをつけます。
ラベル	ラベルを入力します。「アカウント」と「パスワード」は固定のラベルになります。
名前	サイトに渡す情報を指定します。アカウントとパスワードの場合、サイトの入力フォームで指定されている"name"の値を入力してください。
値	サイトに渡す値を入力します。「ユーザ設定」のチェックがついている場合、値は入力できません。
ユーザ設定	ユーザが設定を行う属性にチェックをつけます。
[登録]ボタン	入力した内容で簡易SSO設定を登録します。[登録]ボタンは、新規登録時のみ表示されます。
[更新]ボタン	入力した内容で簡易SSO設定を登録します。[更新]ボタンは更新時のみ表示されます。
[削除]ボタン	現在開いている簡易SSO設定を削除します。[削除]ボタンは更新時のみ表示されます。

5 リンク集ポートレットを利用したポータル画面に、ここで登録したリンク集が表示されます。

Column

リンク集で表示されるアイコンについて

・リンク先からFavicon.icoという各サイト独自のアイコンを取得して表示しています。
・アイコンまたはブラウザによっては、正しく表示できない場合があります。
・アイコンを取得するまでに時間がかかる場合、一時的に画像切れの表示になることがあります。
・Favicon.icoを非表示にするには、下記の設定ファイルに定義されいる" displayFavicon" 属性の値をfalseに変更します。

WEB-INF/classes/PortalCommonConfig.properties

2.10.7 メニューリンクの作成

メニューリンクは、任意のintra-martのメニューをポータル画面（グループポータル）に表示するポートレットです。設定は、グループ管理者が行います。

- メニューリンクはグループポータルにのみ設定してください。

1 [メニューリンク]をクリックし、[新規登録]をクリックします。
画面に、すでに登録されているメニューリンクが表示されています。

<メニューリンク一覧>

2 メニューリンクの名称を入力し、表示させたいメニューを選択します。メニュー一覧には一部のメニューしか表示されていませんので、 アイコンをクリックして、メニューを表示します。選択後には、[登録]ボタンをクリックします。

<メニューの選択>

3 選択したメニュー一覧が表示されたら、表示する順序を[ソート]で設定し、[ポートレットとして登録]をクリックします。

<カテゴリの編集アイコンをクリックする>

4 ポートレットを追加します。
表示された画面で、ポートレットの情報を登録して、［登録］ボタンをクリックします。

<ポートレットとしてページを登録する>

アプリケーション	ポートレットのもとになるアプリケーション名を入力します。ここでは、メニューリンクと入力します。
名称(必須)	ポートレットの名称を入力します。この名称がポータルの設定画面に表示されます。
ページの種別(必須)	ここでは、「メニューリンク」が表示されていて、変更はできません。
メニューリンクセット	この項目も、変更できません。
タイトルの表示	ポートレットのタイトルバーを「表示する」、「表示しない」を選択します。

キャッシュの設定	ポートレットの表示内容をサーバ内にキャッシュする場合のキャッシュ時間を選択します。
ポートレットの説明	ポートレットの説明を入力します。
表示領域(高さ:幅)	ポートレットの表示される大きさを設定します。設定は、比率(%)またはピクセル単位で、高さと幅を指定します。

5 ポートレット設定画面に戻ります。次に、[アクセス権設定]アイコンをクリックします。

ポートレットを登録した段階では、ログイングループ全員が利用できます。特定のユーザや組織での利用の場合は、アクセス権設定のアイコンをクリックして、権限を設定します。

<登録されているポートレットの一覧>

6 アクセス権設定画面で、[検索]アイコンをクリックします。

<ポートレットのアクセス権の設定>

7 会社・組織、パブリックグループ、ロールのいずれかを設定してこのポートレットに対するアクセス権限を設定します。

設定すると、アクセス権設定画面に戻ります。

<アクセス権限設定画面>

8 アクセス権設定画面に、設定したアクセス権が表示されます。

詳細アイコンをクリックすると、さらに詳細な条件を設定できます。

<アクセス権限設定画面>

9 メニューリンクをポータル画面に設定します。

2.11 バッチ管理の操作

バッチ実行したいロジックを記述したバッチプログラムを作成し、バッチ設定画面で起動日時を設定します。バッチに関する設定は、［システム設定］フォルダの［バッチスケジューラ］フォルダ内のメニューで行います。

- 画面やWebの仕組みに関わる機能(ファイルのダウンロードなど)を行うことはできません。
- バッチ管理モジュールを利用するには、Schedule Serviceが動作していることが前提になります。
- バッチ機能を利用するには、intra-martの定義ファイル（imart.xml）の設定などが必要となります。

2.11.1 バッチプログラムの作成と登録

バッチプログラムは、次のような手順で作成し登録します。

1 バッチプログラムを作成・保存

2 バッチ処理登録

3 バッチ管理制御（バッチ機能の起動と停止）

<バッチプログラムの作成と登録のフロー>

1 JavaScriptによりバッチプログラムを作成

バッチプログラムを記述したファンクション・コンテナを作成します。

- バッチ管理モジュールは、ファンクション・コンテナ上に記述されているinit()関数を、設定に従って指定時刻に自動実行します。
  init()関数は、通常のファンクション・コンテナと同様の形式で記述します。
  function init(argV) {・・・}
  バッチ起動情報がオブジェクトの形式で引数として渡されます。

または、Javaによりバッチプログラムを作成

バッチプログラムを記述したクラスを作成します。

- jp.c.intra_mart.foundation.service.provider.batch.ProcedureComponentを実装して作成します。インターフェース仕様に関しては、APIリストを参照して下さい。
- 作成したクラスはコンパイルして、Application Runtimeの動作している環境においてクラスパスの設定されているディレクトリ内に保存してください。

2 バッチプログラムの登録

作成したバッチプログラムを登録します。バッチ処理登録は、［ログイングループ設定］の「バッチ設定」で［新規登録］アイコンをクリックして行います。

<[バッチ処理一覧]画面>

<バッチプログラムの新規登録画面>

有効/無効	バッチプログラムの有効/無効を切り替えます。
バッチID(必須)	バッチプログラムのIDが表示されます。通常は、そのまま利用します。
バッチ名(必須)	バッチプログラムに付ける名称を入力します。
実行プログラム言語(必須)	バッチプログラムを入力したプログラムの記述言語を選択します。JavaまたはJavaScriptが選択できます。
実行プログラムパス(必須)	手順1で作成したバッチプログラムのパスを入力します。

実行時間	バッチプログラムを実行する日時を指定します。
[実行]ボタン	登録したバッチプログラムを直ちに実行します。新規作成時には、バッチプログラムの登録後でないと、このボタンは操作できません。
[登録]ボタン	バッチプログラムを登録します。

3 バッチプログラムの起動と停止

バッチプログラム一覧のまたは各バッチプログラムの詳細画面の［有効/無効］ボタンをクリックして、［有効］にします。

- [実行]ボタンをクリックすると、「有効/無効」の設定とは関係なく、バッチプログラムを直ちに実行することができます。

2.12 カレンダーの設定

カレンダー設定では、曜日、会社独自の休日や営業日等を管理する機能を持っています。また、この画面で、カレンダーIDを増やすことで複数のカレンダーを設定でき、本社と工場など異なるカレンダーを利用するアプリケーションの作成が可能となっています。ここでは、カレンダーの設定方法について説明します。

2.12.1 カレンダーデータの追加

カレンダーには、一般的な祝祭日など、基本的なカレンダー設定データが登録されています。これに、独自のデータを追加する操作について説明します。

1 [ログイングループ管理]の[カレンダー設定]メニューをクリックします。
[カレンダー更新] 画面が表示されます。

<カレンダーマスタメンテナンス画面>

2 [新規追加]をクリックします。

右フレームに新規登録画面が表示されます。既存項目を選択したときには、右フレームに更新・削除画面が表示されます。

<カレンダーマスタメンテナンス画面>

カレンダーID(必須)	このカレンダーは、複数のカレンダー設定を登録できますが、これから登録するデータをどのカレンダー設定に登録するかを選択します。
データID(必須)	カレンダーデータの内部コードです。通常はそのまま利用します。
データタイプ(必須)	このカレンダーでは、[名称]、[休日]、[非休日]、[公休日]に分類されていますので、この中から選択します。
データ名(必須)	データ名を入力します。
年月日	データを日付で指定する場合に入力します。
第何週	データが第何週目を指定する場合に入力します。
第何曜日	この項目を選択したときは、次の曜日とセットで利用します。ここでは、第何番目の指定曜日かを選択するときに使用します。例第2水曜日
曜日	データを曜日で指定する場合に入力します。
開始年・終了年	データの有効期限を入力します。
プラグイン関数	この設定が有効になるための特殊な条件を判定する関数です。あらかじめ用意してあるプラグイン関数の中から選択できます。
表示名(必須)	多言語化に対応していますので、登録されている言語ごとに、表示名称を入力します。
表示色(必須)	このデータがカレンダーに表示されるときの色を選択します。なお、[表示確認]ボタンをクリックすると、完成イメージが表示されます。

2.12.2 カレンダー設定の新規追加

標準で用意されている設定以外に、新規にカレンダーの設定を登録するには、次のように操作します。

1 [新規追加]をクリックします。

右フレームに新規登録画面が表示されます。ここまでは、カレンダーデータの追加と同様です。

<カレンダーマスタメンテナンス画面>

2 データ入力の際に、「カレンダーID」の項目を選択するのではなく、新しいIDを入力します。データの追加と同様に、一つ目のデータを続けて入力して、[登録]ボタンをクリックします。

新しいカレンダー設定として登録されます。

2.13 ViewCreator

ViewCreatorはintra-martの画面上から、データベースのデータを使用して、様々な表やグラフを作成することができるツールです。使用可能なデータベースには、ログイングループデータベースとシステムデータベースがあります。
ViewCreatorの機能は、クエリメンテナンスとデータ参照メンテナンスの2つの操作に大きく分かれます。

クエリメンテナンス	データベース上のテーブルやビューの結合などを行い、データ参照で使用する元データとなる表を作成します。また、作成したクエリのSQL表示やViewの作成、あるいは表をプレビュー表示することもできます。
データ参照メンテナンス	クエリメンテナンスで作成したデータの表示の仕方（グラフまたは表など）やデータの絞込みに関する設定を行います。また、参照権限をデータ参照単位で設定することができます。

作成したデータ参照は、表示時にデータの検索や表示項目の絞り込み、並び順の変更などを行うことができます。また、データ参照はポートレットとして追加したり、CSV/HTML形式のファイルとして出力、あるいはスクリプト開発モデルのプログラムファイルとして出力可能で、出力されたプログラムソースは自由にカスタマイズして再利用が可能です。
このように、データベースの中のデータを元に様々な表やグラフの作成/表示をWebブラウザ上で簡単に操作できるのがViewCreatorの大きな特徴です。

<ViewCreator>

2.13.1 クエリメンテナンス

クエリメンテナンスでは、データベース上のテーブルやビューの結合などを行い、データ参照で使用する元データになる表を作成します。また、作成したクエリのSQLを表示したり、プレビュー表示をすることもできます。

クエリメンテナンスは、次のようなフローで作業を行います。

<クエリメンテナンス>

クエリメンテナンスで、ログイングループ管理者ができる操作は次のとおりです。

- クエリの新規作成/編集
- クエリのコピー
- クエリの削除
- SQL の表示
- ビューの作成
- プレビュー表示

2.13.1.1 クエリの新規作成

接続するデータベースを指定し、クエリを新規に作成します。

1 [ViewCreator]メニューから[クエリメンテナンス]をクリックします。
[クエリ一覧] 画面が表示されます。

<クエリ一覧>

2 [DB接続参照]から接続するDB接続参照名を選択します。

<接続するデータベースを選択する>

Column

接続するデータベースをあらかじめ設定する

クエリメンテナンス画面を開いた際に、接続するデータベースをあらかじめ設定することができます。通常、接続するデータベースが同一の場合に設定すると便利です。
設定は、システム管理者が管理メニュー設定で次の値を設定すると、接続するデータベースを設定できます。

キー：dbSource
値　：ログイングループ名、またはシステムデータベースの接続ID

値にログイングループ名を設定した場合、実際にログインしたときのログイングループしか設定できません。実際に設定する場合は、システム管理者にお問い合わせください。

3 [新規作成]をクリックします。

[クエリ編集] 画面が表示されます。

<[新規作成]をクリックする>

<[クエリ編集]画面>

クエリ名	作成するクエリーの名称を入力します。この名称で、クエリー一覧に表示されます。この項目は必須入力項目です。
説明	作成するクエリの説明を入力します。
検索キーワード	テーブル名またはビュー名を、部分一致で絞り込みます。
Exclude	チェックをつけると、テキストボックスに入力された文字列を含むテーブルを除外して表示します。
	一覧に表示されているテーブルおよびビューを更新します。
削除	選択中のビューを削除します。この項目は、[ビュー]タブが選択されている場合のみ、表示されます。
[テーブル]タブ	データベースに存在するテーブルが一覧表示されます。

[ビュー]タブ	データベースに存在するビューが一覧表示されます。
[追加]ボタン	クエリにカラムを追加します。
[削除]ボタン	選択中のカラムを削除します。
[上へ]ボタン	選択中のカラムをひとつ上に移動させます。
[下へ]ボタン	選択中のカラムをひとつ下に移動させます。
抽出条件一覧	データの絞込検索条件を設定します。
カラム一覧	クエリに対するカラムを設定します。
[登録]ボタン	設定したクエリを登録します。
[データ参照新規作成]ボタン	作成したクエリからデータ参照を新規に作成することができます。このボタンは、作成しているクエリを登録してからでないとクリックできません。

4 クエリ名を入力します。

必要に応じて、説明を入力してください。

<クエリ名を入力する>

5 テーブルまたはビューを開きます。

- テーブルおよびビューの一覧は一度表示すると、DB接続参照ごとにデータがキャッシュされます。次回アクセス時はキャッシュされたデータを使用して表示します。
  データベースが更新されている場合は、をクリックし、テーブルまたはビューを再表示してください。

■テーブルまたはビューを絞り込む

表示されているテーブルまたはビューを絞り込むことができます。

一覧の上部にあるテキストボックスに文字列を入力すると、部分一致でテーブル名またはビュー名を絞り込みます。

[Exclude] にチェックをつけると、入力した文字列を含むテーブルまたはビューを除外して絞り込みます。

<絞り込む>

■[テーブル]タブ

テーブル一覧から項目を開く場合、［テーブル］タブをクリックします。開く項目を選択し、項目をダブルクリックするか、右側のスペースにドラッグ＆ドロップします。

<テーブルを開く>

■[ビュー]タブ

ビュー一覧から項目を開く場合、［ビュー］タブをクリックします。開く項目を選択し、項目をダブルクリックするか、右側のスペースにドラッグ＆ドロップします。

<ビューを開く>

■ビューの削除

一覧表示されているビューは削除することができます。

削除する場合は、削除するビューを選択し、[削除]をクリックします。

- [削除]をクリックすると、データベースにあるビューの削除を実行します。誤ってビューを削除すると、データベースのデータが壊れる場合があります。削除を実行する場合は、必ず削除していいデータか確認した上で削除を実行してください。
  ビューを削除すると、ビューを使用しているクエリとデータ参照も同時に削除されます。必ず確認の上、削除を実行してください。
  また、ビューを複数同時に削除できません。

<ビューを削除する>

6 テーブルを操作します。

テーブルの結合、結合方法の設定など、テーブルに関する操作を行います。

テーブルに関する操作は、「2.13.1.2 テーブルの操作」を参照してください。

<テーブルを操作する>

7 カラムを追加します。

カラムを追加する場合、テーブル一覧から追加するカラムを選択して次のいずれかの操作を行ってください。

・テーブル一覧でカラムを選択し、［追加］ボタンをクリックする

・テーブル一覧でカラムを選択し、カラム一覧にドラッグ＆ドロップする

・テーブル一覧でカラムをダブルクリックする

<カラムを追加する>

● ［追加］ボタンで追加した場合とダブルクリックして追加した場合、カラムは一覧の一番下に追加されます。ドラッグ&ドロップして追加した場合、カラムをドロップした場所に追加されます。

8 テーブルのカラムを設定します。

<テーブルのカラムを設定する>

テーブル	追加したカラムのテーブル名が表示されます。
カラム	カラムを選択します(選択されたテーブルが持つフィールドの中から指定します)。
型	実際のデータベース上のでのフィールドの型に近い項目が自動的に選択されます(例:フィールドの型が「VARCHAR」の場合、カラムの型は「文字列」が自動的に選択されます)。選択されている型は、必要に応じて変更することができます。選択できる型には、次のような種類が用意されています。 本機能は、自動選択された型が実際のフィールドの型と明らかにミスマッチである場合に修正するための機能です。 それ以外の目的では変更しないようにしてください。
文字列	文字列を表示するカラムの場合に選択します。
数値	数値を表示するカラムの場合に選択します。
日付	日付を表示するカラムの場合に選択します。
キャプション	カラムに対するキャプションを設定します。ここで設定された文字列は、データ参照表示した際の項目名として使用されます。デフォルトではデータベース上の物理名が表示されるので、わかりやすい名称を設定してください。

- テーブルを複数追加する場合は、手順5～8を繰り返してください。

9 [抽出条件]タブで、抽出条件を設定します。

<抽出条件を設定する>

テーブル	条件を設定するカラムのテーブル名が表示されます。
カラム	カラムを選択します(選択されたテーブルが持つフィールドの中から指定します)。
抽出方法	抽出方法を次の7つから選択します。
完全一致	設定した条件値と完全に一致するデータを抽出します。
部分一致	設定した条件値を含むデータを抽出します。
前方一致	設定した条件値が、先頭に一致するデータを抽出します。
以上	設定した条件値を含む、またはそれ以上のデータを抽出します。
以下	設定した条件値を含む、またはそれ以下のデータを抽出します。
未満	設定した条件値を含まず、それ以下のデータを抽出します。
範囲指定	条件値に範囲を設定し、一致したデータを抽出します。範囲指定の開始値は条件値を含み、終了値は条件値を含みません。また、指定した範囲外を条件とすることもできます。
条件値	抽出する条件値を入力します。あるいは、コンボボックスから「システム値」を条件として選択可能です。選択できるシステム値は、以下の7種類です。システム値は、データ参照表示時のログインユーザ、システム日付等の情報から自動的に取得・設定されます。
<%SYSTM_DATE (yyyy/MM/dd)%>	システム日付を示す文字列。カッコ内は日付文字列のフォーマットを指定します(フォーマットは直接入力で編集します)。 y: 年、 M: 月、 d: 日 h: 午前/午後の時 (1 - 12) H: 一日における時 (0 - 23) k: 一日における時 (1 - 24) m: 分、 s: 秒、 S: ミリ秒 a: 午前/午後、 E: 曜日

<%LOCALE%>	ログインユーザのロケール(″ja″, ″en″等)が設定されます。
<%ENCODING%>	ログインユーザのエンコーディングが設定されます。
<%LOGIN_GROUP%>	ログイングループのログイングループコードが設定されます。
<%USER_ID%>	ログインユーザのユーザコードが設定されます。
<%MAIN_DEPT_CD%>	ログインユーザのシステム日付時点の主所属組織コードが設定されます。
<%MAIN_COMP_CD%>	ログインユーザのシステム日付時点の主所属会社コードが設定されます。

10 [登録]ボタンをクリックします。

クエリが作成されます。

<クエリを登録する>

2.13.1.2 テーブルの操作

ViewCreatorでは、SQLの一般的な機能であるテーブルの結合、結合方法の設定など、テーブルに関する操作をWebブラウザー上で行うことができます。
ここでは、テーブルの結合、結合方法の設定など、テーブルに関する操作について説明します。

■テーブルを結合する

テーブルとテーブルを結合します。

1 結合元のテーブルにあるカラムを選択してドラッグし、結合先のテーブルにあるカラムにドロップします。

<テーブルを結合する>

テーブルとテーブルに結合線が引かれ、テーブルが結合されます。

<テーブルを結合する>

- 結合の操作を行うと、デフォルトでは等価結合されます。

■結合方法を設定する

結合したテーブルの結合方法を変更します。

2 結合方法を変更する結合線をダブルクリックするか、右クリックして[結合線プロパティ]を選択します。

[結合線プロパティ] ウィンドウが表示されます。

<結合を選択する>

3 結合方法を設定します。

<結合方法を設定する>

左のテーブル名	左側のテーブル名を選択します。
右のテーブル名	右側のテーブル名を選択します
左の列見出し	左側の列見出し(フィールド)を選択します。
右の列見出し	右側の列見出し(フィールド)を選択します。
両方のテーブルの結合フィールドだけが同じ行だけ含める。	等価結合を行う場合に選択します。
左テーブルの全レコードと右テーブルの同じ結合フィールドのレコードだけを含める	左結合を行う場合に選択します。

右テーブルの全レコードと左テーブルの同じ結合フィールドのレコードだけを含める	右結合を行う場合に選択します。
[決定]ボタン	選択した内容で結合方法を設定し、[クエリ編集]画面に戻ります。
[キャンセル]ボタン	結合方法を設定せずに[クエリ編集]画面に戻ります。
[削除]ボタン	現在開いている結合線を削除します。

4 [決定]ボタンをクリックします。

結合方法が設定され、［クエリ編集］画面に戻ります。

<結合方法を決定する>

- 左結合を行うと、結合線は左のテーブルから右のテーブルに向かっての矢印(→)が表示されます。右結合を行うと、結合線は右のテーブルから左のテーブルに向かっての矢印(←)が表示されます。

■結合を解除する

結合したテーブルを解除します。結合線の削除方法は次のとおりです。

・削除する結合線を右クリックして［削除］を選択する。
・削除する結合線の［結合線プロパティ］ウィンドウの［削除］ボタンをクリックする。
・削除する結合線をクリックし、［Delete］キーを押す。

<結合線を削除する>

■表示されているテーブルのサイズを変更する

表示されているテーブルのサイズを変更します。

5 サイズを変更するテーブルウィンドウの右下をクリックし、任意の大きさにドラッグする。

テーブルウィンドウのサイズが拡大縮小します。

〈テーブルの表示サイズを変更する〉

■表示されているテーブルを消す

表示されているテーブルを消します。

6 表示を消すテーブルの[×]ボタンをクリックします。

テーブルが消されます。

〈テーブルを消す〉

● テーブルを消すと、そのテーブルから追加されたカラムと結合線が同時に削除されます。

2.13.1.3 クエリの編集

接続するデータベースを指定し、現在登録されているクエリを編集します。

1 [DB接続参照]から接続するデータベース名を選択します。
データベースに存在するクエリが一覧表示されます。

<接続するデータベースを選択する>

2 編集するクエリをクリックします。
[クエリ編集] 画面が表示されます。

<編集するクエリを選択する>

3 クエリを編集します。
クエリの編集手順については、「2.13.1.1 クエリの新規作成」を参照してください。

- 「データ参照」作成後に、選択したクエリを変更すると正しくデータ参照が行えなくなる場合がありますので、ご注意ください。

2.13.1.4 クエリのコピー

クエリのコピーを作成します。

1 クエリ一覧から、コピーするクエリにチェックをつけます。

<コピーするクエリを選択する>

- 一番上のチェックボックスにチェックをつけると、すべての項目を選択できます。

2 [コピー]をクリックします。
[クエリコピー] 画面が表示されます。

<クエリをコピーする>

3 新しいクエリ名と説明を入力し、[決定]ボタンをクリックします。
確認のメッセージが表示されます。

<新しいクエリ名を入力する>

- クエリ名は必ず入力してください。

4 [OK]ボタンをクリックします。
クエリがコピーされ、［クエリー覧］画面に戻ります。

2.13.1.5 クエリの削除

クエリを削除します。

- クエリを使用したデータ参照がある場合、クエリを削除すると同時にそのデータ参照も削除されます。削除する前に必ず確認をしてください。また、削除したクエリは復元できません。あらかじめ確認の上、操作を行ってください。

1 クエリ一覧から、削除するクエリにチェックをつけます。

<削除するクエリを選択する>

- 一番上のチェックボックスにチェックをつけると、すべての項目を選択できます。

2 [削除]をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。

<クエリを削除する>

- 削除するクエリを使用したデータ参照が存在する場合、警告メッセージが表示されます。

3 [はい]ボタンをクリックします。
クエリが削除されます。

2.13.1.6 SQLの表示

選択したクエリのSQL文を表示します。

1 SQLを表示するクエリをクリックします。
［クエリ編集］画面が表示されます。

<SQLを表示するクエリを選択する>

2 ［SQLの表示］をクリックします。
［SQLビュー］画面が表示されます。SQL文を確認します。

<SQLを表示する>

3 SQLを確認します。

<SQLを確認する>

2.13.1.7 Viewの作成

ViewCreatorでは、作成したクエリを元にしてデータベース上にViewを作成することができます。作成したViewを使用して、新しいクエリを作成することも可能です。また、作成したViewは、削除することもできます（詳細は、「ビューの削除（→p.205）」を参照してください）。

1 Viewを作成するクエリをクリックします。
［クエリ編集］画面が表示されます。

<Viewを作成するクエリを選択する>

2 [Viewの作成]をクリックします。

[SQLの編集] 画面が表示されます。

<Viewを作成する>

3 SQLを編集します。

編集されたSQL文がそのまま実行されますので、データベースのデータを壊さないように注意してください。

<SQLを編集する>

ビュー名	クエリ名が表示されます。必要に応じて、任意の名前に変更してください。
エイリアス名	フィールドのエイリアスは自動採番されます。必要に応じて、任意の名前に変更してください。

Column

条件句を追加する

SQL文に条件句（WHERE句）を追加することにより、データを絞り込むことができます。
通常、クエリでデータを絞り込むことができませんが、条件句を追加したビューを使用すると、データを絞り込んだクエリを作成することができます。

4 [実行]ボタンをクリックします。
確認のメッセージが表示されます。

<SQLを編集する>

5 [OK]ボタンをクリックします。
ビューが作成され、ビュー一覧に作成したビューが表示されます。

2.13.1.8 プレビュー

選択したクエリをプレビュー表示します。

1 Viewを作成するクエリをクリックします。
［クエリ編集］画面が表示されます。

<プレビュー表示するクエリを選択する>

2 ［プレビュー］をクリックします。
［プレビュー］画面が表示され、クエリの内容が表示されます。

<クエリをプレビュー表示する>

3 プレビューを確認します。

年度	地方名	都道府県名	年齢	人口
1970	北海道	北海道	0 - 14歳	1309
1970	東北	青森	0 - 14歳	397
1970	東北	岩手	0 - 14歳	362
1970	東北	宮城	0 - 14歳	449
1970	東北	秋田	0 - 14歳	303
1970	東北	山形	0 - 14歳	288
1970	東北	福島	0 - 14歳	508
1970	関東	茨城	0 - 14歳	534
1970	関東	栃木	0 - 14歳	389
1970	関東	群馬	0 - 14歳	397
1970	関東	埼玉	0 - 14歳	1003
1970	関東	千葉	0 - 14歳	846
1970	関東	東京	0 - 14歳	2401
1970	関東	神奈川	0 - 14歳	1302
1970	中部	新潟	0 - 14歳	573
1970	中部	富山	0 - 14歳	230
1970	中部	石川	0 - 14歳	235
1970	中部	福井	0 - 14歳	178
1970	中部	山梨	0 - 14歳	188
1970	中部	長野	0 - 14歳	450

昇順 降順 1-20/987 表示中

<プレビューを確認する>

2.13.1.9 一般ユーザにクエリ/データ参照の作成権限を与える

ログイングループ管理者だけでなく、一般ユーザにもクエリやデータ参照を作成することを許可するには、以下のような手順で権限を付与する必要があります。

1 メニューメンテナンス画面で、フォルダおよびメニュー（ViewCreator、ViewCreator/クエリメンテナンス、ViewCreator/データ参照一覧）に権限を設定します。
一般ユーザのメニューに、以下の項目が追加されます

```
ViewCreator/クエリメンテナンス
ViewCreator/データ参照一覧
```

<メニューメンテナンス画面での設定例>

- 「ViewCreator/データ参照一覧」は、メニューに権限を付与してもデータ参照の新規作成/更新/削除や、ポートレット作成などの機能が使用できません。これらの機能を一般ユーザも使用できるようにするには、手順2以降の設定をする必要があります。一般ユーザに、データ参照の参照権限のみを付与する場合は必要ありません。

2 ViewCreator用のアクセスコントローラを作成し、データ参照の編集権を付与します。

メニューから、［ログイングループ管理］－［アクセスコントローラ設定］をクリックします。

<アクセスコントローラマスタメンテナンス画面>

3 アクセスコントローラIDとアクセスコントローラ名を入力します。

・アクセスコントローラID	:	im_vc_manager
・アクセスコントローラ名	:	任意(例:ViewCreatorManager)

4 作成したアクセスコントローラに対して権限を設定します。

<アクセスコントローラマスタメンテナンス画面 － 権限を設定>

- アクセスコントローラ機能の詳細については「2.5.7 アクセスコントローラ」を参照してください。

2.13.1.10 インポート/エクスポート

ViewCreatorで作成したクエリやデータ参照の設定データは、ログイングループデータベース上のテーブルに保存されます。弊社製品の「IMインサート・ジェネレータ」を用いて、この設定データのインポート/エクスポートを行うことができます。

- IMインサートジェネレータは、iWP/APP ver6.1のインストールCDの以下のパスに含まれています。
  iwp_afw/tools/insert_generator
  使用方法の詳細については、同梱の操作ガイドを参照してください。

■エクスポート

1 以下のファイルを、インサートジェネレータのホームディレクトリにコピーします。

```
iwp_afw/migration/vc_insertgenerator_build.xml
```

※ログイングループデータベースが、PostgreSQLまたは、Microsoft SQL Serverシリーズの場合は vc_insertgenerator_sql_post_build.xmlを使用します。

2 コピーしたファイルを編集します。使用しているRDBに対応したJDBCドライバのファイル名に書き換えます。以下では、RDBに「Microsoft SQL Server」を使用し、対応するJDBCドライバが「sample_A.jar」と「sample_B.jar」であった場合の例を示します。

```
<!-- define library for MS SQLServer drivers. -->
<fileset id="microsoft.jar" dir="${lib.dir}">
   <include name="sample_A.jar"/>
   <include name="sample_B.jar"/>
</fileset>
```

3 ファイル名をリネームします。

```
vc_insertgenerator_build.xml → build.xml
```

4 リネームしたbuild.xmlを使用してインサートジェネレータを実行します。データベースは、エクスポートを行うログイングループのログイングループデータベースを指定します。
エクスポートデータ（*.sqlファイル）が生成されます。

■インポート

1 エクスポートデータ(*.sqlファイル)を各種データベース付属のツール等を用いて実行します。

- エクスポート時のデータベースと、インポート時のデータベースは同一の製品・バージョンを使用してください。
- エクスポート時とインポート時の「DB接続ID」は同一であることが必要です。
  例えば、DB接続IDを"sample"で選択してクエリやデータ参照を作成して、エクスポートした場合はインポート先の環境にも、"sample"をDB接続IDとして設定されている必要があります。

2.13.2 データ参照メンテナンス

データ参照メンテナンスでは、クエリメンテナンスで作成したデータ（クエリ）を使用して、表示種別（リスト、サマリ、クロス、グラフ）の選択、表示形式（ソート順、整列順）やデータの絞込み、参照権限の設定などを行います（「データ参照」の作成）。
作成された「データ参照」は、表示/閲覧ができるほか、CSVやHTML形式のファイルに出力することもできます。さらに、ポートレットとして登録することや、スクリプト開発モデルのプログラムファイルとしてエクスポートすることもできるようになっており、自由にカスタマイズして使用することが可能です。
データ参照メンテナンスは、次のようなフローで作業を行います。

<データ参照メンテナンス>

データ参照メンテナンスで、ログイングループ管理者ができる操作は次のとおりです。

- データ参照の新規作成
- データ参照の編集
- データ参照の削除
- ポートレットの追加
- プログラムファイル出力
- データ参照表示
- CSV 出力
- HTML 出力
- 権限の設定
- SQL の表示
- プレビュー表示

2.13.2.1 データ参照の新規作成

接続するデータベースを指定し、データ参照を新規に作成します。

1 [ViewCreator]メニューから[データ参照メンテナンス]をクリックします。
[データ参照一覧] 画面が表示されます。

<データ参照一覧>

2 [DB接続参照]から接続するDB接続参照名を選択します。

<接続するデータベースを選択する>

Column

接続するデータベースをあらかじめ設定する

データ参照メンテナンス画面を開いた際に、接続するデータベースをあらかじめ設定することができます。通常、接続するデータベースが同一の場合に設定すると便利です。
設定は、システム管理者が管理メニュー設定で次の値を設定すると、接続するデータベースを設定できます。

キー：dbSource
値　：ログイングループ名、またはシステムデータベースの接続ID

値にログイングループ名を設定した場合、実際にログインしたときのログイングループしか設定できません。
また、次のようにデータ参照CDをページ引数に追加すると、該当データ参照を表示する画面に直接遷移することができます。

キー：dataCd
値　：データ参照CD

実際に設定する場合は、システム管理者にお問い合わせください。

3 [新規作成]をクリックします。
[データ参照新規] 画面が表示されます。

<[新規作成]をクリックする>

4 基本設定項目を入力します。

<[データ参照新規]画面>

データ参照CD	データ参照CDを入力します。デフォルトでは、自動採番されたデータ参照CDが表示されます。この項目は必須入力項目です。
データ参照名	データ参照名を入力します。この項目は必須入力項目です。
クエリの選択	クエリを選択します。この項目は必須選択項目です。
表示種別	データの表示種別を選択します。選択できる項目は次のとおりです。
リスト集計	参照するデータをリスト形式で表を作成します。列を「グループ化」して階層的に表示することもできます。
サマリ集計	参照するデータを指定した情報別に集約して表を作成します。
クロス集計	参照するデータの1つか2つの項目を縦軸に、もう1つの項目を横軸にしてデータを表を作成します。
グラフ集計	参照するデータのグラフを作成します。グラフは棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、レーダーチャートの4種類があります。
説明	作成するデータ参照の説明を入力します。
ヘッダ	作成するデータ参照のヘッダを入力します。
フッタ	作成するデータ参照のフッタを入力します。
[登録]ボタン	設定したデータ参照を登録します。

5 表示種別ごとに設定条件を入力します。

表示種別には次の集計方法があります。

リスト集計　：参照するデータをリスト形式で表を作成します。
サマリ集計　：参照するデータを指定した情報別に集約して表を作成します。
クロス集計　：参照するデータの1つか2つの項目を縦軸に、もう1つの項目を横軸にしてデータを表を作成します。
グラフ集計　：参照するデータのグラフを作成します。

■リスト集計

参照するデータをリスト形式で表を作成します。

■表示カラム設定

表示カラム設定では、リスト表示した際の表示方法を設定します。

<表示カラム設定>

[最上位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最上位に移動します。
[1つ上へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ上位に移動します。
[1つ下へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ下へに移動します。
[最下位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最下位に移動します。
チェックボックス	移動させるカラムの行にチェックをつけます。
カラム	選択したクエリに登録されているカラムが表示されます。
タイプ	カラムにあるデータの集約方法を選択します。「グループ化」および「合計」などの集約関数が選択できます。グループ単位で集約関数の結果が表示されます。 タイプで選択できる項目は次のとおりです。
グループ化	グループ化を選択した列は、項目がグループ化され、値を展開/省略できるようになります。
グループ化以外	選択された集計方法に対する結果が表の一番下に表示されます。他のカラムで「グループ化」が選択されている場合は、そのグループ単位で小計が表示されます。
表示	カラムを表示する場合にチェックをつけます。
形式	カラムの形式を設定します。カラムの型で設定項目が異なります。

文字型	設定できません。
数値型	3桁区切りにする場合にチェックをつけます。
日付型	日付の表示方法を選択します。
ソート順	カラムに対するデフォルトのソート順を選択します。非表示列(表示チェックボックスにチェックが付けられていない列)であっても、「ソート順」の設定は有効になります。ソート順で選択できる項目は次のとおりです。 ・昇順 ・降順
しきい値	しきい値で設定した値を超えると、データが赤く表示されます。しきい値は、カラムの型が数値型の場合に設定できます。
整列	カラムのデータを表示する位置を選択します。デフォルトでは、文字は左寄せ、数値は右寄せに設定されます。選択できる項目は次のとおりです。 ・右寄せ ・中央揃え ・左寄せ

● データ参照表示画面では、最上位にあるカラムが表の一番左に表示されます。

■抽出条件

抽出条件では、表示するデータを絞り込むための条件を設定します。条件設定に使用するカラムは「カラムの選択」コンボボックスから選択して「追加」ボタンをクリックすると、下の一覧に追加されます。追加されたカラムに対して、「抽出条件」で詳細な条件を設定します。

<抽出条件>

カラムの選択	抽出条件を設定するカラムを選択します。
[追加]ボタン	選択したカラムを抽出条件一覧に追加します。
[最上位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最上位に移動します。
[1つ上へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ上位に移動します。
[1つ下へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ下へに移動します。
[最下位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最下位に移動します。
[削除]ボタン	チェックをつけたカラムを削除します。
チェックボックス	移動させるカラムまたは削除するカラムの行にチェックをつけます。

カラム	追加されたカラムが表示されます。
抽出条件	抽出条件を選択します。選択できる条件は次のとおりです。
部分一致	設定した条件値を含むデータを抽出します。「部分一致」を選択した場合、指定する条件を入力します。
前方一致	設定した条件値が、先頭に一致するデータを抽出します。「前方一致」を選択した場合、指定する条件を入力します。
完全一致	設定した条件値と完全に一致するデータを抽出します。「完全一致」を選択した場合、指定する条件を入力します。
範囲指定	条件値に範囲を設定し、一致したデータを抽出します。範囲指定の開始値は条件値を含み、終了値は条件値を含みません。「範囲指定」を選択した場合、指定する範囲を入力します。また、「以外」にチェックをつけると、入力した範囲以外が抽出条件となります。
条件値	抽出する条件値を入力します。あるいは、コンボボックスから「システム値」を条件として選択可能です。選択できるシステム値は、以下の7種類です。システム値は、データ参照表示時のログインユーザ、システム日付等の情報から自動的に取得・設定されます。
<%SYSTM_DATE (yyyy/MM/dd)%>	システム日付を示す文字列。カッコ内は日付文字列のフォーマットを指定します(フォーマットは直接入力で編集します)。 y : 年、 M : 月、 d : 日 h : 午前/午後の時 (1 - 12) H : 一日における時 (0 - 23) k : 一日における時 (1 - 24) m : 分、 s : 秒、 S : ミリ秒 a : 午前/午後、 E : 曜日
<%LOCALE%>	ログインユーザのロケール("ja", "en"等)が設定されます。
<%ENCODING%>	ログインユーザのエンコーディングが設定されます。
<%LOGIN_GROUP%>	ログイングループのログイングループコードが設定されます。
<%USER_ID%>	ログインユーザのユーザコードが設定されます。
<%MAIN_DEPT_CD%>	ログインユーザのシステム日付時点の主所属組織コードが設定されます。
<%MAIN_COMP_CD%>	ログインユーザのシステム日付時点の主所属会社コードが設定されます。

■検索設定

検索設定では、データ参照表示時にユーザが操作可能な検索項目、検索方法、およびキーワードや検索範囲のデフォルト値を設定します。

<検索設定>

検索画面の表示パターン	[データ参照(リスト)]画面の[検索]をクリックした際に、検索画面をどこに表示するか設定します。
カラムの選択	検索対象にするカラムを選択します。
[追加]ボタン	選択したカラムを検索設定一覧に追加します。
[最上位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最上位に移動します。
[1つ上へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ上位に移動します。
[1つ下へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ下へに移動します。
[最下位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最下位に移動します。
[削除]ボタン	チェックをつけたカラムを削除します。
チェックボックス	移動させるカラムまたは削除するカラムの行にチェックをつけます。
カラム	追加されたカラムが表示されます。
抽出条件	検索時の抽出条件を選択します。選択できる条件は次のとおりです。
キーワード検索	カラムをキーワード検索にします。
範囲検索	カラムを範囲検索にします。
デフォルト値	検索項目にデフォルトで表示する値を設定します。
キーワード検索	文字列を入力します。また、検索オプションを「部分一致」、「前方一致」、「完全一致」から選択します。
範囲検索	範囲を入力します。また、検索オプションを、「範囲指定」、「以上」、「以下」、「未満」から選択します。

- 「抽出条件」は、ログイングループ管理者があらかじめ設定した値でデータを抽出して表示する条件を設定します。「検索設定」では、ユーザがデータを参照する際に抽出条件を入力するための項目を設定します。

■サマリ集計

サマリ集計では、参照するデータを指定した情報別に集約して表を作成します。

■表示カラム設定

表示カラム設定では、表の表示方法を設定します。

<表示カラム設定>

カラムの選択	表示するカラムを選択します。
[追加]ボタン	選択したカラムを検索設定一覧に追加します。
[最上位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最上位に移動します。
[1つ上へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ上位に移動します。
[1つ下へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ下へに移動します。
[最下位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最下位に移動します。
[削除]ボタン	チェックをつけたカラムを削除します。
チェックボックス	移動させるカラムの行にチェックをつけます。
カラム	選択したクエリに登録されているカラムが表示されます。
タイプ	カラムにあるデータの表示方法を選択します。サマリの場合の「タイプ」は、リストとは異なり、必須選択項目です。
形式	カラムの形式を設定します。カラムの型で設定項目が異なります。
文字型	設定できません。
数値型	3桁区切りにする場合にチェックをつけます。
日付型	日付の表示方法を選択します。
ソート順	カラムに対するデフォルトのソート順を選択します。ソート順で選択できる項目は次のとおりです。 ・昇順 ・降順
抽出条件	グループ化または集約結果に対して絞り込みを実行するための条件を入力します。 [以外]にチェックをつけると、入力した条件以外で絞り込みを実行します。
条件値	抽出する条件値を入力します。あるいは、コンボボックスから「システム値」

	を条件として選択可能です。選択できるシステム値は、以下の7種類です。システム値は、データ参照表示時のログインユーザ、システム日付等の情報から自動的に取得・設定されます。
<%SYSTM_DATE (yyyy/MM/dd)%>	システム日付を示す文字列。カッコ内は日付文字列のフォーマットを指定します(フォーマットは直接入力で編集します)。 y：年、 M：月、 d：日 h：午前/午後の時（1 – 12） H：一日における時（0 – 23） k：一日における時（1 – 24） m：分、 s：秒、 S：ミリ秒 a：午前/午後、 E：曜日
<%LOCALE%>	ログインユーザのロケール("ja", "en"等)が設定されます。
<%ENCODING%>	ログインユーザのエンコーディングが設定されます。
<%LOGIN_GROUP%>	ログイングループのログイングループコードが設定されます。
<%USER_ID%>	ログインユーザのユーザコードが設定されます。
<%MAIN_DEPT_CD%>	ログインユーザのシステム日付時点の主所属組織コードが設定されます。
<%MAIN_COMP_CD%>	ログインユーザのシステム日付時点の主所属会社コードが設定されます。
整列	カラムのデータを表示する位置を選択します。デフォルトでは、文字は左寄せ、数値は右寄せに設定されます。選択できる項目は次のとおりです。 ・右寄せ ・中央揃え ・左寄せ

● データ参照表示画面では、最上位にあるカラムが表の一番左に表示されます。

■検索設定

検索設定では、データ参照の検索画面を設定します。

<検索設定>

検索画面の表示パターン	[データ参照(リスト)]画面の[検索]をクリックした際に、検索画面をどこに表示するか設定します。
カラムの選択	検索対象にするカラムを選択します。追加できるカラムは、「表示カラム設定」で「グループ化」が選択されているカラムのみです。
[追加]ボタン	選択したカラムを検索設定一覧に追加します。

[最上位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最上位に移動します。
[1つ上へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ上位に移動します。
[1つ下へ]ボタン	チェックをつけたカラムを1つ下へに移動します。
[最下位へ]ボタン	チェックをつけたカラムを最下位に移動します。
[削除]ボタン	チェックをつけたカラムを削除します。
チェックボックス	移動させるカラムまたは削除するカラムの行にチェックをつけます。
カラム	追加されたカラムが表示されます。
抽出条件	検索時の抽出条件を選択します。選択できる条件は次のとおりです。
キーワード検索	カラムをキーワード検索にします。
範囲検索	カラムを範囲検索にします。
デフォルト値	検索項目にデフォルトで表示する値を設定します。
キーワード検索	文字列を入力します。また、検索オプションを「部分一致」、「前方一致」、「完全一致」から選択します。
範囲検索	範囲を入力します。また、検索オプションを、「範囲指定」、「以上」、「以下」、「未満」から選択します。

■クロス集計

参照するデータの1つの項目を縦軸に、もう1つの項目を横軸にしてデータを表を作成します。

■表示設定

表示設定では、データの表示方法を設定します。

<表示設定>

列見出し	列の見出しにするカラムを選択します。
行見出し	行の見出しにするカラムを選択します。
値	表示する値のカラムを選択します。
3桁区切り	値を3桁で区切る場合にチェックをつけます。
集計型	集計のタイプを選択します。「値」で選択したカラムの型により、選択できる項目が異なります。
数値型	合計、平均、最小、最大、カウント、標準偏差、分散
数値型以外	最小、最大、カウント
表示/非表示	合計を表示する場合にチェックをつけます。「値」で選択したカラムの型により、選択できる項目が異なります。

数値型	合計、平均、最小、最大
数値型以外	合計

■グラフ集計

データをグラフで表示します。

■グラフ設定

グラフ設定では、グラフの表示方法を設定します。

<グラフ設定>

グラフタイプ	表示するグラフの種類を選択します。選択できるグラフは、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、レーダーチャートの4種類です。
グラフの大きさ(縦幅)	グラフの縦幅をピクセル単位で入力します。
グラフの大きさ(横幅)	グラフの横幅をピクセル単位で入力します。
目盛りの最小値	目盛りの最小値を入力します。
目盛りの最大値	目盛りの最大値を入力します。
1目盛りあたりの数	1目盛りあたりの数を入力します。

■グラフデータ設定

グラフデータ設定では、グラフの表示方法を設定します。

選択したグラフタイプにより、設定する項目が異なります。

＜棒グラフ＞

キャプション列	キャプション列に表示するカラムを選択します。
表示	表示するカラムの列にチェックをつけます。
カラム	カラムの名称が表示されます。表示されるカラムは、型が数値型のカラムのみです。
グラフカラー	表示するグラフの色を6桁の16進数で入力します。 例：赤の場合は「FF0000」と入力します。 [Color]ボタンをクリックすると、色見本が表示されるので選択しても設定することができます。

＜折れ線グラフ＞

キャプション列	キャプション列に表示するカラムを選択します。
表示	表示するカラムの列にチェックをつけます。
カラム	カラムの名称が表示されます。表示されるカラムは、型が数値型のカラムのみです。
グラフカラー	表示するグラフの色を6桁の16進数で入力します。 例：赤の場合は「FF0000」と入力します。 ［Color］ボタンをクリックすると、色見本が表示されるので選択しても設定することができます。
線の幅	表示する折れ線の線の幅をピクセル単位で入力します。
線の形状	表示する折れ線の形状を選択します。選択できる項目は次のとおりです。 ・実線 ・波線

＜円グラフ＞

キャプション列	キャプション列に表示するカラムを選択します。
値列	値列に表示するカラムを選択します。選択できるカラムは、型が数値型のカラムのみです。

＜レーダーチャート＞

キャプション列	キャプション列に表示するカラムを選択します。
表示	表示するカラムの列にチェックをつけます。
カラム	カラムの名称が表示されます。表示されるカラムは、型が数値型のカラムのみです。
グラフカラー	表示するグラフの色を6桁の16進数で入力します。

例：赤の場合は「FF0000」と入力します。

［Color］ボタンをクリックすると、色見本が表示されるので選択しても設定することができます。

6 ［登録］ボタンをクリックします。

設定したデータが登録されます。

<データ参照を登録する>

2.13.2.2 データ参照の編集

接続するデータベースを指定し、現在登録されているデータ参照を編集します。

1 ［DB接続参照］から接続するデータベース名を選択します。

データベースに存在するクエリが一覧表示されます。

<接続するデータベースを選択する>

2 編集するデータ編集の行にある設定ボタンをクリックします。

［データ参照編集］画面が表示されます。

<編集するデータ参照を選択する>

3 データ参照を編集します。

データ参照の編集手順については、「2.13.2.1 データ参照の新規作成」を参照してください。

- 編集できる項目は、「データ参照名」と設定されている表示種別の各設定項目のみです。これ以外の項目は修正できません。

2.13.2.3 データ参照の削除

データ参照を削除します。

- 削除したデータ参照は復元できません。あらかじめ確認の上、操作を行ってください。

1 データ参照一覧から、削除するデータ参照の行のチェックボックスにチェックをつけます。

<削除するデータ参照を選択する>

2 [削除]をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

<データ参照を削除する>

3 [はい]ボタンをクリックします。

データ参照が削除されます。

2.13.2.4 ポートレットに追加

選択したデータ参照をポートレットに追加します。

- ポートレットに追加できるデータ参照の種別は、「クロス集計」と「グラフ集計」です。
  「リスト集計」と「サマリ集計」のデータ参照は、ポートレットに追加できません。

1 データ参照一覧から、ポートレットに追加するデータ参照にチェックをつけます。

<ポートレットに追加するデータ参照を選択する>

2 [ポートレットに追加]をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

<ポートレットに追加する>

3 [OK]ボタンをクリックします。

ポートレットに、選択したデータ参照が追加されます。

- 追加されたポートレットは、左側のメニューにある[ポータル/ポートレット]から確認することができます。ポータルの操作については「2.10 ポータルの操作」を参照してください。

2.13.2.5 ソースの出力

ソースの出力で出力したソースは「スクリプト開発モデルのプログラムファイル」（HTMLファイルとJSファイル）として出力され、自由にカスタマイズして使用することができます。
特に指定をしない場合、ソースは”%intra-martインストールディレクトリ%/storage”に出力されます。

出力されたファイルをpagesディレクトリ以下へ移動してメニュー登録すると、プログラムファイル出力元にしたデータ参照やクエリを削除したとしても、出力されたプログラムファイルは動作します。

選択したデータ参照をスクリプト開発モデルのプログラムファイルとして出力します。

1 データ参照一覧から、スクリプト開発モデルのプログラムファイルとして出力するデータ参照の行のチェックボックスにチェックをつけます。

<ソースを出力するデータ参照を選択する>

2 [ソースの出力]をクリックします。
［スクリプトプロンプト］画面が表示されます。

<ソースを出力する>

3 出力ファイル名を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

スクリプト開発モデルのプログラムファイルが"%intra-martインストールディレクトリ%/storage"以下のディレクトリに出力されます。

<出力ファイル名を入力する>

- 「/」を入力すると、ディレクトリを作成してスクリプト開発モデルのプログラムファイルを出力します。例えば、"vc/sample"と入力して出力すると、次のようにファイルが出力されます。

  /storage/vc/sample.htm
  /storage/vc/sample.js

2.13.2.6 データ参照表示の種別

データ参照表示には次のような種別があります。

■リスト表示

データがリスト表示されます。検索を実行し、絞り込んで表示することもできます。

<リスト表示>

■サマリ表示

データがサマリ表示されます。検索を実行し、絞り込んで表示することもできます。

〈サマリ表示〉

■クロス表示

データがクロス表示されます。

● クロス集計は、データ参照の設定やデータ量により、表示に時間がかかることがあります。

〈クロス表示〉

■グラフ表示

グラフ表示では、データがグラフで表示されます。グラフには次の4種類があります。

■棒グラフ

<棒グラフ>

■折れ線グラフ

<折れ線グラフ>

■円グラフ

<円グラフ>

■レーダーチャート

<レーダーチャート>

2.13.2.7 データ参照表示

選択したデータ参照のデータを検索し、データを表示します。

- 検索できるデータ参照の種別は、「リスト集計」と「サマリ集計」です。
  「クロス集計」と「グラフ集計」のデータ参照は、検索できません。

1 データ参照一覧から、参照するデータ参照名をクリックします。

<表示するデータ参照を選択する>

- 表示されるデータ参照画面については、「データ参照表示の種別」を参照してください。

■検索を実行する場合

データ参照の種別が「リスト集計」と「サマリ集計」で、データを絞り込む場合は検索を実行します。

2 [検索]をクリックします。

[データ参照ー検索] 画面が表示されます。

<[検索]をクリックする>

- 検索画面が同一画面で表示する設定になっている場合は、[データ参照]画面の検索結果上部に検索条件が表示されます。

3 表示列を設定します。

<表示列を設定する>

[追加>>]ボタン	検索結果の列に表示する項目を追加します。 左側の一覧から項目を選択し、［追加>>］ボタンをクリックすると、選択した項目が右側の一覧に移動します。
[<<削除]ボタン	検索結果の列から表示する項目を削除します。 右側の一覧から項目を選択し、［<<削除］ボタンをクリックすると、選択した項目が左側の一覧に移動します。
[上へ]ボタン	選択した項目の表示列を1つ上に移動します。 右側の一覧から項目を選択し、［上へ］ボタンをクリックすると、選択した項目が1つ上に移動します。
[下へ]ボタン	選択した項目の表示列を1つ下に移動します。 右側の一覧から項目を選択し、［下へ］ボタンをクリックすると、選択した項目が1つ下に移動します。

- 表示カラム設定のタイプで「グループ化」が設定されているカラムは、サマリ集計では削除(非表示)できますが、リスト集計では削除できません。表示カラム設定の詳細については、「2.13.2.1 データ参照の新規作成」を参照してください。

4 検索条件を設定します。

<検索条件を設定する>

- 表示される検索項目は、「検索設定」で設定された項目です。検索設定については、「2.13.2.1 データ参照の新規作成」を参照してください。

5 [表示]ボタンをクリックします。

[データ参照（リスト）] 画面に戻り、検索結果が表示されます。

<検索を実行する>

2.13.2.8 CSV出力

現在表示されているデータをCSV形式のファイルに出力します。

1 データ参照一覧から、参照するデータ参照名をクリックします

［データ参照（リスト）］画面が表示されます。

- 検索を実行した場合、表示されている結果のみCSV出力されます。検索手順については、「2.13.2.7 データ参照表示」の「検索を実行する場合」を参照してください。

2 ［CSV出力］をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

<CSV出力する>

- 現在表示されているデータがCSV出力されます。

3 ［はい］ボタンをクリックします。

出力するファイルにヘッダ情報を含むか確認のメッセージが表示されます。

4 ヘッダ情報を含む場合は［はい］ボタン、含まない場合は［いいえ］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

5 ［保存］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

6 ファイルの保存場所を指定し、［保存］ボタンをクリックします。

ファイルがCSVファイルで出力されます。

2.13.2.9 HTML出力

検索結果をHTML形式のファイルに出力します。

1 データ参照一覧から、参照するデータ参照名をクリックします

［データ参照（リスト）］画面が表示されます。

- 検索を実行した場合、表示されている結果のみHTML出力されます。検索手順については、「データ参照表示」の「検索を実行する場合」を参照してください。

2 ［HTML形式で出力］をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

<HTML出力する>

- 現在表示されているデータがHTML出力されます。

3 ［はい］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

4 ［保存］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

5 ファイルの保存場所を指定し、［保存］ボタンをクリックします。

ファイルがHTMLファイルで出力されます。

- ファイルダウンロードのダイアログで「開く」ボタンをクリックすると、ブラウザの「戻る」をクリックしても元の画面に戻れませんのでご注意ください。

2.13.2.10 権限設定

データ参照にアクセス権限を設定します。

- データ参照を新規作成時は権限を設定することができません。権限を設定する場合は、データ参照を更新する際に行ってください。

1 [DB接続参照]から接続するデータベース名を選択します。
データベースに存在するクエリが一覧表示されます。

<接続するデータベースを選択する>

2 編集するデータ編集の行にある設定ボタンをクリックします。
[データ参照編集] 画面が表示されます。

<権限を設定するデータ参照の選択する>

3 [権限設定]をクリックします。

[権限設定] 画面が表示されます。

<[権限設定]をクリックする>

4 権限を設定する各項目の[追加]ボタンをクリックします。

各項目の検索画面が表示されます。

<[追加]をクリックする>

- 設定されている権限を解除する場合は、解除する項目のチェックボックスにチェックをつけ、削除する項目の[削除]ボタンをクリックします。

ロール

アクセス権限としてのロールを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。このウインドウ上では、各ロールのコードを表示することもできます。

組織

アクセス権限としての組織を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、会社や組織のコードを表示することもできます。

[一覧]・・・システム日付が期間に含まれる会社や組織が表示されます。

[ツリー]・・・期間に関わらず登録されている全ての会社や組織が表示されます。

役職

アクセス権限としての役職を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。このウインドウ上では、役職のコードを表示することもできます。

パブリックグループ

アクセス権限としてのパブリックグループを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、パブリックグループのコードを表示することもできます。

[一覧]・・・システム日付が期間に含まれるパブリックグループが表示されます。

[ツリー]・・・期間に関わらず登録されている全てのパブリックグループが表示されます。

5 [更新]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

<権限を設定する>

6 [OK]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

7 [OK]ボタンをクリックします。

権限が登録されます。

2.13.2.11 SQLの表示

選択したデータ参照のSQLを表示します。

- SQLを表示できるデータ参照の種別は、「リスト集計」と「サマリ集計」です。
  「クロス集計」と「グラフ集計」のデータ参照は、SQLを表示できません。

1 データ参照一覧から、SQLを表示するデータ参照の設定ボタンをクリックします。
［データ参照編集］画面が表示されます。

<SQLを表示するデータ参照を選択する>

2 ［SQLの表示］をクリックします。
［SQLビュー］画面が表示されます。

<SQLを表示する>

3 SQLを確認します。

<SQLを確認する>

2.13.2.12 プレビュー

選択したデータ参照をプレビュー表示します。

1 データ参照一覧から、プレビュー表示するデータ参照の設定ボタンをクリックします。
［データ参照編集］画面が表示されます。

<プレビュー表示するデータ参照を選択する>

2 [プレビュー]をクリックします。

[プレビュー] 画面が表示されます。

<[プレビュー]をクリックする>

3 プレビューを確認します。

データ参照の種別が「クロス集計」と「グラフ集計」の場合、ここでプレビューを確認します。

データ参照の種別が「リスト集計」と「サマリ集計」の場合、検索条件を入力してデータを絞り込んでからプレビューを確認します。

<プレビューを確認する>

■検索を実行する場合

データ参照の種別が「リスト集計」と「サマリ集計」で、データを絞り込む場合は検索を実行します。

1 表示項目を設定します。

<表示項目を設定する>

[追加>>]ボタン	検索結果の列に表示する項目を追加します。 左側の一覧から項目を選択し、[追加>>]ボタンをクリックすると、選択した項目が右側の一覧に移動します。
[<<削除]ボタン	検索結果の列から表示する項目を削除します。 右側の一覧から項目を選択し、[<<削除]ボタンをクリックすると、選択した項目が左側の一覧に移動します。
[上へ]ボタン	選択した項目の表示列を1つ上に移動します。 右側の一覧から項目を選択し、[上へ]ボタンをクリックすると、選択した項目が1つ上に移動します。
[下へ]ボタン	選択した項目の表示列を1つ下に移動します。 右側の一覧から項目を選択し、[下へ]ボタンをクリックすると、選択した項目が1つ下に移動します。

- 表示カラム設定のタイプで「グループ化」が設定されているカラムは、サマリ集計では削除(非表示)できますが、リスト集計では削除できません。表示カラム設定の詳細については、「2.13.2.1 データ参照の新規作成」を参照してください。

2 検索条件を入力します。

<検索条件を入力する>

- 表示される検索項目は、「検索設定」で設定された項目です。検索設定については、「2.13.2.1 データ参照の新規作成」を参照してください。

3 [表示]ボタンをクリックします。

検索結果がプレビュー表示されます。

<プレビュー表示する>

2.13.3 各種設定

ViewCreatorでは、運用の環境等に合わせていくつかの設定可能な項目があります。
設定ファイルを編集後、設定を有効にするためにはApplication Runtimeを再起動する必要があります。

[設定ファイル]
<%イントラマートインストールディレクトリ%>/conf/parameter.xml

2.13.3.1 CSV出力実行時のパフォーマンスチューニング

（※本設定は、パッチ8を適用後有効になります）

「リスト集計」および「サマリ集計」のCSV出力で出力レコード件数が大きい場合、Application Runtimeが動作しているサーバマシンのスペックや、他のプロセスが使用しているプロセス等の状況等によっては、CPUリソースを使い切ってしまう可能性があります。
その結果、CSV出力処理が終了するまでの間、長時間に渡って他のユーザからの要求が処理待ち状態になることがあります。

このような状況を回避するために、以下のパラメータを設定することで、CSV出力処理の同時実行数を制限することが可能です。環境に合わせて適切な値を設定してください。

パラメータ名	設定値	説明
vc.output.simultaneous.max.count	CSV出力処理の同時実行数	CSV出力処理の同時実行数を設定します。初期値は「5」です。 CSV出力処理の同時実行数がこの設定値よりも多くなった場合、 該当処理によってダウンロードされるファイルは0KBとなります。

設定例）

```
<param>
   <param-name>vc.output.simultaneous.max.count</param-name>
   <param-value>3</param-value>
</param>
```

CSV出力処理の同時実行数 が「3」に制限されます。

※ なお、以下のパラメータは廃止されました。

- vc.output.sleep.record.count
- vc.output.sleep.time

2.13.3.2 Null値の出力

（※本設定は、パッチ４を適用後有効になります）

データベースのフィールドにNullがある場合に、データ参照表示時やCSV出力時にNull値に対する代替文字列を表示、あるいは出力するための設定です。

パラメータ名	設定値	説明
vc.output.nullvalue	Null値に対する代替文字列	CSV出力時に、Nullのデータを設定された文字列で置き換えます。
vc.disp.nullvalue	Null値に対する代替文字列	データ参照表示（プレビュー）時に、Nullのデータを設定された文字列で置き換えます。

設定例）

```
<param>
    <param-name>vc.output.nullvalue</param-name>
    <param-value></param-value>
</param>
```

CSV出力時、Nullデータは空文字で置き換えて出力されます。

```
<param>
    <param-name>vc.disp.nullvalue</param-name>
    <param-value>[NULL]</param-value>
</param>
```

データ参照表示時、Nullデータは文字列「[NULL]」で置き換えて表示されます。

2.13.3.3 CVS出力時のエンコードの設定

（※本設定は、パッチ7を適用後有効になります）

CSV出力でダウンロードされるCSVファイルのエンコーディングを指定するための設定です。
環境に合わせて適切な値を設定してください。

パラメータ名	設定値	説明
vc.output.encoding	エンコーディング	ダウンロードされるCSVファイルのエンコーディングを設定します。

設定例）

```
<param>
    <param-name> vc.output.encoding</param-name>
    <param-value>SJIS</param-value>
</param>
```

2.13.3.4 HTML出力時の出力件数の設定

（※本設定は、パッチ7を適用後有効になります）

「リスト集計」および「サマリ集計」のHTML出力で出力レコード件数が大きい場合、Application Runtimeが動作しているサーバマシンのスペックや、他のプロセスが使用しているプロセス等の状況等によっては、メモリリソースを使い切ってしまう可能性があります。
　その結果、Application Runtime 不安定な状態になることがあります。

このような状況を回避するに、HTML出力を行えるレコード件数に上限値を指定します。

パラメータ名	設定値	説明
vc.output.html.max.count	レコード件数	出力レコード数の上限値を設定します。

設定例）
<param>
　<param-name> vc.output.html.max.count</param-name>
　<param-value> 1000</param-value>
</param>

2.13.3.5 CSV出力時の出力件数の設定

（※本設定は、パッチ８を適用後有効になります）

「リスト集計」および「サマリ集計」のCSV出力で出力レコード件数が大きい場合、Application Runtimeが動作しているサーバマシンのスペックや、他のプロセスが使用しているプロセス等の状況等によっては、メモリリソースを使い切ってしまう可能性があります。
その結果、Application Runtime 不安定な状態になることがあります。

このような状況を回避するに、CSV出力を行えるレコード件数に上限値を指定します。

パラメータ名	設定値	説明
vc.output.csv.max.count	レコード件数	出力レコード数の上限値を設定します。

設定例）
<param>
　<param-name>vc.output.csv.max.count</param-name>
　<param-value>1000</param-value>
</param>

2.14 TableMaintenance

TableMaintenanceでは、データベース上の既存のテーブルに対してレコードの新規登録・更新・削除を行うことができます。データベースを使用したアプリケーションを作成した際に必要になることの多いマスタメンテナンスの機能を簡単な設定操作のみで、簡易的に実現することができます。ログイングループ管理者が、メンテナンスを行うテーブルに対してアクセス権の設定を行うことで一般ユーザが参照できるテーブルを制限することもできます。TableMaintenanceで扱えるデータベースは、ログイングループデータベースとシステムデータベースです。

TableMaintenanceの操作は、以下の2つに分類することができます。

テーブルの管理	データベース上のテーブルをメンテナンスの対象とするテーブルとして追加します。また、アクセス権を設定して、そのテーブルを操作できるユーザを限定することもできます。この操作は、「ログイングループ管理者」が行います。
データの編集	管理者からアクセス権を与えられたユーザは、テーブルのデータの追加・更新・削除が行えるようになります。

＜TableMaintenanceの概念＞

2.14.1 テーブルを管理する

データベースのテーブルをTableMaintenanceでデータの追加・更新・削除が行えるようにします。

2.14.1.1 テーブルを追加する

データベース上の既存のテーブルを、メンテナンス対象のテーブルとして追加します（テーブルの追加）。

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧（管理者用）] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧（管理者用）]画面>

2 [テーブル一覧（管理者用）]画面で、[テーブル追加]をクリックします。

<テーブル追加をクリックする>

別ウインドウで、［テーブル選択］画面が表示されます。

<[テーブル選択]画面>

3 [DB接続参照]でデータベースの接続先を選択します。

選択したデータベースのテーブルの一覧が表示されます。

4 [テーブル物理名]をクリックします。

選択したテーブルの設定画面が表示されます。

<[テーブル設定]画面>

テーブル選択画面に戻る	[テーブル選択]画面に戻ります。
テーブル表示名設定	テーブル名関連の設定をします。
DB接続参照名	選択したテーブルが属するDB接続参照名が表示されます。
テーブル物理名	選択したテーブルの、データベース上の名称が表示されます。
テーブル表示名	テーブルにTableMaintenance機能上での名称を設定します(分かりやすい日本語の名称等を設定します)。デフォルトではデータベース上のテーブル名が表示されます。
カラム表示名設定	テーブルを構成するカラムのTableMaintenance機能上での名称やカラムの順番を入れ替えるなどの設定を行います。設定されたカラムの順番は、「テーブル参照画面」での列の表示順と「テーブル編集画面」での項目の表示順に反映されます。
[最上位へ]ボタン	カラム先頭のチェックボックスをクリックしてからこのボタンをクリックすると、チェックしたカラムの表示順を最上位にすることができます。
[1つ上へ]ボタン	カラム先頭のチェックボックスをクリックしてからこのボタンをクリックすると、チェックしたカラムの表示順を1つ上にすることができます。
[1つ下へ]ボタン	カラム先頭のチェックボックスをクリックしてからこのボタンをクリックすると、チェックしたカラムの表示順を1つ下ににすることができます。
[最下位へ]ボタン	カラム先頭のチェックボックスをクリックしてからこのボタンをクリックすると、チェックしたカラムの表示順を最下位にすることができます。
(チェックボックス)	表示順を変更する際に、カラムの選択に用います。複数のカラムを選択することもできます。
カラム物理名	クエリの物理名が表示されます。
カラム表示名	カラム(フィールド)にTableMaintenance機能上での名称を設定します(分かりやすい日本語の名称等を設定します)。デフォルトではデータベース上のフィールド名が表示されます。
権限設定	テーブルへのアクセス権を設定します。アクセス権を持つユーザはテーブルの参照と、データの新規登録、更新及び、削除ができるようになります。アクセス権が設定されなかった場合は、全てのユーザがアクセスできます。 アクセス権の設定は、「ロール」、「組織」、「役職」、「パブリックグループ」などのタブを選択して、[追加]アイコンをクリックして、選択入力します。以下に、タブごとに紹介します。

[ロール]タブ

このテーブルに設定するアクセス権限としてのロールを選択します。[追加]ボタンをクリックすると、次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。このウインドウ上では、各ロールのコードを表示することもできます。

[組織]タブ

このテーブルに設定するアクセス権限としての組織を選択します。[追加]ボタンをクリックすると、次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、会社や組織のコードを表示することもできます。

[役職]タブ

このテーブルに設定するアクセス権限としての役職を選択します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。このウインドウ上では、会社や役職のコードを表示することもできます。

[パブリックグループ]タブ	このテーブルに設定するアクセス権限としてのパブリックグループを選択します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、パブリックグループのコードを表示することもできます。

追加アイコン	別ウインドウで、権限に設定するためのロール、組織、役職、パブリックグループなどの検索画面が表示されます。
選択項目を削除	チェックした項目を削除します。
⊞ / ⊟ コードを表示	表示されている項目のコードの表示/非表示を切り替えます。

5 テーブル設定を入力後、画面下部の[保存]ボタンをクリックします。

[保存]ボタン	テーブルの設定情報を保存します。

保存後、［テーブル設定］画面の編集画面表示されます。

<[テーブル設定]画面の編集画面>

6 他のテーブルを追加するには、[テーブル選択画面に戻る]をクリックします。テーブル設定を終了するには、[閉じる]をクリックします。

2.14.1.2 一般ユーザにテーブルの編集権限を与える

一般ユーザがテーブルの編集をできるようにするには、以下の手順でメニュー項目のアクセス権を設定する必要があります。

1 メニューメンテナンス画面で、フォルダ及びメニュー(TableMaintenance, TableMaintenance/テーブル一覧)に権限を設定します。
一般ユーザのメニューに、以下の項目が追加されます

```
TableMaintenance
TableMaintenance/テーブル一覧
```

<メニューメンテナンス画面での設定例>

2.14.1.3 テーブルの設定を変更する

TableMaintenanceのテーブル一覧に登録されているテーブルの設定は、以下のような手順で変更することができます。

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧(管理者用)] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧(管理者用)]画面>

2 ［テーブル一覧（管理者用）］画面で、設定欄の アイコンをクリックします。

<設定アイコンをクリックする>

別ウインドウで、［テーブル設定］画面が表示されます。

<［テーブル設定］画面の編集画面>

3 設定を変更後、［保存］ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

2.14.1.4 テーブルをメンテナンス対象から削除する

追加したテーブルを、メンテナンス対象から削除するには、以下のように操作します。

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧（管理者用）] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧（管理者用）]画面>

2 [テーブル一覧（管理者用）]画面で、設定欄の アイコンをクリックします。

<設定アイコンをクリックする>

別ウインドウで、［テーブル設定］画面が表示されます。

<[テーブル設定]画面の編集画面>

3 表示された[テーブル設定]画面で、[削除］ボタンをクリックします。

選択されていたテーブルが一覧から削除されます。

2.14.2 データを編集する

管理者がテーブル一覧に登録し、アクセス権を与えられたテーブルに対して、管理者および一般ユーザは、データの追加・更新・削除を行うことができます。

2.14.2.1 テーブルにデータを追加する

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧（管理者用）] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧(管理者用)]画面>

2 [テーブル一覧(管理者用)]画面で、テーブル表示名をクリックします。

<テーブル表示名をクリックする>

［テーブル参照］画面が表示されます。

<［テーブル参照］画面>

3 ［テーブル参照］画面で、［新規登録］アイコンをクリックします。

［テーブル編集］画面が表示されます。

<［テーブル編集］画面>

4 各カラムに入力したら、[登録]ボタンをクリックします。
画面上部に「登録しました」と表示されます。

<[テーブル編集]画面>

2.14.2.2 テーブルのデータを編集する

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧（管理者用）] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧(管理者用)]画面>

2 ［テーブル一覧（管理者用）］画面で、テーブル表示名をクリックします。

<テーブル表示名をクリックする>

［テーブル参照］画面が表示されます。

<[テーブル参照]画面>

3 [テーブル参照]画面で、データを編集したレコードの [編集]アイコンをクリックします。
[テーブル編集] 画面が表示されます。

<[テーブル編集]画面>

- 画面上に「PK」と表示されている項目は「主キー」のフィールドです。編集することはできません。

4 各カラムの内容を編集したら、[更新]ボタンをクリックします。
画面上部に「更新しました」と表示されます。

<[テーブル編集]画面>

Column

編集可能なフィールドの型

テーブルメンテナンス機能では、データを文字列型、数値型、日付型の３種類で扱います。以下に、データベース上のフィールドの型との対応関係を示します。
また、バイナリのデータを編集することはできません。

	文字列型	数値型	日付型
Oracle	CHAR, VARCHAR2	NUMBER	DATE, TIMESTAMP
SQLServer	char, varchar	bigint, int, smallint, tinyint, numeric, decimal	datetime
DB2	CHAR, VARCHAR	SMALLINT, INTEGER, BIGINT, DECIMAL, FLOAT, REAL, DOUBLE	DATE, TIMESTAMP
PostgreSQL	char, varchar	numeric	date, timestamp

※datatime型及びtimestamp型を扱う場合は、conf/imart.xmlで以下の設定をtrueにする必要があります。
intra-mart/platform/service/application/database/data/timestamp-is-date

各種設定の変更

conf/parameter.xmlで、以下のような設定を行うことができます。

tm.list.records_per_page
テーブル選択画面のテーブル一覧と、テーブル参照画面のレコード一覧で1ページに表示する行数を設定します。

tm.column.maxlength
ここで設定された数値を基準に、テーブル編集画面で文字列型のカラムの表示形式を決定します。設定された数値よりサイズが小さいカラムはテキストフィールドで、大きい場合はテキストエリアで表示されます。

tm.date.format
テーブル参照画面で日付型のカラムの表示形式を指定します。
※但しテーブル編集画面での入力フォーマットは「yyyy/MM/dd HH:mm:ss」で固定です。

2.14.2.3 テーブルのデータを削除する

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧（管理者用）] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧(管理者用)]画面>

2 [テーブル一覧(管理者用)]画面で、テーブル表示名をクリックします。

<テーブル表示名をクリックする>

［テーブル参照］画面が表示されます。

<［テーブル参照］画面>

3 ［テーブル参照］画面で、データを編集したレコードの ［編集］アイコンをクリックします。
［テーブル編集］画面が表示されます。

<［テーブル編集］画面>

4 内容を確認後、［削除］ボタンをクリックします。
データが削除されます。

2.15 イベントナビゲータ

イベントナビゲータは、条件によって複雑に分岐する申請書などの画面へのアプローチを、ウィザード形式で導く画面を作成するメニューです。
下記の例は、会社内の社宅規定にもとづき、適切な申請を導くサンプルです。表示される質問に、答えてゆくだけで、最適な申請書にたどりつけるようになります。

<イベントナビゲータの概要>

2.15.1 イベントナビゲータの作成

2.15.1.1 イベントフローの新規登録

イベントナビゲータを作成するにあたり、まずタイトルやアクセス権の設定情報などの登録を行います。これらの情報をイベントフローと呼んでいます。

- タイトル、回答、リンクに対してアクセス権が設定できますが、アクセス権を設定しなかった項目は、すべての一般ユーザに表示されます。

1 [イベントナビゲータ管理]の[イベントナビゲーター一覧]をクリックします。
[イベントナビゲータ作成] 画面が表示されます。

<[イベントナビゲータ作成]画面>

2 新たにイベントナビゲータを作成するには、[新規登録]をクリックします。
[イベントフロー登録] 画面が表示されます。

<新規登録を選択し、イベントナビゲータを作成する>

タイトル	作成するイベントナビゲータのタイトルを入力します。

ロケール	多言語に対応してます。多言語運用の場合はこのロケールを切り替えて、その言語毎に内容(タイトル、コメント)を記述します。
コメント	このイベントナビゲータに関する説明を入力します。

3 [ロール]、[組織]、[役職]、[パブリックグループ]などのタブを選択して、アクセス権を設定します。
作成しているイベントナビゲータが利用できるアクセス権を設定します。

<アクセス権を設定する>

[ロール]タブ	このイベントナビゲータに設定するアクセス権限としてのロールを選択入力します。ロールの設定は、開始日と終了日も入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて登録済みのロールが選択できます。このウインドウ上では、各ロールのコードを表示することもできます。

[組織]タブ

このイベントナビゲータに設定するアクセス権限としての組織を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて組織が選択できます。なお、組織の表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、会社や組織のコードを表示することもできます。

[役職]タブ

このイベントナビゲータに設定するアクセス権限としての役職を選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されて役職が選択できます。このウインドウ上では、会社や役職のコードを表示することもできます。

[パブリックグループ]タブ

このイベントナビゲータに設定するアクセス権限としてのパブリックグループを選択入力します。[追加]ボタンをクリックすると次のようなウインドウが表示されてパブリックグループが選択できます。なお、パブリックグループの表示方法には、一覧とツリーが用意されています。このウインドウ上では、パブリックグループのコードを表示することもできます。

[追加]

選択しているタブに関するアクセス権を追加することができます。

[選択項目を削除]

現在選択しているアクセス権を削除することができます。

[コードを表示]

表示されているアクセス権一覧にコードの列を表示させます。

4 アクセス権を登録したら、[登録]ボタンをクリックします。
イベントフローが登録され、いったん［イベントナビゲータ作成］画面に戻ります。

<イベントナビゲータを登録する>

[登録]ボタン	入力したイベントナビゲータを登録します。

2.15.1.2 イベントナビゲータを編集する

作成したイベントフローに対して、イベントナビゲータを作成します。

1 [イベントナビゲータ作成]画面で、作成したイベントナビゲータのタイトルをクリックします。

<[イベントナビゲータ作成]画面>

新規登録	新規にイベントナビゲータを作成します。
インポート・エクスポート	作成したイベントナビゲータの情報をインポートまたはエクスポートします。詳細は、「2.15.2 インポートとエクスポート」を参照してください。

表示順変更	[表示順設定]画面が表示され、イベントナビゲータの表示順を編集することができます。
タイトル(検索)	登録されているイベントナビゲータをタイトル名の部分一致で検索します。
削除	このイベントナビゲータを削除します。
編集	このイベントナビゲータの[イベントフロー編集]画面が表示され、タイトルやアクセス権を編集することができます。
コピー	このイベントナビゲータのコピーを作成します。
タイトル	イベントナビゲータの編集画面が表示され、編集することができます。
表示	イベントナビゲータは、作成しただけでは一般ユーザに公開されません。すべての編集が終了してから、このボタンをクリックして、「公開中」が表示されるようにします。

2 <未設定>という質問を編集します。クリックして表示されたメニューから[編集]を選択します。

<最初の質問を編集する>

3 質問の内容を入力したら、[登録]ボタンをクリックします。

<質問の内容を編集する>

ロケール	多言語に対応してます。多言語運用の場合はこのロケールを切り替えて、その言語毎に内容(質問内容、コメント)を記述します。
質問内容	質問の内容を登録します。
コメント	この質問に関する説明を入力します。
[登録]ボタン	この質問を登録します。

4 編集した質問の回答を登録します。質問のタイトルをクリックして表示されたメニューから[回答を追加]を選択します。

<最初の質問の回答を追加する>

- イベントナビゲータの編集画面には、[保存]というボタンが用意されています。この[保存]ボタンをクリックすることで、作成途中であっても、一時保存することができます。
- フローが作成途中(未完成)の場合は、一般ユーザに公開することはできません。

5 回答の編集を行います。回答の入力と同時に、回答後の処理を決めます。すべて入力後に、[登録]ボタンをクリックします。

<回答を編集する>

● 回答には、アクセス権を設定することができます。

ロケール	多言語に対応してます。多言語運用の場合はこのロケールを切り替えて、その言語毎に内容(質問内容、コメント)を記述します。
質問内容	質問の内容が表示されています。
回答	質問に対する選択肢として、回答を入力します。
コメント	この質問に関する説明を入力します。
遷移先	回答後の遷移先を「質問」と「結果」から選択します。
質問	回答後に、次の質問に遷移します。
結果	回答後に、結果となるページに遷移します。
[登録]ボタン	この質問を登録します。

2.15.1.3 遷移先が[質問]の場合

遷移先として、［質問］を選択すると、次の質問が配置されます。前述のように操作を繰り返します。

<遷移先が作成された>

2.15.1.4 遷移先が[結果]の場合

遷移先として、［質問］を選択すると、下図のように回答の配下に次の質問が配置されます。

<遷移先が作成された>

1 結果の場合、まず最初に[編集]を選択します。表示された画面で「結果タイトル」を入力してから[登録]ボタンをクリックします。

<編集を選んだ場合>

ロケール	多言語に対応してます。多言語運用の場合はこのロケールを切り替えて、その言語毎に内容(質問内容、コメント)を記述します。
前の質問	前段での質問の内容が表示されています。
回答	選択した回答が表示されています。
結果タイトル	結果として表示する項目のタイトルを入力します。
コメント	この質問に関する説明を入力します。
[登録]ボタン	この質問を登録します。

2 次に、[リンク編集]を選択します。ここでは、遷移先のページ情報を登録します。遷移先は、複数登録することができ、アクセス権に応じて切り替えることができます。

<リンク編集を選択する>

結果タイトル	「編集」で登録した結果タイトルが表示されています。

追加	リンク編集画面が表示され、新しいリンクを作成できます。
表示順変更	リンク先の表示順を変更します。
削除	リンクを削除します。
編集	リンク情報を編集します。
権限	このリンクの権限を設定します。

3 [追加]をクリックすると、[リンク編集]画面が表示されます。ここでは、遷移先のページ情報を登録します。遷移先は、複数登録することができ、アクセス権に応じて切り替えることができます。

<リンク編集を選択する>

ロケール	多言語に対応してます。多言語運用の場合はこのロケールを切り替えて、その言語毎に内容(質問内容、コメント)を記述します。
結果タイトル	登録した結果タイトルが表示されています。
リンクタイトル	イベントナビゲーションに表示されるタイトルを入力します。
コメント	このリンクに関する説明を入力します。

URL	遷移先のURLを入力します。
パラメータ(キー・値)	リンク先に渡すパラメータを登録できます。
[パラメータ登録]ボタン	このボタンを押すと上記パラエータが登録されます。パラメータは複数登録することができます。
[登録]ボタン	このリンクを登録します。

2.15.1.5 回答項目の移動とコピー

回答項目をドラッグして移動することができます。

<回答項目をドラッグして移動>

回答項目を質問の上でドロップすることで移動またはコピーを選択することができます。

<移動またはコピーを選択>

2.15.2 インポートとエクスポート

このメニューでは、イベントフローをＸＭＬファイルにエクスポートしたり、逆にインポートすることができます。

操作は、それぞれXMLファイルのパスを指定して、［インポート］あるいは［エクスポート］ボタンをクリックします。

〈インポート・エクスポート画面〉

intra-mart WebPlatform/
AppFramework

第3章　一般ユーザ編

3.1 intra-martへのログインとログアウト

Webベースの開発ツールであるintra-martは、通常のコンピュータソフトとは起動と終了の方法が異なります。Webベースのアプリケーションでは、ブラウザ上から本システムへ「ログイン」で使用できるようになり、終了時は「ログアウト」で終了させます。

3.1.1 一般ユーザのログイン

一般ユーザは、以下の手順に従ってintra-martにログインします。

1 ブラウザを起動し、下記のようにintra-martのURLを入力します。
画面上には、intra-martのログイン画面が表示されます。

```
intra-mart WebPlatform(スタンドアロン):http://マシンアドレス:8080/imart/(ログイングループID).portal
intra-mart WebPlatform(分散システム):Webサーバコネクタの登録内容に合わせたURL
intra-mart AppFramework:Webアプリケーションサーバに対するintra-martの登録内容に合わせたURL
```

- intra-mart WebPlatformをスタンドアロン形態で運用する場合、アクセスするURLのポート番号(Webサーバとしてのポート)は、インストール時に指定することができます。
- URLは、ブラウザのブックマークに登録しておくと便利です。
- この他に、「ログイン画面なしで自動認証する方法」(→P. 301　Column参照)が用意されています。

2 ログイン画面で、ユーザコードと、パスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

初期状態

グローバルポータルが設定されている場合
(レイアウトは設定によって変わります)

<intra-martのログイン画面>

<intra-martの初期画面 – グループポータルや組織内ポータルが設定されている>

- 初期画面のメインページ(右フレーム内)は、ポータル画面となっています。新しくポートレットを作成してポータル機能に登録することにより、様々な情報を初期表示することができます。ユーザが自分自身のために作成する「ユーザポータル」も用意されています。詳細は、「3.4 ポータルの利用」を参照してください。

3.1.2 intra-martからのログアウト

ログイン画面に戻るとログアウトしたことになり、intra-martを終了できます。ログイン画面に戻るには、画面左のメニュー上部に用意されている［LOGOUT］ボタンをクリックします。

- メニューの[LOGOUT]ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合や、他のページに移動してintra-martの画面から離れてしまった場合、intra-martサーバ内ではセッションがタイムアウトするまでログイン状態を継続しているものとみなされます。必ずメニューの[LOGOUT]ボタンをクリックしてください。

3.1.3 パスワードの変更

ログイングループ管理者が発行する初期のパスワードは、ユーザの画面から自由に変更することができます。設定は、［ユーザ設定］の［パスワード変更］で行います。

<パスワードの変更画面>

- モバイルパスワードの変更には、「3.11 携帯端末の利用」を参照してください。

Column

ログイン画面なしで自動認証する方法

intra-martにログインする際のURLに、次のようにユーザコードとパスワードを含めることができます。

http://intramart/imart/(ログイングループID).portal?im_user=xxxx&im_password=yyyy

xxxx：ユーザコード　　yyyy：パスワード

上記のURLのように入力してログインすると、ログイン画面なしで自動認証されます。

Column

パスワードの履歴管理

設定により、パスワードの履歴管理を行うことができます。この機能は、管理者によって設定される機能で、設定されている場合、管理者が決めた条件によって、ログイン時に自動的にパスワード変更画面が表示されます。

また、一般ユーザ用として、パスワードの変更通知を事前に受けることができる機能が用意されています。[ユーザ設定]-[属性設定]で、何日前に通知を受けるかを設定できます。この機能は、パスワードの履歴管理が行われている場合にだけ表示されます。

Column

ショートカットアクセス機能

アクセス起動時にintra-martのメイン画面上に任意の画面を表示させる「ショートカット」機能が用意されています。一般ユーザが作成できるものではありませんが、プログラム中から任意のURLを含むショートカットを生成します。受け取ったユーザが、このショートカットをクリックすると、intra-martの画面にその画面が表示されます。

任意の画面を表示させるショートカットは、ログイン画面を経由させたり、ログイン画面を省略したり、あるいは任意の期間だけ有効にさせるなど、さまざまなオプションが用意されています。

詳細は、「プログラミングガイド」を参照してください。

3.1.4 2重ログイン防止機能

intra-martには、2重ログインを防止する機能（デフォルト：無効）が用意されていて、有効・無効を切り替えることができます。
2重ログイン防止機能が有効になると、2つ目以降のセッションは無効となり、ログインが不可能になります。このため、ログインするには有効なセッションを無効化する必要があります。
2重ログイン防止機能の設定によって、一般ユーザが自分自身で不要なセッションを無効化することができるように設定することもできます。

2重ログインが検出されると、以下のような画面が表示されます。

<自分自身でセッションを無効化することができるように設定した場合の画面>

<2重ログインを通知のみする設定の画面>

2重ログインを通知のみする設定の場合、そのままでは操作を継続することができません。この場合、次のような方法で操作を継続することができます。

- 有効なセッションで操作を継続する
- 有効なセッションをログアウトして、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- 有効なセッションがタイムアウトするのを待ち、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- ログイングループ管理者に有効なセッションの無効化を依頼して、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする

3.2 intra-martのメニュー構成と基本画面

intra-martのメニュー表示形式は、「フォルダ」という大分類と「ページ」から構成されていて、ページを選択すると該当する画面が表示されます。フォルダおよびページは、ログイン（起動）したユーザのアクセス権に応じたものだけが表示されるので、ログインしたユーザによって異なります。

<フォルダとページの関係>

3.2.1 メニューの表示

intra-martのメニュー表示では、画面左フレームにツリー構造のメニューが表示されます。大項目である「フォルダ」をクリックすると、そこに属する「ページ」がツリーに表示されます。ここで、「ページ」を選択すると、これに該当する画面内容が表示されます。

<メニュー表示画面の例>

3.2.2 intra-martのホーム画面

ホーム画面は、intra-martログイン時に表示される初期画面です。メニューを選択して、各種画面が表示されている場合には、画面左上の[HOME]ボタンをクリックするとホーム画面が表示されます。
この画面からintra-martのポータル画面への切り替えが行えます。画面の切り替えは、右画面の左上のタブで切り替えることができます。

[HOME]ボタン	ホーム画面に戻ります。ホーム画面はintra-martログイン時に表示される画面で、ポータル画面が設定されているときには、この画面で切り替えることができます。
[LOGOUT]ボタン	intra-martを終了して、ログイン画面に戻ります。
[MENU ON/OFF]ボタン	左側のメニューをOn/Offします。メニューをOffにすると、画面が広くなり作業が容易になります。なお、[属性設定]メニューで、ログイン直後のメニューのOn/Off状態を変更することもできます。
[ポータル切り替え]タブ	設定されているポータル画面を切り替えることができます。ポータル画面の詳細は、「3.4 ポータルの利用」を参照してください。

3.2.3 ロケール設定

intra-martは、多言語化に対応していて、画面表示の言語を切り替えることができます。例えば、同じintra-martアプリケーションを利用していて、海外駐在所では現地の言語で表示させることが可能となります。標準では日本語のみに対応していますが、intra-martで動作するアプリケーションもこの機能を利用している必要があります。言語の切り替えは、［ユーザ設定］の［ロケール設定］で行います。

<使用する言語を選択するロケール設定>

3.2.4 メインページパターン設定

メインページパターンとは、intra-martの標準以外の画面デザインが用意されている場合に、切り替える機能です。切り替えは、［ユーザ設定］の［メインページパターン設定］で行います。標準では、V6.0の新デザインと、V5.xの２つのデザインのメインページパターンが用意されています。

<ページのデザインを変更するメインページパターン>

3.2.5 カラーパターン設定

カラーパターンは、intra-martが標準で用意している画面の色だけを変更する機能です。標準で青、グレー系、緑系、オレンジ系、赤系の5色が用意されています。初期には、「システムデフォルトを使用する」が設定されています。これは、ログイングループ管理者が設定したログイングループ共通のカラーパターンです。ただし、ユーザがこの画面で設定したカラーパターンが優先されます。

<ページのデザインを変更するカラーパターン>

3.2.6 メニューフォルダ表示の設定

メニューのフォルダを選択したときに、そのフォルダに含まれるすべてのメニューの一覧とその概要を表示させるかどうを設定することができます。標準では、メニューツリーの開閉になっています。

<メニューフォルダ表示機能を設定した場合の画面>

メニューフォルダ表示の設定は、［ユーザ情報］の［属性設定］画面で行います。

<メニューフォルダ表示機能を設定した場合の画面>

3.3 マイメニューの利用

よく利用する画面は、「マイメニュー」に登録してオリジナルのメニューを作成することができます。この機能を利用して、頻繁にアクセスするページをリスト化しておけば、ページをツリー表示されたメニューから探し出してアクセスしなくても、リスト中からワンクリックでアクセスすることができるようになり、快適にアプリケーションを利用できるようになります。
マイメニューは、閲覧権限の与えられたメニューの中からユーザごとに設定することができます。
マイメニューは、画面上部とメニューの最上部のいずれかに表示させることができます。
表示位置の設定は、[ユーザ設定]-[属性設定]で行います。

<表示されたマイメニューとリロードアイコン>

- マイメニューの設定では、自分以外のユーザのマイメニューを設定したり、管理者が特定のユーザのマイメニューを設定したりすることはできません。
- ポータル画面に共通のメニューを表示するポートレット「メニューリンク」も用意されています。

3.3.1 マイメニューの設定

マイメニューの設定は、［ユーザ設定］－［マイメニュー設定］で、ユーザごとに行います。

1 [ユーザ設定]-[マイメニュー]を選択し、[マイメニュー追加]をクリックします。
ログインしているユーザに閲覧権限がある画面の一覧が表示されます。

2 マイメニューに登録したい画面をチェックして、[追加]アイコンをクリックします。

3 マイメニューとして選択した画面の一覧で、メニューへの表示名称、表示する順番などの設定を行い、[更新]ボタンをクリックします。
不要な画面は、チェックボックスで選択し、［削除］アイコンをクリックします。

（チェックボックス）	チェック後[削除]ボタンをクリックすることで、マイメニュー設定から外すことができます。
アイコン	マイメニューには、用意されているアイコンをつけることができます。
エイリアス	マイメニューとして画面に表示されるメニュー名で、自由に表示名称を変更することができます。
ページ	表示されるページのメニュー名です。
ソート	メニューの表示順を数字を入力して制御することができます。

4 マイメニューにアイコンをつけるには、各メニューのアイコン欄をクリックします。

<表示されたマイメニューとリロードアイコン>

5 イメージアイコン選択画面で、任意のアイコンをクリックします。
アイコンをもとに戻すには、[デフォルトに設定]をクリックします。

<表示されたマイメニューとリロードアイコン>

6 設定後に、メニューにリロードボタンが表示されます。これをクリックすると、設定したマイメニューが表示されます。

<表示されたマイメニューとリロードアイコン>

3.4 ポータルの利用

intra-martには、ログイン初期画面（intra-martホーム画面）にあらかじめ用意したページ（ポータルアプリケーションでは、ポートレットと呼びます）を表示し、ユーザに情報を見るように喚起させることができる機能が標準で用意されています。このポータル機能は、intra-martのポータルモジュールで実現されています。

組織部署単位にポータルサイトを設定したり、個人単位の設定をすることで、組織内での情報伝達のスピードアップが図れる

会社（顧客、取引先）単位にポータルサイトを設定することにより、
ECサイトやマーケットプレイスにおいて、サービスレベルを大きく向上させることができる

〈会社・組織、ユーザごとのポータル〉

intra-mart上のアプリケーションごとに表示させたい情報のページを作成し、ポートレットとして登録することで利用できるポートレットとなります。このようにして作成したポートレットは、自由にレイアウトしてポータル画面を作成することができます。また、ワークフローモジュールやＷｅｂＭａｉｌなどのintra-martアプリケーションの一部には、ポートレット画面があらかじめ用意されているものもあります。

3.4.1 ポータルの種類と作成メニュー

intra-martに用意されているポータル画面には、次の表のような４種類が用意されています。これらのポータルの主な違いは、表示させるユーザの範囲の違いで、ログイングループ全員に見せるものから、自分だけのポータルまで用意されています。さらに、アクセス権限を設定することで、特定のユーザの画面にだけ表示させることも可能です。さらに、グローバルポータル以外のポータルは、複数作成することができます。

ポータルの種類	表示される場所	作成者	基本表示範囲	アクセス権の設定
グローバルポータル	ログイン前の画面	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	なし
グループポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	ログイングループ管理者	ログイングループ全員	会社・組織 パブリックグループ ロール
組織内ポータル	intra-martのHOME画面（タブとして）	一般ユーザ 組織のポータル管理者	作成者が主所属の組織（配下の組織は含まず）	配下の組織
ユーザポータル	intra-martHOME画面（タブとして）	一般ユーザ	作成者自身	なし

3.4.1.1 ログイン画面に表示されるポータル

グローバルポータルは、アクセス権限の設定もなく、ログイングループ全員に表示されるポータルです。このポータルはログイン画面に表示されるため、ログインするためのポートレットが用意されています。

<グローバルポータル>

3.4.1.2 intra-mart**ホーム画面に表示されるポータル**

グループポータル、組織内ポータル、そしてユーザポータルは、intra-martホーム画面に表示されます。各ポータルは、タブとして表示され、簡単に切り替えることができます。また、intra-martのどの画面にも、常に[HOME]ボタンが表示されていて、クリックするだけでホーム画面が表示されます。

<intra-martのHOME画面　タブによって3つのポータルが切り替えられる>

■標準で提供されるポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
リンク集		3列以下	
ログインポートレット		3列以下	グローバルポータルでのみ設定可
朝日新聞RSS		3列以下	
新着タスク	ワークフロー	3列以下	
重要なお知らせ		3列以下	パスワード管理の情報を表示

■intra-martアプリケーションに付属のポートレット

ポートレット名称	アプリケーション	推奨表示列数	備考
今週の予定	スタートパック	2列以下	
今日の予定	スタートパック	3列以下	
新着ToDo一覧	スタートパック	3列以下	
新着お気に入り情報	スタートパック	2列以下	
新着配信情報	スタートパック	3列以下	
新着コミュニティ情報	スタートパック	3列以下	
最新見積一覧	営業支援	3列以下	
最新受注一覧	営業支援	3列以下	
新着営業日報一覧	営業支援／スタートパック	3列以下	
新着上司コメント	営業支援／スタートパック	3列以下	
新着メール	WebMail	3列以下	

3.4.2 ユーザポータルの作成

ユーザポータルは、自分自身のためのポータルです。このポータルはintra-martのログイン初期画面（ホーム画面）にタブとして表示されます。ログイングループ管理者が設定したポートレットを自由に配置して、オリジナルのポータルを複数作成することができます。

1 [ユーザポータル]をクリックします。

登録されているユーザポータルの一覧が表示されます。

<ユーザポータル一覧>

2 [新規登録]をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。

3 ポータルのデザインを選択して、[次へ]をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、次のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

<ポータルのレイアウト選択画面>

4 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[次へ]をクリックします。

上部の［選択可能なポートレット］からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。レイアウト枠では、やアイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

<ポートレットを配置する>

5 基本設定画面で、ポータルに名称と説明を入力して、[完了]ボタンをクリックします。

画面は、ポータル一覧に戻ります。

<設定したポータルに名称をつける>

6 画面は、再度ポータル一覧に戻ります。この段階でユーザポータルの作成は終了です。
［HOME］ボタンをクリックするとユーザポータルのタブが表示されます。

<ポータル一覧>

● タブの表示順を変更するには、［ポータル］の［表示ポータル］を利用します。

Column

ポータルのカスタムレイアウト

ポータルのレイアウト選択画面には、定型的なレイアウトパターンが用意されていますが、この画面で「カスタム」を選択すると、自由にレイアウトを決めることができます。

① 「カスタム」を選択して、［次へ］アイコンをクリックします。

② マウスでドラッグして、最大5×5までの基本レイアウトを決めます。

③ セルをドラッグして、結合、行や列の追加・削除を用いて、カスタムレイアウトパターンを作ります。

④ ［次へ］アイコンをクリックすると、ポートレット配置画面に遷移します。

3.4.3 組織内ポータル

組織内ポータルは、作成者が所属する（主所属）組織のユーザに表示されますが、配下の組織に対しては、アクセス権限を設定することができます。なお、組織内ポータルは、intra-martのホーム画面上に表示されます。

- 組織内ポータルのメニューは、ログイングループ管理者が設定したユーザの画面だけに表示されます。必ずしも、全員が利用できるメニューではありません。

1 [組織内ポータル]をクリックします。

登録されているポータルの一覧が表示されます。

<組織内ポータル一覧>

2 [新規登録]をクリックします。

ポートレットのレイアウトを選択する画面が表示されます。

3 ポータルのデザインを選択して、[次へ]をクリックします。

カスタムを選択した場合の操作は、前頁のコラム「ポータルのカスタムレイアウト」を参照してください。

<ポータルのレイアウト選択画面>

4 表示されたレイアウト枠にポートレットを配置して、[次へ]をクリックします。

上部の［選択可能なポートレット］からポートレットを選択し、任意のレイアウト枠の アイコンをクリックして配置します。レイアウト枠では、やアイコンでポートレットの表示順を変えたり、 アイコンでポートレットを消去したりできます。また、 プレビューアイコンをクリックすると、実際のポータル画面を見ながらレイアウトを編集することができます。

5 基本設定画面で、ポータルに名称と説明を入力して、[完了]ボタンをクリックします。

画面は、ポータル一覧に戻ります。

6 アクセス権のアイコンをクリックします。

7 アクセス権設定画面が表示されます。すでに作成者の所属する組織へのアクセス権が設定されています。[詳細]ボタンをクリックします。

[検索] ボタンでアクセス権の追加ができますが、組織内ポータルでは作成者が所属していない組織へのアクセス権の設定はできません。

8 配下組織や役職による絞込みなどのアクセス権を設定します。

9 アクセス権設定画面に戻ります。

設定した情報が表示されています。これで、組織内ポータルは完成です。

3.4.4 ポータルの表示順序の変更

グループポータル、組織内ポータルそしてユーザポータルは、intra-martホーム画面上にタブとして表示されます。このタブの表示順を設定するのが［表示ポータル］です。この設定は、設定したユーザの画面にのみ有効です。

1 ［表示ポータル］をクリックします。タブとして表示されているポータルのタイトルが表示されています。任意に表示順を変更して、［決定］ボタンをクリックします。

ポータルの名称選択して、や アイコンで表示順を変更します。

＜表示ポータル設定画面＞

3.4.5 簡易SSO

簡易SSO設定を行うと、リンク先サイトのログインページでアカウント、パスワードなどを入力しなくてもログインが可能になります。簡易SSO設定は、リンク集ポートレットの「簡易SSO設定」をクリックすると表示されます。

<ホーム画面>

<簡易SSO設定一覧>

［編集］アイコンをクリックすると、［簡易SSO詳細設定］画面が表示されます。ここでは、アカウントやパスワードなどリンク先のサイトにログインするための情報を入力します。入力後は［登録］ボタンをクリックします。

<簡易SSO詳細設定画面>

- アカウントとパスワードが設定されない場合、イントラマートに登録されているアカウント情報を使用します。

3.5 プライベートグループの利用

intra-mart WebPlatformには、プライベートグループを作成・管理する機能が用意されています。プライベートグループは、ユーザが個人で自由に作成・管理することができ、ユーザをグループ化して管理することができます。管理者が設定した組織やパブリックグループなどの枠とは無関係に、各ユーザがそれぞれの視点でグループ化することができます。プライベートグループを活用すると、ユーザ検索でユーザを簡単に探し出せるようになるなどの効果があります。

- お客様が独自に作成したアプリケーションでこの機能を活用することにより、アプリケーションの使い勝手を向上させることができます。
- 別売のアプリケーションズ（イントラネット・スタートパックなど）では、一部の機能でこのプライベートグループに対応しています。
- アプリケーションズを運用の折には、このプライベートグループも合わせて活用してください。
- プライベートグループの仕様は、アプリケーション共通マスタ説明資料に記載されています。

3.5.1 プライベートグループの新規登録と編集

プライベートグループの登録、編集は、［ユーザ設定］―［プライベートグループ］で行います。所属するユーザの追加、削除も同様に、ここで行うことができます。

1 [ユーザ設定]-[プライベートグループ]を選択し、[新規登録]をクリックします。
ログインユーザが作成したプライベートグループの一覧が表示されます。

2 プライベートグループに関する設定を行い、[登録]アイコンをクリックします。
登録すると、プライベートグループの一覧が表示されます。

グループコード(必須)	グループコードを入力します。
名称	プライベートグループの名称を入力します。
カナ	グループ名をカナで入力します。検索で使用されます。
英字	グループ名を英字で入力します。検索で使用されます。
備考	備考を入力します。
ソートキー	複数のプライベートグループの表示順を数字で制御します。

3 プライベートグループの一覧で、所属ユーザ欄の[編集]ボタンをクリックして、ユーザを登録します。
グループの編集や削除を行うには、更新・削除の［編集］ボタンをクリックします。

4 プライベートグループの所属ユーザー覧画面で、[新規登録]をクリックします。
ユーザ検索画面が別ウインドウで表示されます。

5 ユーザを検索して[決定]ボタンをクリックします。
登録すると、プライベートグループの一覧が表示されます。

6 プライベートグループが登録されて、プライベートグループの所属ユーザー覧が表示されます。ここでは、ユーザの表示順の設定や所属ユーザの追加・削除が行えます。
プライベートグループの設定はこれで終了です。

新規登録	ユーザを追加登録できます。
（チェックボックス）	チェック後、[所属解除]ボタンをクリックすると、ユーザをグループから削除することができます。
ソート番号	数字を入力するとこと、表示順を制御できます。[ソート番号更新]ボタンで設定を反映させます。
[所属解除]ボタン	チェックしたユーザをグループから削除することができます。
[ソート番号更新]ボタン	ソート欄に入力した数字順に表示を更新します。

3.6 検索の操作

intra-martでは、ユーザをはじめ、会社・組織、各種グループ、ロールなどを検索する画面を用意しています。アプリケーションで、これらの項目を追加・選択する場面では、別ウインドウで検索ウインドウが表示されます。

<ユーザ検索>

検索基準日について

- マスタの履歴化に伴い、検索画面には検索基準日が表示されています。この検索条件は、ユーザが変更することはできませんが、アプリケーションによっては、検索画面を呼び出す段階で検索基準日の情報を受け渡して、検索の条件に設定している場合があります。

キーワード検索について

- ユーザ検索画面のキーワード検索では、検索キーワードなしで[検索]をクリックすると、すべてのユーザが表示されます。

3.6.1 ユーザの検索

この画面では、ユーザを会社・組織、会社・組織［主所属のみ］、パブリックグループ、プライベートグループなどから検索する「グループから検索」と、「キーワード検索」そして「あかさたな」検索が用意されています。「キーワード検索」そして「あかさたな」検索は、選択してあるグループをもとに検索が実行されます。

3.6.1.1 グループから検索

会社・組織、会社・組織［主所属のみ］、パブリックグループ、プライベートグループから絞り込んでユーザを検索するツールです。

1 ［グループから検索］コンボボックスでグループを選択し、［表示］アイコンをクリックします。
ツリー形式で組織やグループが表示されます。

<ユーザ検索画面>

2 表示させたい組織やグループを選択します。
「以下のユーザをすべて表示する」をチェックしておくと、選択した組織やグループの配下に所属するユーザもすべてが表示されます。

<組織やグループがツリーで表示される>

3 ユーザを選択して、［決定］ボタンをクリックします。

<所属するユーザが表示される>

3.6.1.2 キーワード検索

［キーワード検索］では、［グループから検索］で選んだグループ（会社・組織、会社・組織［主所属のみ］、パブリックグループ、プライベートグループ）に所属するユーザに対して、キーワード（ユーザコード、名前）を指定して検索をすることができます。

1 キーワードを入力後、［検索］アイコンをクリックします。

キーワードは、ユーザコード、名前、名前カナで検索できます。検索は部分一致で行われます。なお、キーワードなしで検索を実行すると、すべてのユーザが表示されます。

<ユーザ検索>

2 ユーザを選択して、[決定]ボタンをクリックします。

<キーワードで検索>

3.6.1.3「あかさたな」検索

キーワード検索と同様に、[グループから検索]で選んだグループ（会社・組織、会社・組織［主所属のみ］、パブリックグループ、プライベートグループ）に所属するユーザを、「あかさたな」で分類して表示してくれます。

1 「あかさたな」をクリックします。

このとき、グループのコンボボックスで選択されているグループが検索の対象となり、「あ」であれば、「あ行」のユーザがすべて表示されます。

<ユーザ検索>

2 ユーザを選択して、[決定]ボタンをクリックします。

<「あかさたな」で検索>

3.6.2 会社・組織とパブリックグループの検索

会社や組織の検索には、「ツリー表示」から検索する方法と、会社・組織名で検索する「キーワード検索」が用意されています。パブリックグループの検索も同様の操作です。

3.6.2.1 ツリー表示から検索

会社・組織のツリーを表示して、組織を選択します。

1 [会社・組織検索]からツリー表示アイコンをクリックします。
下部にツリー形式で会社・組織が表示されます。

<会社・組織検索画面>

2 ツリーをたどって、会社や組織を選択し、[決定]ボタンをクリックします。

<会社や組織がツリーで表示される>

3.6.2.2 キーワード検索

[キーワード検索] では、会社・組織のコード、名称などから検索することができます。

1 キーワードを入力後、[検索]アイコンをクリックします。

キーワードは、会社・組織コード、名前で検索できます。検索は部分一致で行われます。

<会社・組織検索画面>

2 選択したい会社・組織を選択して、[決定]ボタンをクリックします。

<キーワードで検索>

3.6.3 プライベートグループの検索

プライベートグループの検索は、「キーワード検索」で行います。プライベートグループにはグループという概念がないので、ツリーからの検索は行えません。

1 キーワードを入力後、[検索]アイコンをクリックします。

キーワードは、グループコード、グループ名で検索できます。検索は部分一致で行われます。

<プライベートグループ検索画面>

2 選択したいプライベートグループを選択して、[決定]ボタンをクリックします。

<キーワードで検索>

3.6.4 ロールの検索

ロールの検索は、カテゴリによる検索と、ロール名で検索する「キーワード検索」が用意されています。また、カテゴリとロール名による複合検索も可能です。

3.6.4.1 カテゴリから検索

ロールがカテゴリに分類されている場合は、カテゴリで検索できます。また、カテゴリと同時にロール名を組み合わせて検索することもできます。

1 [ロール検索]で、カテゴリをコンボボックスから選択し、[検索]アイコンをクリックします。

<ロール検索画面>

2 ロールを選択し、[決定]ボタンをクリックします。
カテゴリに属するすべてのロールが表示されます。

<カテゴリに属するロールが表示される>

3.6.4.2 キーワード検索

[キーワード検索] では、ロール名から検索することができます。また、カテゴリを併用することもできます。

1 キーワードを入力後、[検索]アイコンをクリックします。
キーワードは、ロール名で検索できます。検索は部分一致で行われます。なお、この画面では、カテゴリも併用して検索しています。カテゴリをブランクにすると、全カテゴリが検索対象となります。

<ロール検索画面>

2 選択したいロールを選択して、[決定]ボタンをクリックします。

<カテゴリとロール名で検索>

3.7 ワークフローの設定と操作

intra-martには、ドキュメント型のワークフロー機能が標準で用意されています。ドキュメントワークフローは、申請に対してあらかじめ承認者を設定したルート（プロセスと呼びます）に従って、承認あるいは否認、差し戻しなどを行うワークフローです。これらの申請や承認などの処理を行う部分をタスクと呼びます。これに対して、intra-martのエクステンション・モジュールとして用意されているIM-ワークフローデザイナー（別売）を追加すると、分岐や結合といった複雑な承認のプロセスを利用することができるようになります。さらに、ビジネスプロセスワークフロー（アドバンスド版に同梱）を利用すると、承認、否認だけではなく、あらかじめ設定したプロセスに沿って業務（業務画面）を次の担当者に受け渡すことができ、業務効率を向上することができます。

- IM-ワークフロー機能の詳細と操作に関しては、別冊の「ワークフローガイド」を参照してください。

3.8 ViewCreator

ViewCreatorは、データベースのデータを使用して作成されたさまざまな表やグラフを参照することができるツールです（データの作成はログイングループ管理者が行います）。
表示するだけでなく、データの検索や表示項目の絞込み、並び順の変更などを行うこともできます。また、CSV/HTML形式のファイルとして出力することもできます。

<ViewCreator>

Column

一般ユーザによるクエリ/データ参照の作成

初期設定では、クエリ/データ参照の作成はグループ管理者のみが行えるようになっています。しかし、グループ管理者に必要な権限を設定してもらうことで、一般ユーザもクエリやデータ参照を作成することができるようになります。
権限設定の詳細については、「2.13.1.9 一般ユーザのクエリ/データ参照作成」を参照してください。

3.8.1 データ参照一覧

データ参照メンテナンスでは、指定した既存データベース選択して次の作業を行うことができます。データ参照は、ログイングループ管理者が設定した範囲でデータを参照することができます。また、参照したデータはCSVやHTML形式のファイルに出力することができます。

<データ参照メンテナンス>

データ参照メンテナンスで、ユーザができる操作は次のとおりです。

- データ参照表示
- CSV 出力
- HTML 出力

3.8.1.1 データ参照表示の種別

データ参照表示には次のような種別があります。

■リスト表示

データがリスト表示されます。検索を実行し、絞り込んで表示することもできます。

〈リスト表示〉

■サマリ表示

データがサマリ表示されます。検索を実行し、絞り込んで表示することもできます。

〈サマリ表示〉

■クロス表示

データがクロス表示されます。

● クロス集計は、データ参照の設定やデータ量により、表示に時間がかかることがあります。

<クロス表示>

■グラフ表示

グラフ表示では、データがグラフで表示されます。グラフには次の4種類があります。

■棒グラフ

<棒グラフ>

■折れ線グラフ

<折れ線グラフ>

■円グラフ

<円グラフ>

■レーダーチャート

<レーダーチャート>

3.8.1.2 データ参照表示

選択したデータ参照のデータを検索し、データを表示します。

- 検索できるデータ参照の種別は、「リスト集計」と「サマリ集計」です。
  「クロス集計」と「グラフ集計」のデータ参照は、検索できません。

1 [ViewCreator]メニューから[データ参照メンテナンス]をクリックします。
[データ参照一覧] 画面が表示されます。

<データ参照一覧>

2 データ参照一覧から、参照するデータ参照名をクリックします。

<表示するデータ参照を選択する>

- 表示されるデータ参照画面については、「データ参照表示の種別」を参照してください。

■検索を実行する場合

データ参照の種別が「リスト集計」と「サマリ集計」で、データを絞り込む場合は検索を実行します。

1 [検索]をクリックします。

[データ参照ー検索] 画面が表示されます。

<[検索]をクリックする>

- 検索画面が同一画面で表示する設定になっている場合は、[データ参照]画面の検索結果上部に検索条件が表示されます。

2 表示列を設定します。

<表示列を設定する>

[追加>>]ボタン	検索結果の列に表示する項目を追加します。 左側の一覧から項目を選択し、[追加>>]ボタンをクリックすると、選択した項目が右側の一覧に移動します。
[<<削除]ボタン	検索結果の列から表示する項目を削除します。 右側の一覧から項目を選択し、[<<削除]ボタンをクリックすると、選択した項目が左側の一覧に移動します。
[上へ]ボタン	選択した項目の表示列を1つ上に移動します。 右側の一覧から項目を選択し、[上へ]ボタンをクリックすると、選択した項目が1つ上に移動します。
[下へ]ボタン	選択した項目の表示列を1つ下に移動します。 右側の一覧から項目を選択し、[下へ]ボタンをクリックすると、選択した項目が1つ下に移動します。

- データ参照の種別が「リスト集計」で、「表示カラム設定」の設定が「グループ化」の項目は削除できません。表示カラム設定については、「2.13.2.1 データ参照の新規作成」を参照してください。

3 検索条件を設定します。

<検索条件を設定する>

● 表示される検索項目は、ログイングループ管理者が設定した項目です。

4 [表示]ボタンをクリックします。

[データ参照（リスト）] 画面に戻り、検索結果が表示されます。

<検索を実行する>

3.8.1.3 CSV出力

現在表示されているデータをCSV形式のファイルに出力します。

1 データ参照一覧から、参照するデータ参照名をクリックします

［データ参照（リスト）］画面が表示されます。

- 検索を実行した場合、表示されている結果のみCSV出力されます。検索手順については、「3.8.1.2 データ参照表示」の「検索を実行する場合」を参照してください。

2 ［CSV出力］をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

<CSV出力する>

- 現在表示されているデータがCSV出力されます。

3 ［はい］ボタンをクリックします。

出力するファイルにヘッダ情報を含むか確認のメッセージが表示されます。

4 ヘッダ情報を含む場合は［はい］ボタン、含まない場合は［いいえ］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

5 ［保存］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

6 ファイルの保存場所を指定し、［保存］ボタンをクリックします。

ファイルがCSVファイルで出力されます。

3.8.1.4 HTML出力

検索結果をHTML形式のファイルに出力します。

1 データ参照一覧から、参照するデータ参照名をクリックします

［データ参照（リスト）］画面が表示されます。

- 検索を実行した場合、表示されている結果のみHTML出力されます。検索手順については、「3.8.1.2 データ参照表示」の「検索を実行する場合」を参照してください。

2 ［HTML形式で出力］をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

<HTML出力する>

- 現在表示されているデータがHTML出力されます。

3 ［はい］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

4 ［保存］ボタンをクリックします。

ファイルを保存するか確認のメッセージが表示されます。

5 ファイルの保存場所を指定し、［保存］ボタンをクリックします。

ファイルがHTMLファイルで出力されます。

- ファイルダウンロードのダイアログで「開く」ボタンをクリックすると、ブラウザの「戻る」をクリックしても元の画面に戻れませんのでご注意ください。

3.9 TableMaintenance

TableMaintenanceでは、データベース上の既存のテーブルに対してレコードの新規登録・更新・削除を行うことができます。データベースを使用したアプリケーションを作成した際に必要になることの多いマスタメンテナンスの機能を簡単な設定操作のみで、簡易的に実現することができます。
ログイングループ管理者が設定したメンテナンスを行うテーブルに対して、一般ユーザはデータの新規登録、更新、削除が行えます。

データの編集	管理者からアクセス権を与えられたユーザは、テーブルのデータの追加・更新・削除が行えるようになります。

< TableMaintenanceの概念>

- **一般ユーザによるTableMaintenanceの操作**
  一般ユーザがTableMaintenanceの各メニューを操作するには、グループ管理者に必要な権限を設定してもらう必要があります。

3.9.1 テーブルにデータを追加する

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧（一般ユーザ用）] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧(一般ユーザ用)]画面>

2 [テーブル一覧(一般ユーザ用)]画面で、テーブル表示名をクリックします。

<テーブル表示名をクリックする>

［テーブル参照］画面が表示されます。

<[テーブル参照]画面>

3 ［テーブル参照］画面で、［新規登録］アイコンをクリックします。

［テーブル編集］画面が表示されます。

<[テーブル編集]画面>

4 各カラムに入力したら、[登録]ボタンをクリックします。
画面上部に「登録しました」と表示されます。

<[テーブル編集]画面>

3.9.2 テーブルのデータを編集する

1 [テーブル一覧(一般ユーザ用)]画面が表示されます。

<[テーブル一覧(一般ユーザ用)]画面>

2 [テーブル一覧(一般ユーザ用)]画面で、テーブル表示名をクリックします。

<テーブル表示名をクリックする>

［テーブル参照］画面が表示されます。

<[テーブル参照]画面>

3 ［テーブル参照］画面で、データを編集したレコードの ［編集］アイコンをクリックします。
［テーブル編集］画面が表示されます。

<[テーブル編集]画面>

4 各カラムの内容を編集したら、［更新］ボタンをクリックします。
画面上部に「更新しました」と表示されます。

<[テーブル編集]画面>

3.9.3 テーブルのデータを削除する

1 [TableMaintenance]メニューから[テーブル一覧]をクリックします。
[テーブル一覧（一般ユーザ用）] 画面が表示されます。

<[テーブル一覧(一般ユーザ用)]画面>

2 [テーブル一覧(一般ユーザ用)]画面で、テーブル表示名をクリックします。

<テーブル表示名をクリックする>

［テーブル参照］画面が表示されます。

<[テーブル参照]画面>

3 ［テーブル参照］画面で、データを編集したレコードの ［編集］アイコンをクリックします。
［テーブル編集］画面が表示されます。

<[テーブル編集]画面>

4 内容を確認後、［削除］ボタンをクリックします。
データが削除されます。

3.10 イベントナビゲータの利用

管理者が用意したイベントナビゲータは、イベントナビゲータ自身が持つアクセス権とマッチするユーザの［ナビゲータタイトル一覧］画面に表示されます。ユーザは、任意のイベントナビゲータのタイトルをクリックして、表示された質問に回答するだけで、処理すべき画面にたどりつくことができます。

<イベントナビゲータの概要>

3.10.1 イベントナビゲータを実行する

［イベントナビゲータ］の［質問画面］メニューで表示される［ナビゲータタイトル一覧］画面には、管理者が用意して、ログインしたユーザがアクセスすることができるイベントナビゲータが表示されています。

1 ［イベントナビゲータ］の［質問画面］をクリックします。
［ナビゲータタイトル一覧］画面が表示されます。

<［ナビゲータタイトル一覧］画面>

2 表示されているイベントナビゲータの一覧から、任意のタイトルをクリックします。
ナビゲータの質問画面が表示されます。

<［質問画面］の例>

3 表示される質問に対して、用意されている回答欄から回答を選択します。

<［質問画面］の例>

4 ナビゲータに従って、次々に質問が表示されまので、同様に用意されている回答欄から回答を選択します。画面下部には、質問と回答履歴が表示されています。

<[質問画面]の例>

5 結果画面が表示されると「リンク一覧」欄に申請書などの結果画面のリンクが表示されます。クリックすると、それぞれの画面に遷移します。

<ナビゲート結果画面が表示される>

6 ナビゲート結果画面の[保存]ボタンをクリックすると、履歴を保存する[ナビゲート結果保存]画面に遷移します。タイトルを確認して、[登録]ボタンをクリックします。

<[質問画面]の例>

7 ナビゲート結果を保存すると、[ナビゲート管理画面(お気に入り)]画面に遷移します。
画面下部には、これまでの質問と回答履歴が表示されています。
[ナビゲート管理画面(お気に入り)]画面に関しては、次の「3.10.2 お気に入り一覧」を参照してください。

<[ナビゲート管理画面(お気に入り)]画面>

3.10.2 お気に入り一覧

［お気に入り一覧］には、［質問画面］で実行して、結果画面で保存を実行した画面が登録されています。

<［お気に入り一覧］画面>

［履歴］アイコン	［履歴一覧］画面に遷移します。
タイトル［検索］ボタン	タイトル欄に検索する文字列を入力して、［検索］アイコンをクリックします。部分一致で登録されているお気に入りが検索されます。
［削除］アイコン	該当する行のお気に入りを削除することができます。
［編集］アイコン	該当する行のお気に入りのタイトルとコメントを編集することができます。
タイトル	ナビゲーションの結果画面が表示されます。この画面のリンク一覧から、それぞれの画面に遷移することができます。

3.10.3 履歴一覧

［履歴一覧］には、［質問画面］で実行した結果が履歴として保存されています。この画面に履歴として保存される件数は、［設定画面］で変更することができます。

<［履歴一覧］画面>

［お気に入り］アイコン（ツールバー）	［お気に入り］画面に遷移します。

[設定]アイコン	[設定画面]に遷移します。
[削除]アイコン	該当する行の履歴を削除することができます。
[お気に入り]アイコン(履歴内)	該当する行の履歴をお気に入りに登録することができます。
タイトル	ナビゲーションを実行した結果画面が表示されます。この画面のリンク一覧から、それぞれの画面に遷移することができます。

3.10.4 履歴表示件数の管理

[履歴一覧] には、[質問画面] で実行した結果が履歴として保存されていますが、この画面に履歴として保存される件数を任意に設定することができます。

<[設定画面]>

[履歴]アイコン	[履歴一覧]画面に遷移します。
履歴表示件数	[履歴一覧]画面に表示する件数を入力します。
[登録]アイコン	入力した履歴表示件数を登録します。

3.11 携帯端末の利用

intra-martでは、携帯端末からのアクセスに対応したアプリケーションを作成することができます。
携帯端末用の画面からログインするには、次のようなURL（標準設定の場合）でアクセスします。

```
http://intramart/imart/(ログイングループID).mobile
```

携帯端末からログインするには、ログインユーザIDとログイングループ管理者が初期に設定した「モバイルパスワード」を使用します。この管理者から与えられたモバイルパスワードは、ブラウザから、あるいは携帯端末からintra-martにログインしてから、各ユーザが変更することができます。

3.11.1 ブラウザでログインしてモバイルパスワードを変更する

ログイングループ管理者が発行する初期のモバイルパスワードは、ユーザの画面から自由に変更することができます。設定は、［ユーザ設定］の［モバイルパスワード変更］で行います。

<モバイルパスワードの変更画面>

3.11.2 携帯端末でログインしてモバイルパスワードを変更する

ログイングループ管理者が発行する初期のモバイルパスワードは、携帯端末からも自由に変更することができます。

1 ユーザIDとモバイルパスワードを入力し、[login]を選択します。

2 ログインしたら、[ユーザ設定]メニューを選択します。

3 [モバイルパスワード設定]を選択します。

4 [現在のパスワード]と[新しいパスワード]そして、[新しいパスワード(確認)]の欄に入力して、[OK]を選択します。

5 パスワードの更新に成功すると、「パスワードを変更しました」というメッセージが表示されます。

3.11.3「かんたんログイン」の設定をする

「かんたんログイン」とは、携帯端末固有の「携帯電話識別情報」を送信してログインする機能です。携帯端末の画面から設定することができます。また、設定の解除のみ、ブラウザ画面から行うこともできます。

6 ユーザIDとモバイルパスワードを入力し、[login]を選択します。

7 ログインしたら、[ユーザ設定]メニューを選択します。

8 [モバイルパスワード設定]を選択します。
([かんたんログイン設定]を選択しても同じ画面に遷移します)

9 [かんたんログイン設定]画面で、[設定]ボタンを選択します。

10 携帯電話情報の送信確認画面で、[はい]ボタンを選択します(NTT DoCoMoの場合)。

11 かんたんログインの設定に成功すると、かんたんログイン用ログインページのURLが表示されます。

このURLを携帯電話のブックマーク等に保存してください。このURLにアクセスすることで、以降は簡単にログインすることができます。

かんたんログイン用ログインページのURLは、ブラウザ画面で確認することも可能です。

3.11.3.1「かんたんログイン」でログインする

「かんたんログイン」では、以下のように操作してログインします。

12 かんたんログイン用ログインページのURLにアクセスします。

13 [ログイン]画面で、何も入力せずに「かんたんログイン[login]」ボタンを選択します。

14 携帯電話情報の送信確認画面で、[はい]ボタンを選択します(NTT DoCoMoの場合)。

以上の操作でintra-martにログインすることができます。

Column

かんたんログインの注意点

かんたんログイン機能では、モバイル端末個体識別番号での認証に加え、かんたんログイン用ログインページのURLに自動的に付加したアクセスキーとiWP/iAFで保持しているアクセスキーでの認証が行われます。

モバイルパスワードを変更すると、アクセスキーも変更されます。これにより、以前アクセスしていた古いアクセスキー付き URLではログインできないようになります。

定期的にモバイルパスワードを変更されない場合は、携帯電話に保存した URLから、かんたんログインが可能ですので、かんたんログイン用ログインページのURLを他人に知られないようご注意ください。

3.11.3.2 ブラウザ画面で設定を解除する

ブラウザ画面で設定されているかんたんログイン設定を解除することができます。

- intra-martのモバイル機能は、以下の条件を満たす携帯端末で利用することができます。
  1 下記のいずれかのキャリアの携帯端末であること
  NTT DoCoMo、SoftBank、au
  2 「第3世代携帯電話」または「第3.5世代携帯電話」と呼ばれている携帯端末
  3 XHTMLをサポートしている携帯端末

Column

携帯電話固有の携帯電話情報とは

かんたんログインで使用している携帯電話固有の携帯電話識別情報は、携帯電話キャリアごとに異なる呼び方をしています。

●NTT DoCoMo

個体識別情報と呼ばれています。携帯電話の製造番号、およびFOMAカード識別番号が含まれています。上記手順にもあるように、送信前にかならず確認の画面が表示されます。

●SoftBank

端末シリアル番号と呼ばれています。この番号を送信させるには、携帯電話の設定で送信を許可するようにしておく必要があります。

●au

サブスクライバIDと呼ばれています。この番号を送信させるには、携帯電話の設定で送信を許可するようにしておく必要があります。

3.11.4 外出設定をする

intra-martから送信されるメールは、通常時はユーザ管理マスタメンテナンスで登録したメールアドレスに送信されます。［ユーザ設定］の［外出設定］で「外出」に設定しておくと、通常のメールアドレスに送信すると同時に、携帯端末用メールアドレスにも送るように設定することができます。
（なお、この機能を利用するには、IMアプリケーションが対応している必要があります）

<外出設定>

intra-mart WebPlatform/
AppFramework

第4章 Appendix

4.1 メンテナンス画面の文字入力制限

intra-martの各メンテナンス画面における文字の入力制限について説明します。

4.1.1 入力文字制限パターンの種類

intra-martの各メンテナンス画面の入力文字制限には、次のようなパターンがあります。以降の「適用フィールド」の説明では、入力項目のあとに、「入力文字制限パターンx」と記載しています。

4.1.1.1 ID、コード、パスワード系のフィールド(入力文字制限パターン1)

半角英数字と一部の半角記号のみ入力可能です。

■条件

半角数字(0-9)
半角英字(a-z A-Z)
文字'_'(0x5f)
半角ハイフォン(-)
半角アットマーク(@)
半角ピリオド(.)
半角プラス(+)
半角エクスクラメーション(!)

- 全角英数字と全角アンダースコアは半角に自動変換します。

4.1.1.2 パスワードフィールド(入力文字制限パターン2)

半角英数字と一部の半角記号のみ入力可能です。

■条件

半角数字(0-9)
半角英字(a-z A-Z)
文字'_'(0x5f)
半角ハイフォン(-)
半角アットマーク(@)
半角ピリオド(.)
半角プラス(+)
半角エクスクラメーション(!)
半角シャープ(#)
半角ドル記号($)
半角スラッシュ(/)

4.1.1.3 URL、メールアドレスフィールド（入力文字制限パターン3）

可視文字すべて（スペース以外*1）入力可能です。

■条件

コントロールコード(0x00-0x1f,0x7f)を除く
スペース(0x20)を除く
日本語等のWバイト文字も入力可能

- *1：日本語ドメインが存在するため、半角、英数字チェックはしていません。

4.1.1.4 色コード設定フィールド（入力文字制限パターン4）

半角数字と半角英字A～Fまでの半角英字を入力可能です。

■条件

半角数字(0-9)
半角英字(a-fA-F)

4.1.1.5 値入力フィールド（ソートキー等）（入力文字制限パターン5）

数字のみ入力可能です。

■条件

半角数字(0-9)のみ
日本語等のWバイト文字を除く

4.1.1.6 名称や備考など（入力文字制限パターン6）

キーボードから入力可能な文字すべて入力可能です。

■条件

コントロールコード(0x00-0x1f,0x7f)を除く
スペース(0x20)も入力可能
日本語等のWバイト文字も入力可能

4.1.1.7 商品コード系のフィールド（入力文字制限パターン7）

半角英数字、ハイフン、アンダースコアのみ入力可能です。

■条件

半角数字(0-9)
半角英字(a-zA-Z)
文字'_'(0x5f)
半角ハイフォン(-)

4.1.1.8 補足事項

■コントロールコード

「コントロールコード」とは、下記の文字を意味しています。

0x00～0x1fの範囲に含まれる文字

文字 0x7f(Delete)

- これらは、ディスプレイに表示できず、コンソールに出力するとビープ音が出力される文字です。

4.1.2 適用フィールド

4.1.2.1 バッチ設定

バッチID	→	入力文字制限パターン1

4.1.2.2 カレンダー設定

カレンダーID	→	入力文字制限パターン1
データID	→	入力文字制限パターン1
データ名	→	入力文字制限パターン1
表示色	→	入力文字制限パターン4

4.1.2.3 分類設定

分類コード	→	入力文字制限パターン1
ソートキー	→	入力文字制限パターン5

4.1.2.4 ログイングループ設定

ログイングループID	→	入力文字制限パターン1
ユーザID	→	入力文字制限パターン1
パスワード	→	入力文字制限パターン2
パスワード（確認）	→	入力文字制限パターン2
ページパターンID	→	入力文字制限パターン1
ページURL	→	入力文字制限パターン3
ページイメージURL	→	入力文字制限パターン1
メールアドレス	→	入力文字制限パターン3

4.1.2.5 役職設定

役職コード	→	入力文字制限パターン1
ソートキー	→	入力文字制限パターン5

4.1.2.6 会社設定

会社コード	→	入力文字制限パターン1
組織コード	→	入力文字制限パターン1
メールアドレス1	→	入力文字制限パターン3
メールアドレス2	→	入力文字制限パターン3
URL	→	入力文字制限パターン3
ソートキー	→	入力文字制限パターン5

4.1.2.7 パブリックグループ設定

グループセットコード	→	入力文字制限パターン1
グループコード	→	入力文字制限パターン1
ソートキー	→	入力文字制限パターン5

4.1.2.8 ロール設定

ロールID	→	入力文字制限パターン1
ロール名	→	入力文字制限パターン1
カテゴリ	→	入力文字制限パターン1

4.1.2.9 システム管理者設定

ユーザID	→	入力文字制限パターン1
パスワード	→	入力文字制限パターン2
パスワード（確認）	→	入力文字制限パターン2
メールアドレス	→	入力文字制限パターン3

4.1.2.10 アカウント設定

ユーザコード	→	入力文字制限パターン1
パスワード	→	入力文字制限パターン2
確認パスワード	→	入力文字制限パターン2
モバイルパスワード	→	入力文字制限パターン2
確認モバイルパスワード	→	入力文字制限パターン2
メールアドレス1	→	入力文字制限パターン3
メールアドレス2	→	入力文字制限パターン3
携帯メールアドレス	→	入力文字制限パターン3
URL	→	入力文字制限パターン3
ソートキー	→	入力文字制限パターン5

4.1.2.11 管理メニュー設定

URL	→	入力文字制限パターン3

4.1.2.12 メニュー設定

メニューID	→	入力文字制限パターン1

4.1.2.13 商品設定

商品コード	→	入力文字制限パターン7
商品型番	→	入力文字制限パターン7
販売単価	→	入力文字制限パターン5
仕入単価	→	入力文字制限パターン5

4.1.2.14 商品テンプレート設定

テンプレートコード → 入力文字制限パターン1

4.1.2.15 商品カテゴリ設定

商品カテゴリコード → 入力文字制限パターン1
ソートキー → 入力文字制限パターン5

4.1.2.16 商品取扱設定

取扱コード → 入力文字制限パターン1
単価 → 入力文字制限パターン5
数量 → 入力文字制限パターン5
仕入単価 → 入力文字制限パターン5

4.1.2.17 ViewCreator – データ参照メンテナンス

データ参照CD → 入力文字制限パターン1

G

Google ガジェット 170

I

IM-Administrator
- 8.9 Http サーバ 33
- HttpSession 48
- JavaVM 35
- LDAP 49
- Server Manager のろぐ 30
- Service Platform 29, 32
- Service Platform のログ 33
- ラウンドロビン機能 47

N

Null 値の出力 258

T

TableMaintenance 259, 343

あ

アクセスコントローラ 88
アクセスセキュリティ
- インポート 92
- エクスポート 93
- 標準実装 94

アプリケーション
- 共通マスタインポート 141
- 登録 106
- 登録の操作 107
- フォルダとページ 106

い

一般ユーザ
- カラーパターン設定 299
- パスワードの変更 293
- プライベートグループ 317
- ホーム画面 297
- メインページパターン設定 298
- メニュー構成 296
- ログアウト 293
- ログイン 292
- ログイン画面なしで自動認証する 294
- ロケール設定 298

イベントナビゲータ 277, 350
- インポート 289
- エクスポート 289
- お気に入り一覧 354
- 履歴一覧 354
- 履歴表示件数の管理 355

か

会社・組織とパブリックグループの検索 325
カレンダー
- カレンダー設定 189
- カレンダー設定の新規追加 191
- カレンダーデータの追加 189

監視サーバの設定 34
かんたんログイン 358

き

期間の設定 81
IM-Administrator
- 起動と終了 28

起動と終了 10

け

携帯端末 293, 356
検索基準日 321
検索属性 127, 142
検索の操作 321

こ

公開ゾーン 127, 142
IM-AdministratorIM-Administrator
- コマンドによるサーバの制御 45

し

システム管理者
- imart.xml 53
- init.js 53
- 監視ツール 28
- 管理メニュー設定 10
- システム管理者設定 10, 18
- データベース操作 57
- ファイル操作 56
- ページカラーパターン 21
- ホーム画面 12
- メインページパターン 21
- メニュー 12
- ライセンス 19
- ライセンス管理 10
- ログアウト 12
- ログイン 11

ログイングループ ID 20
ログイングループ管理 10
ログイングループの設定 20
ログイングループライセンス数 20
ログ出力 54
システム管理者システム管理者の業務 10
商品マスタ
インポート 161
期間化 144
商品カテゴリ設定 152
商品設定 146
商品属性情報 145
商品テンプレート設定 150
テンプレート 145
特徴 144
取扱情報 146
分類と管理 145
ショートカットアクセス機能 294

そ

組織
親組織を指定して部署を移動する 121
会社一覧 111
会社の削除 136
会社の新規登録 113
会社の属性登録 115
期間管理 109
現組織構成期間の変更 117, 122
社員の登録 133
新規に組織構成を作成する 117
新組織構成期間の登録 118
設定 108
組織一覧 112
組織構成の期間 109
組織構成の削除 125
組織設定画面 111
組織設定時のメッセージ一覧 137
部署の一部の情報だけの更新 130
部署の期間 109
部署の削除 136
部署の属性登録 116, 126
部署の登録 115
部署の登録または移動 124
メンバーの登録 133
役職の設定 138
役職の登録 135
□ 組織構成期間のコピー 123

て

データベース
データベース設定 17
データベース接続設定 10

に

2 重ログイン防止機能 15, 63, 295

は

IM-Administrator
パスワード 30
パスワード
履歴管理 13
パスワード
パスワードの履歴管理 294
パスワード
モバイルパスワード設定 356
パスワード
モバイルパスワード設定 356
パスワード
モバイルパスワード設定 360
バッチ管理
起動と停止 188
バッチプログラムの作成と登録 186
IM-Administrator
8.12 パフォーマンス表示 42
パフォーマンス表示 32
パブリックグループ 141

ひ

ビュークリエイター 192, 332
ビュークリエイター
CSV 出力 244, 341
HTML 出力 245, 342
SQL の表示 251
SQL の表示 211
View の作成 212
クエリのコピー 208
クエリの削除 210
クエリの新規作成 194
クエリの編集 207
クエリメンテナンス 193
グラフ集計 230
グラフ表示 335
クロス集計 229
クロス表示 335
結合したテーブルの解除 205
権限設定 246
サマリ集計 227

サマリ表示 334
条件句を追加する 214
ソースの出力 236
データ参照一覧 333
データ参照の削除 233
データ参照の新規作成 220
データ参照の編集 232
データ参照表示 241, 337
データ参照表示の種別 237, 334
データ参照メンテナンス 219
データベースの設定 194
テーブルサイズの変更 206
テーブルの結合方法 204
テーブルの操作 203
テーブルまたはビューを絞り込む 197
テーブルを消す 206
テーブルを結合する 203
ビュークリエイターの概要 192
プレビュー 215, 252, 256, 257, 258
ポートレットに追加 234
リスト集計 223
リスト表示 334
標準承認期限 183

ふ

プライベートグループ 317
新規登録と編集 317
プライベートグループの検索 327

ほ

ポータル
アクセス権設定 168
アプリケーションに付属のポートレット 164, 306
会社・組織で情報を共有するグループポータル 176
カスタムレイアウト 174, 309
簡易SSO 315
種類と作成メニュー 163
全ログイングループに公開するグローバルポータル 172
組織内ポータル 311
表示順序の変更 314
標準で提供されるポートレット 164, 306
ページの種別 166
ポータル機能 304
ポータル機能概要 162
ポータルの種類 305
ポートレット 162
ポートレットのキャッシュ機能 165
ポートレット用ページの作成 165
ホーム画面に表示されるポータル 164, 306
メニューリンクの作成 182
ユーザポータルの作成 307
リンク集の作成 ii, 179
ログイン画面に表示されるポータル 163, 305

ま

マイメニュー
アイコン選択 303
設定 301
マイメニューとは 301
マルチデータベース 17

め

メニュー
更新と削除 103
新規フォルダの作成 96
新規ページの作成 99
表示順の変更 103
メニュー設定 96
ロール別表示 104
IM-Administrator
メニューの説明 29
メニューフォルダ表示 299
メンテナンス画面の文字入力制限 362

ゆ

ユーザ
アカウントロック 78
アプリケーションロール 79
外出フラグ 78
所属組織 85
登録 76, 87
プロファイル情報 80
ページカラーパターン 80
メインページパターン 80
ロール 79
ログイン失敗回数 78
ユーザの検索 322

ら

IM-Administrator
ラウンドロビン 31

ろ

ロール
カテゴリ 74
サブロール 74
設定 74
ロール別アカウント一覧 86

ロールの検索 328
IM-Administrator
Server Manager ログ 30
ログイン
アカウントロック回数 21, 66
アカウントロック期間 21, 66
ログイングループ
アクセス権設定 25
管理メニュー設定 24
フォルダの作成 24
フォルダやページの表示順 26
ページの作成 25
ログイングループの追加 22
ログイングループライセンス 23
ログイングループ管理者
アカウントライセンス 69
アクセスセキュリティ 73, 106
アプリケーションロール 71
業務 60
設定 66
ページカラーパターンの変更方法 65
ホーム画面 62
ログアウト 62
ログイン 60

わ

ワークフロー 297

intra-mart WebPlatform/AppFramework　Ver. 6.1　アドミニストレータガイド

2010年7月　第11版

株式会社 NTTデータ イントラマート
〒107-0052　東京都港区2-17-22 赤坂ツインタワー本館
TEL(03)5549-2821　FAX(03)5549-2816
E-mail:info@intra-mart.jp
ホームページ:http://www.intra-mart.jp
Copyright 2000-2010 株式会社NTTデータ イントラマート All rights Reserved.

※本マニュアルに記載されている社名および商品名は、一般に各社の商標および登録商標です。